DSP AVアンプ

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

DSP-AX1600

スタートアップガイド

本機を使用するにあたって必要な準備と基本的な使用方法について説明しています。

ヤマハDSP AVアンプDSP-AX1600をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■ 本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■ 保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

警告 この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

注意 この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

警告

電源/電源コード

必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。

プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 異常なにおいや音がする。
- 煙が出る。
- 内部に水や異物が混入した。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

禁止

電源コードを傷つけない。

- 重いものを上に載せない。
- ステープルで止めない。
- 加工をしない。
- 熱器具には近づけない。
- 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

必ず実行

必ずAC100V(50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

禁止

本機のACアウトレットに、指定された供給電力を超えた機器を接続しない。また、供給電力内であっても電熱器・ドライヤー・電子調理器等は接続しない。

火災の原因になります。

電池

禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

分解禁止

分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置

水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

- 浴室・台所・海岸・水辺
- 加湿器を過度にきかせた部屋
- 雨や雪、水がかかるところ

水の混入により、火災や感電の原因になります。

(AV-1)

禁止

放熱のため本機を設置する際には：

- **布やテーブルクロスをかけない。**
- **じゅうたん・カーペットの上には設置しない。**
- **仰向けや横倒しには設置しない。**
- **通気性の悪い狭いところへは押し込まない。**

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

使用上の注意

禁止

放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。

火災や感電の原因になります。

必ず実行

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

接触禁止

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。

禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

必ず実行

スピーカーターミナルレンチは小さなお子様の手の届かないところに保管する。

小さなお子様があやまって飲むおそれがあります。

手入れ

必ず実行

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠ 注意

電源/電源コード

必ず実行

必ず付属の専用電源コードを使用する。

専用電源コード以外の使用は、火災や感電の原因になります。

プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因になります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因になります。

禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。

禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱および火災の原因になります。

電池

必ず実行

電池は極性表示（プラス＋とマイナス－）に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置

必ず実行

必ず2人以上で開梱や持ち運びをする。
重いので、けがの原因になります。

禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

禁止

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばなど）には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。

禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

必ず実行

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。
本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

必ず実行

屋外アンテナ工事は販売店に依頼する。
工事には、技術と経験が必要です。

移動

プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上の注意

必ず実行

電源を入れる前や、再生を始める前には、アンプの音量（ボリューム）を最小にする。
突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

禁止

音が歪んだ状態で長時間使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

禁止

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。

注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。
正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

禁止

業務用機器とは接続しない。
デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

手入れ

必ず実行

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。
感電の原因になります。

禁止

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店に依頼する。
ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因になります。

もくじ

はじめに

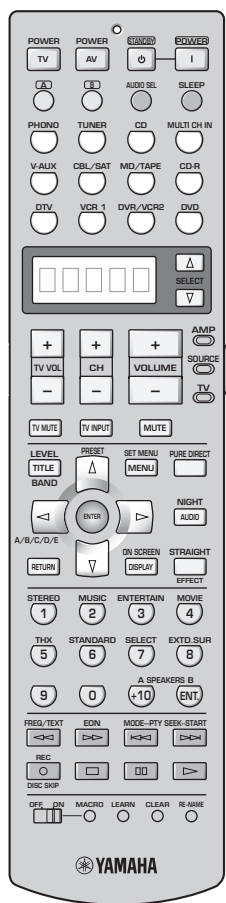
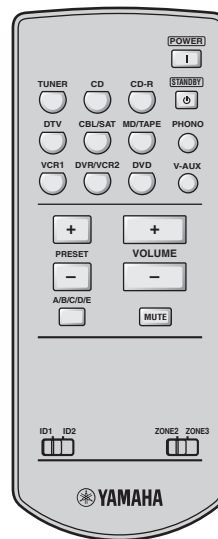
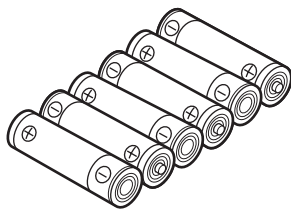
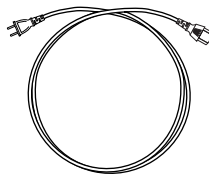
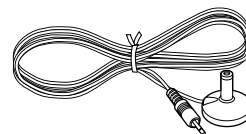
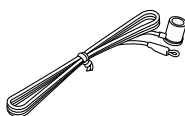
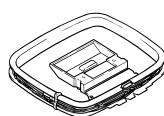
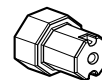
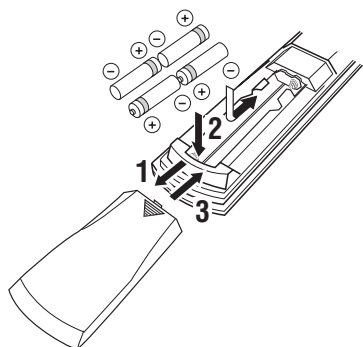
接続する

接続が終わったら

再生のしかた

付属品を確認する

ご使用の前に付属品を確認してください。

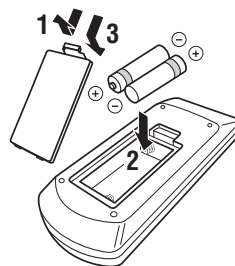
リモコン

ゾーンリモコン

単4マンガン乾電池×6本

電源コード

オプティマイザーマイク

FM簡易アンテナ

AMループアンテナ

スピーカーターミナルレンチ

リモコンに乾電池を入れる

1 **裏ぶたの ▽ マークを押しながら、電池カバーを取りはずす**

2 **付属の単4乾電池(4本)を、リモコンの電池ケース内の表示にあわせて、プラス(+)とマイナス(−)の向きを間違えないように、正しく入れる**

3 **裏ぶたを閉じる**

ご注意

- リモコンで操作しづらくなったり、キーを押してもトランスミッションインジケーター(リモコン正面最上部のインジケーター)が光らなかったりディスプレイが見づらくなった場合は、乾電池が消耗しています。このような場合は、すべての乾電池を新しいものに変えてください。
- 新しい乾電池と、古い乾電池を混ぜて使わないでください。
- 乾電池には、形状が同じでも性能が異なるものがあります。種類の異なる乾電池(アルカリとマンガンなど)を混ぜて使わないでください。
- 使い切った乾電池は、すぐに電池ケースから取り出してください。乾電池が破裂したり、乾電池から液が漏れることがあります。
- 乾電池が液漏れした場合は、液に触れないよう注意して廃棄してください。液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいに拭いてください。
- 乾電池を一般のゴミといっしょに捨てないでください。地域のきまりに従って正しく処置してください。
- 電池を外したまましばらく(2分以上)放置したり、消耗した乾電池をそのまま入れておくと、リモコンに設定したリモコンコードなどのメモリー内容が消えてしまうことがあります。このような場合は、乾電池を新しいものに交換して、リモコンコードを設定しなおしてください。

ゾーンリモコンに乾電池を入れる

1 **裏ぶたのツマミを引きながら、電池カバーを取りはずす**

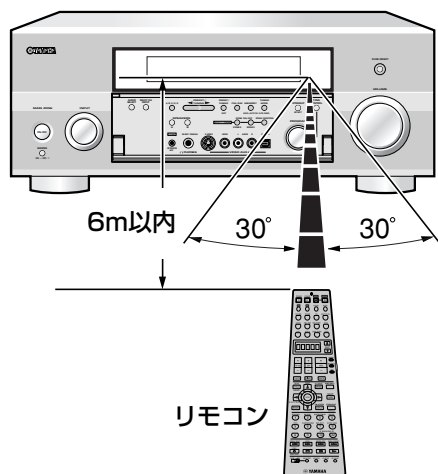
2 **付属の単4乾電池(2本)を、リモコンの電池ケース内の表示にあわせて、プラス(+)とマイナス(−)の向きを間違えないように、正しく入れる**

3 **裏ぶたを閉じる**

ヒント

ゾーンリモコンはゾーン2/ゾーン3で使用します。詳しくは「取扱説明書」46ページをご参照ください。

リモコンの取り扱い

リモコンは直進性の強い赤外線を使用しています。本体のリモコン受光窓に向けて正しく操作してください。

ヒント

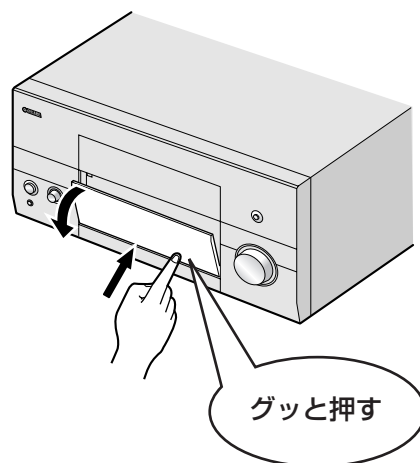
リモコンでうまく操作ができないときは、以下のことを確認してください。

- 本体のリモコン受光窓が、布などで覆われていませんか？
  →布などを取り除いてください。
- 本体のリモコン受光窓に、直射日光や強い照明(インバーター蛍光灯など)が当たっていませんか？
  →照明の向きを変えるか、本体を置く場所を変えてください。
- 乾電池が消耗していませんか？
  →すべての電池を新しいものに変えてください。

ご注意

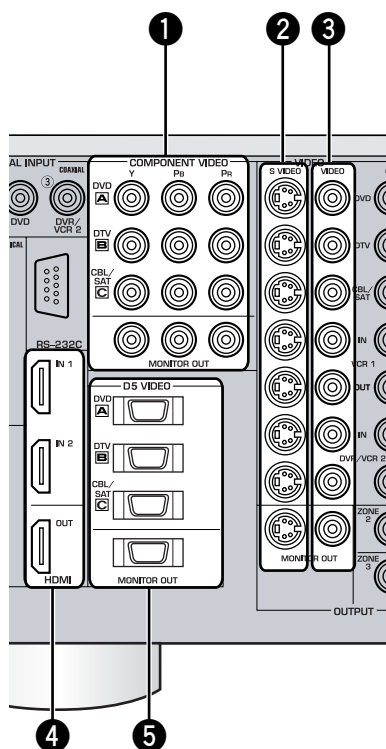
- リモコンに水やお茶をこぼさないでください。
- リモコンを落とさないでください。
- 冷暖房器具のそばなど、極端に温度が低くなったり高くなるところや、風呂場など、湿度が高くなるところには置かないでください。

コントロールパネルの開閉

コントロールパネルの中にあるスイッチやキーを使うときは、パネルの下の部分を押すと、パネルが開きます。コントロールパネルの中にあるスイッチやキーを使わないときは、パネルを閉めておきます。

接続の基礎知識

本機に装備されているビデオ端子、デジタル音声端子、映像信号と音声信号を同時に伝送するHDMI端子について、種類や役割を説明します。

ビデオ端子について

本機は5種類のビデオ端子を装備しています。

❶ コンポーネントビデオ端子

コンポーネントビデオ信号を伝送します。
コンポーネントビデオ入出力端子がある機器を接続すれば、ビデオ端子(❸)またはSビデオ端子(❷)よりも高画質な映像を再生できます。

❷ Sビデオ端子

Sビデオ信号を伝送します。
Sビデオ入出力端子がある機器を接続すれば、ビデオ端子(❸)よりも高画質な映像を再生できます。

❸ ビデオ端子

コンポジットビデオ信号を伝送します。

❹ HDMI端子

HDMI IN1/IN2から入力したHDMI映像信号を、HDMI OUT端子に伝送します。
HDMI入出力端子がある機器を接続すれば、すべてのビデオ端子の中で最も高画質な映像を再生できます。
音声信号も同時に伝送します。

❺ D5ビデオ端子

コンポーネントビデオ信号とコントロール信号(走査線、アスペクト比などの情報)を伝送します。

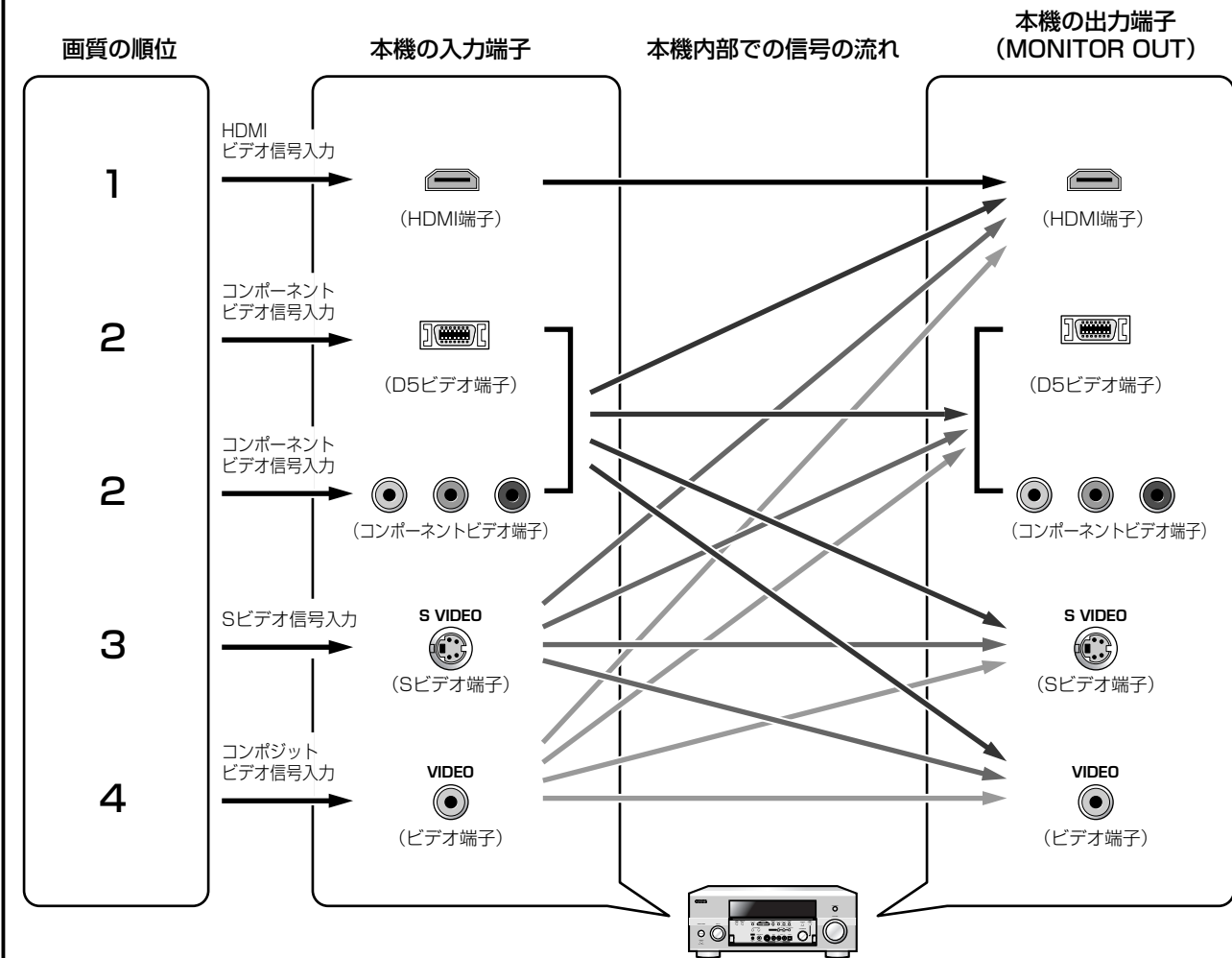
ヒント

- 最良の画質でお楽しみいただくために、なるべく画質のよい端子を使って接続してください。
- コンポーネントビデオ、Sビデオ、ビデオ端子に同時に信号が入力されている場合は、コンポーネントビデオ、Sビデオ、ビデオ信号の順に入力信号が優先されます。
- コンポーネントビデオ出力(MONITOR OUT)端子とD5ビデオ出力(MONITOR OUT)端子は同時に使うことができます。例えば、コンポーネントビデオ出力端子にプロジェクターを、D5ビデオ出力端子にテレビを接続して、同じ映像を両方でお楽しみいただけます。

ご注意

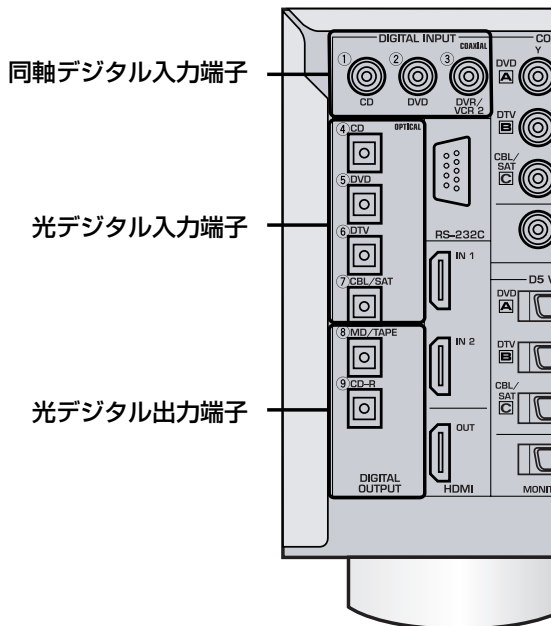
- 同じ機器名が書かれたコンポーネントビデオ入力端子とD5ビデオ入力端子の両方を同時に接続することはできません(例：❶のDVD A と❺のDVD A 端子)。お使いになる機器を確認のうえ、どちらか片方を接続してください。
- D5ビデオ端子を使って接続する場合は、お使いの再生機器とテレビのD端子をご確認のうえ、D端子の規格(D1～D5)を合わせてください。
- 本機のSビデオ端子はS1/S2規格には対応していません。

ビデオコンバージョン機能

セットメニュー「DISPLAY SET」の「V CONV.」(「取扱説明書」64ページ)を「ON」に設定すると、HDMI端子を除くすべての種類のビデオ入力端子(D5、コンポーネント、S、ビデオ)へ入力した信号を、HDMI端子を含むすべての種類のビデオ出力端子(HDMI、D5、コンポーネント、S、ビデオ)から出力することができます。これにより、入力端子と出力端子の種類の違いを気にすることなく、映像を楽しむことができます。(例:ビデオ入力端子に接続したDVDプレーヤーの映像を、HDMI出力端子に接続したテレビで楽しむことができます。)また、「CMPNT I/P」や「HDMI I/P」を「ON」にすれば、D5、コンポーネント、S、ビデオ端子へ入力した信号をコンポーネント端子やHDMI端子から出力するときに、480/576インターレース信号を480/576プログレッシブ信号に変換することができます。

ご注意

- D5、コンポーネント、S、ビデオ端子へ入力した映像信号の解像度が1080iまたは720pの場合、ビデオコンバージョン機能によってHDMI端子を経由して映し出された映像画質は、元の画質よりも劣ることがあります。
- D5、コンポーネント端子へ入力した映像信号が480/576i信号以外の場合、S、ビデオ端子からは出力されません。
- 基準に合わない映像信号を出力する機器と接続した場合、映像が正しく出力されない場合があります。

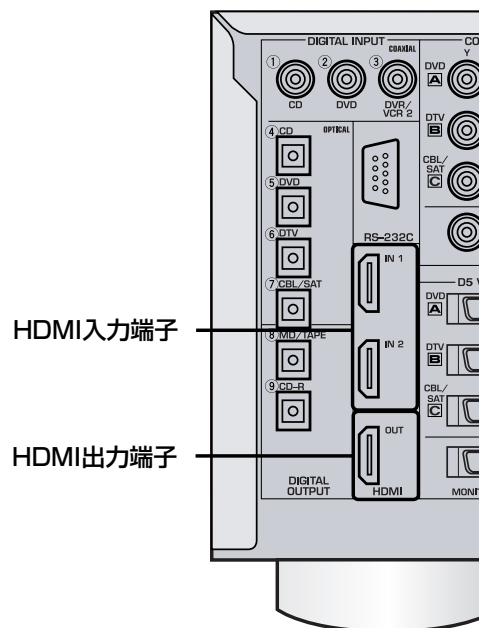
デジタル音声端子(光/同軸)について

本機は、デジタル音声信号を直接伝送できる光デジタル(OPTICAL)端子と同軸デジタル(COAXIAL)端子を装備しています。

- 光デジタル端子と同軸デジタル端子は、PCM、ドルビーデジタル、DTS、AAC(BS/地上波デジタル放送)兼用です。
- 同軸デジタル入力端子と光デジタル入力端子に同時にデジタル信号が入力されると、同軸デジタル入力端子に入力されたデジタル信号が優先されます。
- 本機のデジタル信号回路とアナログ信号回路は独立しています。デジタル入力端子に入力されたデジタル信号は、デジタル出力端子からのみ出力されます。

ご注意

本機の光デジタル端子は、EIAJ規格に基づいて設計されています。EIAJ規格を満たさない光ファイバーケーブルを使うと、正常に動作しないことがあります。

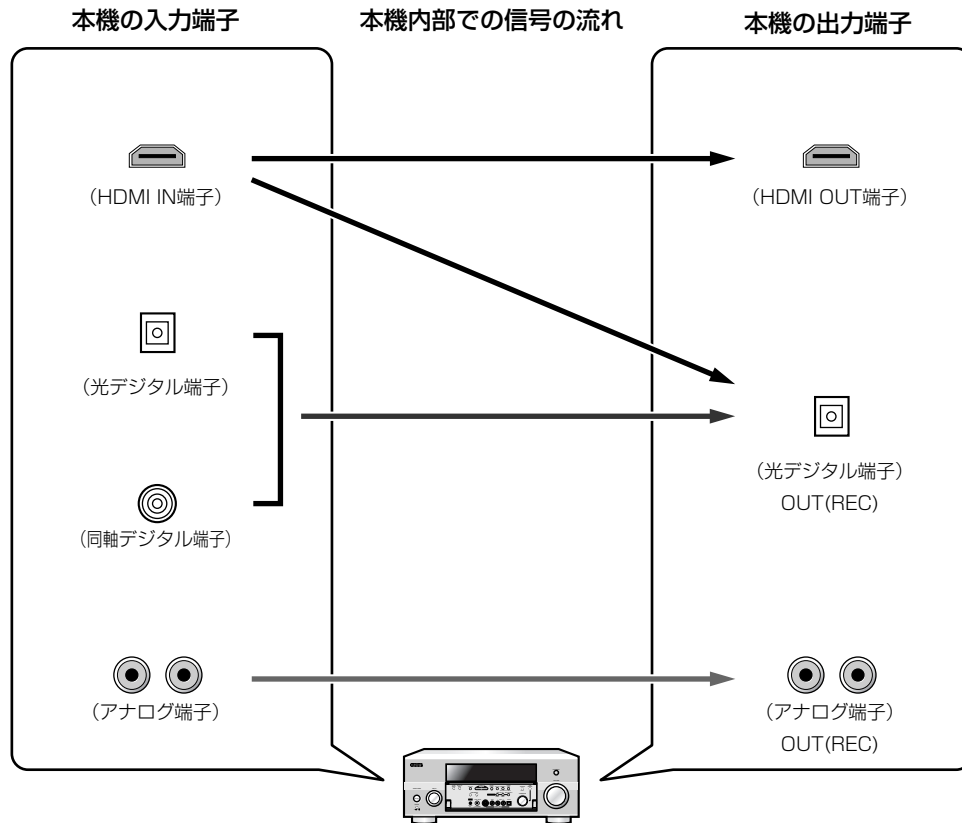
HDMI端子について

本機は、デジタル映像信号とデジタル音声信号を1本のケーブルで伝送できるHDMI端子を装備しています。詳しくは「取扱説明書」92ページをご参照ください。
HDMI入力端子に入力したHDMI音声信号は、本機で再生するほかに、HDMI出力端子に接続した機器に伝送することができます。詳しくはセットメニュー「HDMI SET」をご参照ください(「取扱説明書」59ページ)。

- 本機のHDMIは、著作権保護技術のひとつであるHDCPに対応しています。

ご注意

- 本機を含めて5台以上の機器をHDMI接続しないでください。5台以上接続した場合、「DEVICE OVER」というエラーメッセージが表示されます。
- HDCPに対応していないHDMI機器を接続した場合、「HDCP ERROR」というエラーメッセージが表示されます。HDMI接続する際には、HDCPに対応している機器をご使用ください。
- お使いのテレビやプロジェクターによっては、本機とDVI接続した場合、それらの電源がオフ、またはスタンバイのときや、DVI入力を選択していないときに、HDMI接続したプレーヤーからの音声が出力されない場合があります。このとき、HDMIインジケーターが点滅し、「HDCP ERROR」というエラーメッセージが表示されます。

音声信号について

本機は4種類の音声出力端子を装備しています。

ヒント

本機の入力端子に入力された音声信号は、PREOUT端子からも出力します（28ページ）。

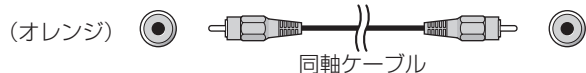
ご注意

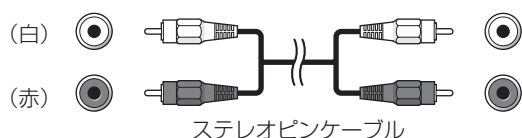
HDMI端子へ入力されたマルチチャンネルPCM信号、およびコピープロテクションがかかった、48kHz/16bitを超える2チャンネルPCM信号は、光デジタル出力端子から出力することができません。

接続に使うケーブルの種類

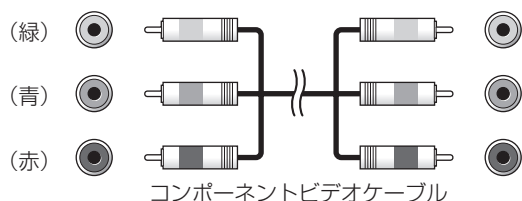
お使いになる機器に合わせて、ケーブルをご用意ください。

音　声

同軸デジタル端子

光デジタル端子

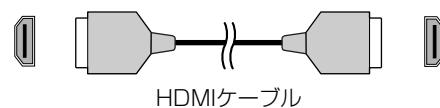
アナログ端子

映　像

D端子

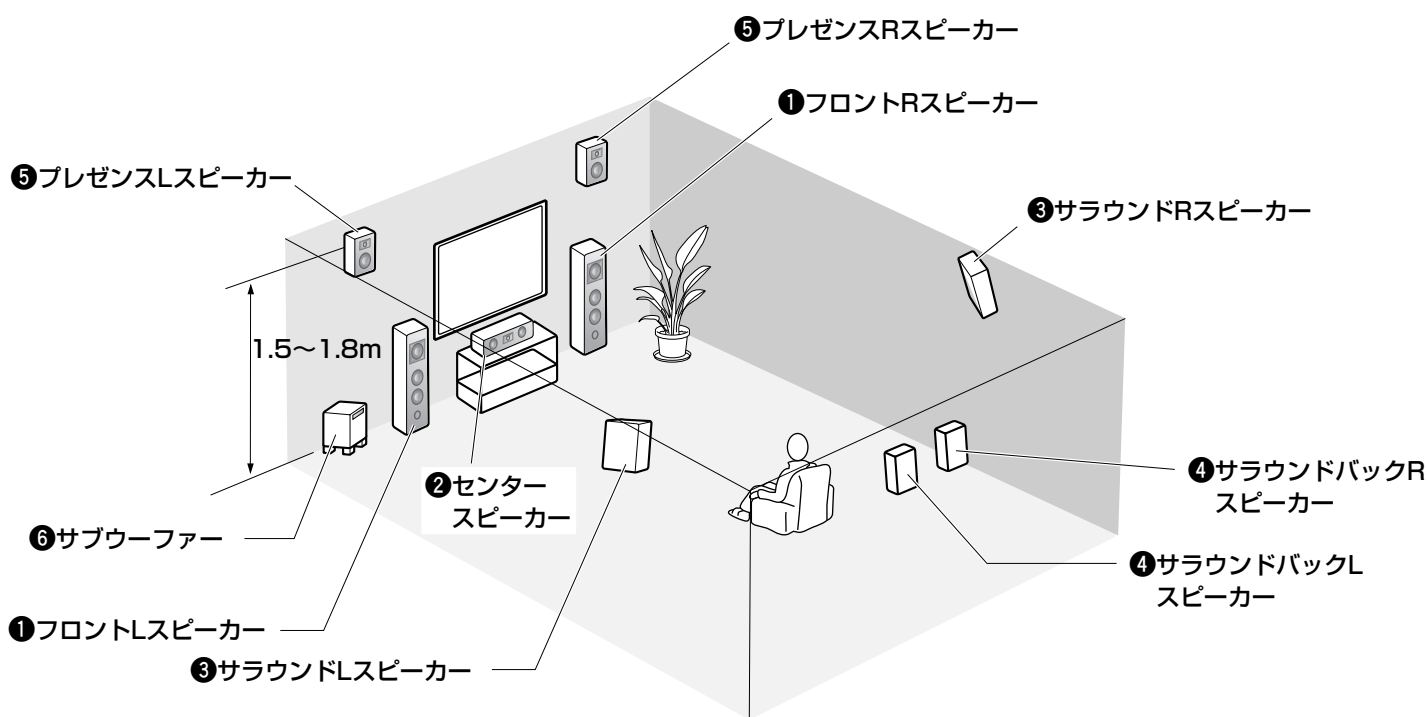
コンポーネントビデオ端子

Sビデオ端子

ビデオ端子

音　声・映　像

HDMI端子

スピーカーを設置する

スピーカーは下図のように設置します。
接続する前に、本機および接続する機器の電源コードが、ACコンセントに接続されていないことを確認してください。

ご注意
スピーカーは防磁型のものをご使用ください。防磁型以外のスピーカーをご使用になると、テレビの画像が乱れる場合があります。特に画面近くに設置するセンタースピーカーやフロントスピーカーには、防磁型スピーカーの使用をおすすめします。防磁型スピーカーをご使用の場合でも画像が乱れるときは、テレビとスピーカーを離して設置してください。

❶ フロントL/Rスピーカーの役割と設置
フロントチャンネルの音声(ステレオ音声)と効果音を出力します。
左右のスピーカーを、リスニングポジションから等距離に設置します。
スクリーンをお使いの場合は、スクリーンの下辺から1/4位の高さが適当です。

❷ センタースピーカーの役割と設置
会話やボーカルなど画面中央に定位する音を出力します。
フロントL/Rスピーカーの中間に設置します。
スクリーンをお使いの場合は、スクリーン真下の中央に設置します。
テレビをお使いの場合は、画面とスピーカー前面とを揃え、テレビの上や下など、できるだけ画面に近いところに設置します。

❸ サラウンドL/Rスピーカーの役割と設置
サラウンド音と効果音を出力します。
左右後方に、スピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。床から1.5～1.8mの高さが適当です。

❹ サラウンドバックL/Rスピーカーの役割と設置

ドルビーデジタルサラウンドEXソフトやDTS-ESソフトに含まれているサラウンドバックチャンネルの音声を出力します。（ドルビーデジタルEXデコーダー、DTS-ESデコーダー、プロロジックⅡxデコーダー、THX Select2モード、THX Musicモード、THX Gamesモード、THX Surround EXモードのいずれかがオンのときに機能します。）
リスニングポジションの後方に、スピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。床から1.5〜1.8mの高さが適当です。2本のサラウンドバックL/Rスピーカーを設置する場合は、2本を近づけて設置します。

❺ プレゼンスL/Rスピーカーの役割と設置

前方の効果音を出力します。
フロントL/Rスピーカーの外側0.5〜1mの範囲に、スピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。床から1.5〜1.8mの高さが適当です。

❻ サブウーファーの役割と設置

ドルビーデジタル、DTS、AAC信号に含まれるLFE(低域効果音)信号や、低音を出力します。
フロントL/Rスピーカーの外側に、壁の反射を防ぐために、少し内向きにして設置します。

使用するスピーカーの本数および種類に応じて、スピーカー構成を設定してください。スピーカー構成の設定は、「自動測定メニュー」(35ページ)、またはセットメニュー「SPEAKER SET」(「取扱説明書」52ページ)で行うことができます。これにより、環境に応じた最適な再生が可能になります。本機は以下のスピーカー構成に対応しています。

7.1チャンネル：フロントL/R、センター、サラウンドL/R、サラウンドバックL/RまたはプレゼンスL/R、サブウーファー
6.1チャンネル：フロントL/R、センター、サラウンドL/R、サラウンドバック、サブウーファー
5.1チャンネル：フロントL/R、センター、サラウンドL/R、サブウーファー
3.1チャンネル：フロントL/R、センター、サブウーファー
2.1チャンネル：フロントL/R、サブウーファー
2チャンネル　：フロントL/R

スピーカーシステムの構成

ムービーシアタープログラムでは、70mmマルチトラックの迫力と臨場感をリアルに再現し、会話は画面上に定位し、効果音は画面後方、音楽はさらにその後方に広がりを持って再現されます。
右図は最も本機の性能を発揮できるスピーカー配置を示したもので、*ITU-R基準配置に対応しています。シネマDSPの音場効果から、スーパーオーディオCDやDVDオーディオなどのマルチチャンネルオーディオ、THXサラウンドモード再生までお楽しみいただけます。

*** ITU-R基準配置：マルチチャンネルオーディオのミキシングスタジオで採用されている、国際的な基準配置です。**

使用するスピーカー

- フロントL/Rスピーカー(L/R)
- センタースピーカー(C)
- プレゼンスL/Rスピーカー(PL/PR)
- サラウンドL/Rスピーカー(SL/SR)
- サラウンドバックL/Rスピーカー(SBL/SBR)

ダイポールスピーカーの使用例

THXサラウンドモードで再生するときは、モノポールまたはダイポールスピーカーの両方が使用可能です。ダイポールスピーカーを使用する場合は、右図のように配置してください。

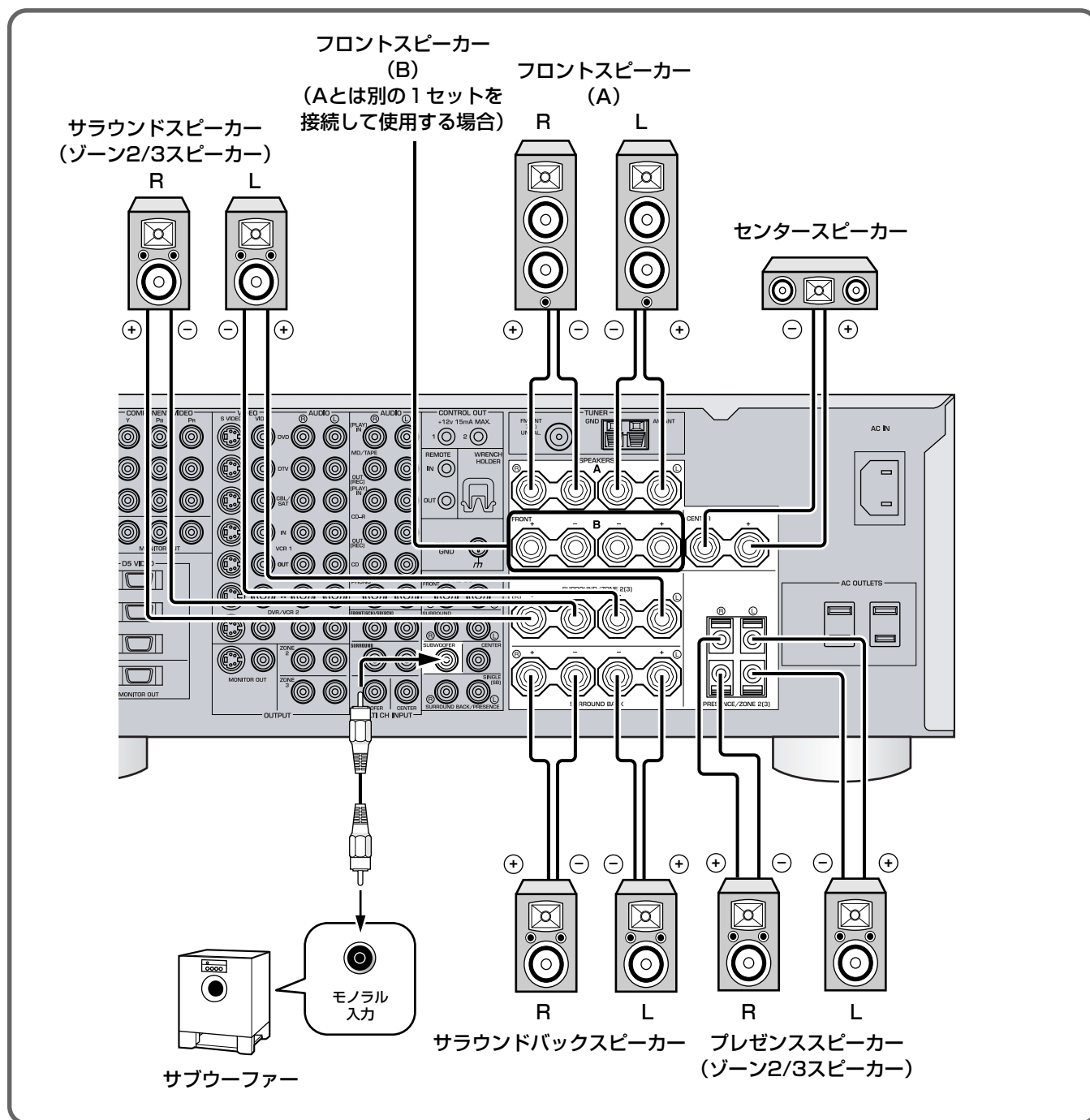
：ダイポールスピーカー

：ダイポールスピーカーの位相の向き

使用するスピーカー

- フロントL/Rスピーカー(L/R)
- センタースピーカー(C)
- サラウンドL/Rスピーカー(SL/SR)
- サラウンドバックL/Rスピーカー(SBL/SBR)

本機とスピーカーの接続図

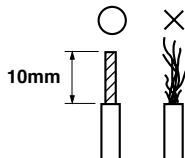
下図のように、スピーカーを接続します。
アンプ内蔵サブウーファーを使用するときは、SUBWOOFER端子に接続します。

ヒント

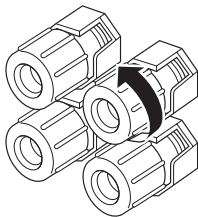
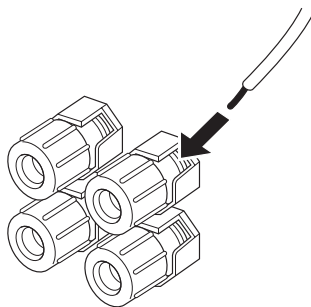
- フロントL/Rスピーカーを2組設置したい場合や、もう1組のフロントL/Rスピーカーを別の部屋に置いて音声を楽しみたい場合は、FRONT B端子にもう1組フロントL/Rスピーカーを接続できます。
- サラウンドバックスピーカーを1本のみ使う場合は、SURROUND BACK L(SINGLE)端子に接続してください。
- サラウンドバックスピーカーとプレゼンススピーカーの両方を接続した場合、同時に使用することはできませんが、セットメニュー「PRIORITY」の設定により、音場プログラムや再生するソースによって効果的に鳴らし分けができます(「取扱説明書」53ページ)。
- サラウンドスピーカー端子とプレゼンススピーカー端子をゾーン2またはゾーン3用スピーカー端子として使用することができます。セットメニュー「ZONE SET」で設定を切り替えてお使いください(「取扱説明書」67ページ)。

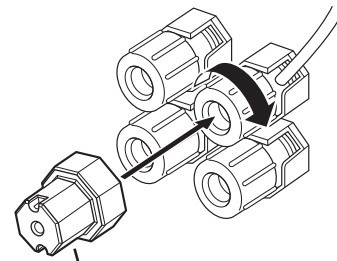
スピーカーを接続する

スピーカーケーブルを接続する

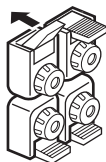
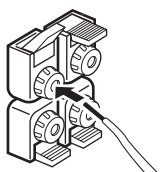
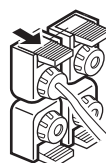
左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、＋(赤)、－(黒)をよく確認して、正しく接続してください。

1 スピーカーケーブル先端の絶縁部(被覆)を、10mmぐらいはがし、芯線をしっかりよじる

〈プレゼンススピーカー以外のスピーカーの場合〉

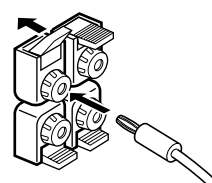
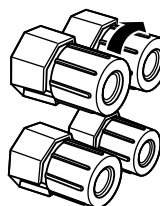
2 スピーカー端子を左に回して、ゆるめる

3 スピーカー端子の根元の穴に、スピーカーケーブルの芯線を差し込む

4 スピーカー端子を右に回して、しめる

ヒント

付属のスピーカーターミナルレンチを使うと、端子を回しやすくなります。使い終わったら、リアパネルのホルダーにかけておくことをおすすめします。

〈プレゼンススピーカーの場合〉

2 タブを開ける

3 スピーカー端子の穴に、スピーカーケーブルの芯線を差し込む

4 タブを戻して、コードを固定する

ご注意

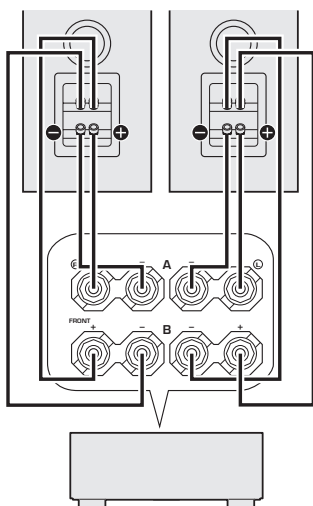
- スピーカーは、インピーダンスが6Ω以上のものを使ってください。フロントL/RスピーカーをA、B同時に鳴らす場合は、1台につき12Ω以上のものを使ってください。
- スピーカーケーブルの芯線はしっかりよじり、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルに接触したり、＋側と－側が接触すると、保護回路がはたらいて電源がスタンバイになることがあります。
- スピーカーケーブルの芯線が、スピーカー端子の金属部にしっかりと接触するように接続してください。絶縁部（被覆）をスピーカー端子に挟み込むと、音声が出力されない場合があります。
- スピーカーの＋端子と本機の＋端子、スピーカーの－端子と本機の－端子をそれぞれ接続してください。間違えて接続すると、音が不自然になります。

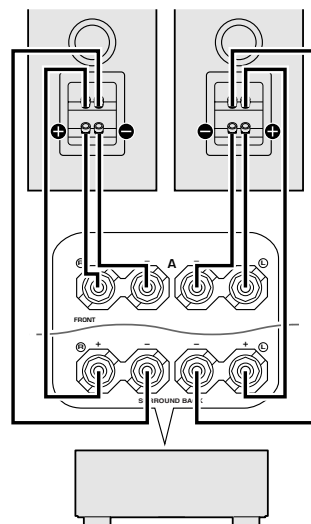
バナナプラグを使用する場合

プレゼンススピーカー以外
端子を強くしめてから差し込んでください。

プレゼンススピーカー
タブを開けてから差し込んでください。

はじめに
接続する（スピーカー）
接続が終わったら
再生のしかた

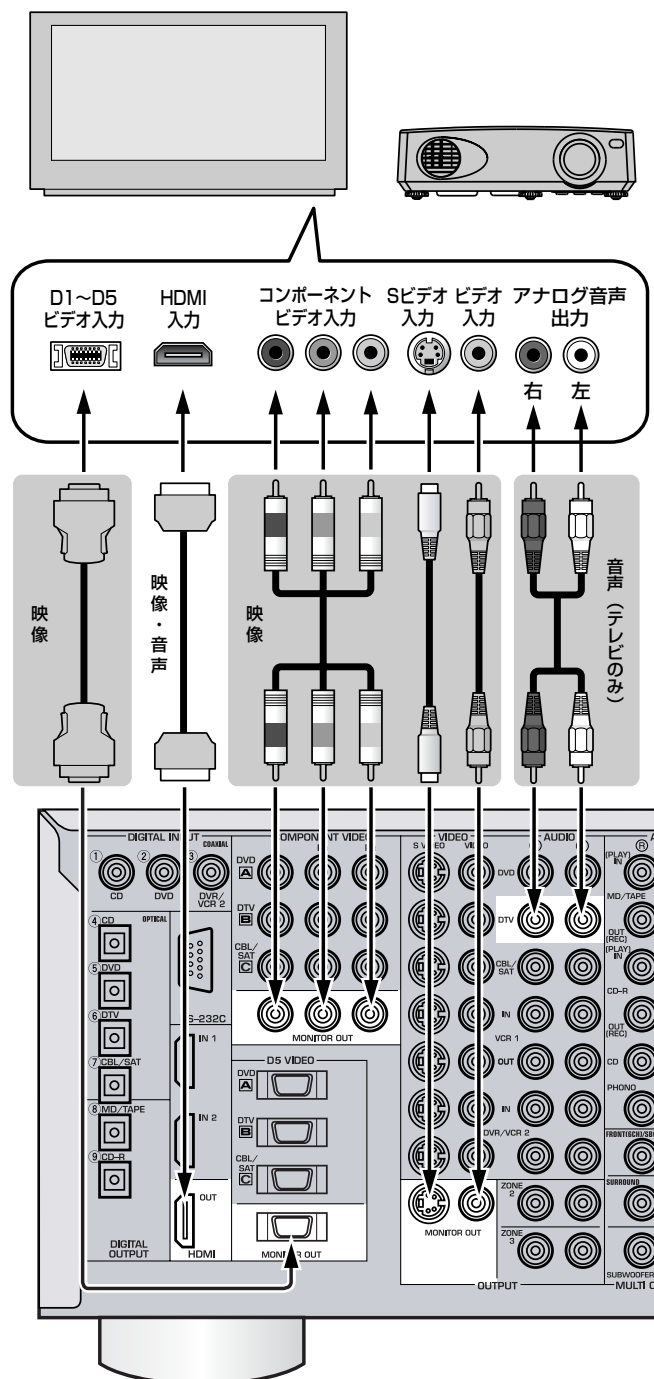
バイワイヤリング接続する場合

スピーカーのウーファー端子とツィーター端子を、それぞれFRONT A端子とFRONT B端子に接続します。
ご使用になるときは、SPEAKER A/Bスイッチを両方押してください。

バイアンプ接続する場合

スピーカーのウーファー端子とツィーター端子を、それぞれＦＲＯＮＴ　Ａ端子またはＢ端子と、SURROUNDBACK端子に接続します。
ご使用になるときは、アドバンストセットアップメニュー「BI-AMP」を設定してください（「取扱説明書」71ページ）。

ご注意

バイアンプ接続する場合は、サラウンドバックスピーカーは接続できません。また、プレゼンススピーカーも使用できません。

テレビ/プロジェクターを接続する

テレビ/プロジェクターのビデオ入力端子を本機のMONITOR OUT端子に接続します。映像接続については、お使いになるテレビ/プロジェクターに合わせて、**下記の映像ケーブルのうち1つ**を選んで接続してください。また、テレビの場合は音声出力端子と本機のDTV AUDIO端子に接続します。HDMIで接続する場合は、映像、音声両方をHDMIケーブル１本で接続することができます。

ヒント

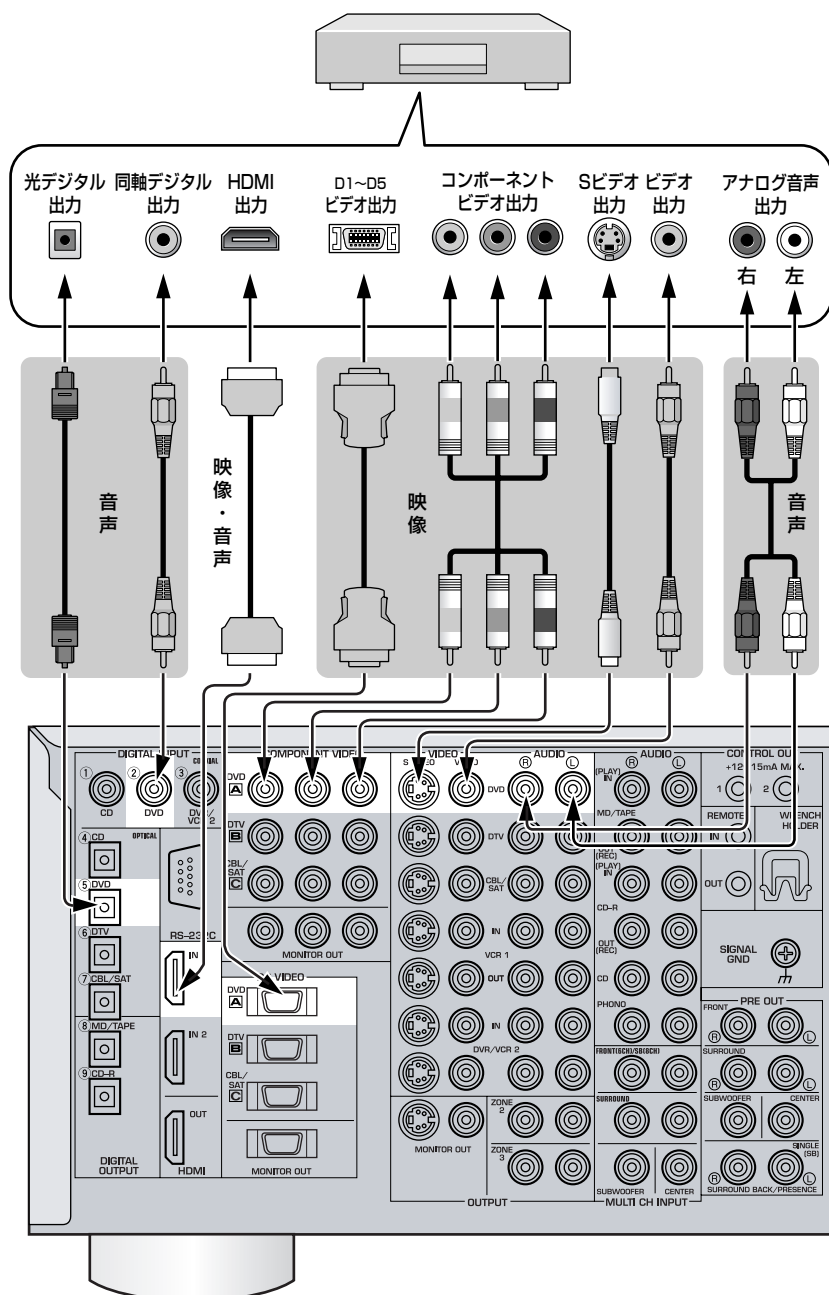
コンポーネントビデオ出力(MONITOR OUT)端子とD5ビデオ出力(MONITOR OUT)端子は同時に使うことができます。たとえば、コンポーネントビデオ出力端子にプロジェクターを、D5ビデオ出力端子にテレビを接続して、同じ映像を両方でお楽しみいただけます。

再生機器を接続する

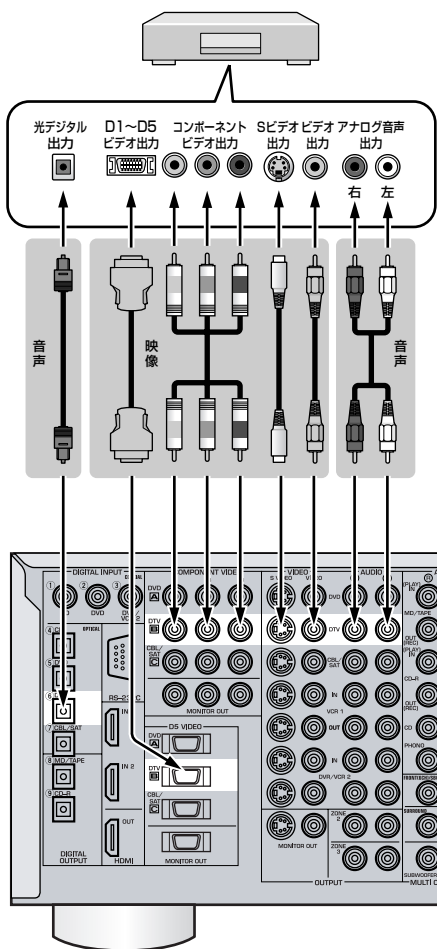
左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、入力(IN)、出力(OUT)をよく確認して、正しく接続してください。

DVDプレーヤーを接続する

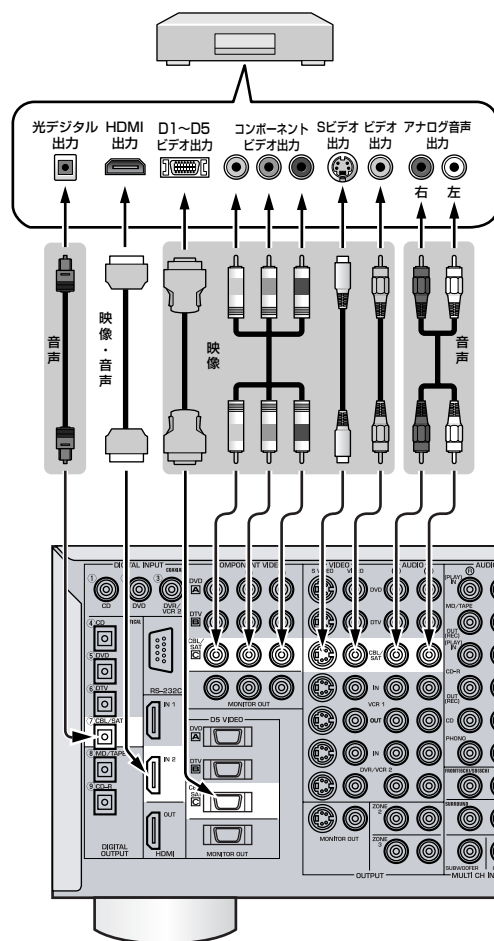
お使いになる機器の端子をよく確認して、**音声で1つ、映像で1つ**を選んで接続してください。
HDMIで接続する場合は、映像、音声両方をHDMIケーブル1本で接続することができます。

ご注意

コンポーネントビデオ入力端子とD5ビデオ入力端子の両方を同時に接続することはできません。お使いになるDVDプレーヤーを確認のうえ、どちらか片方を接続してください。

デジタルTV チューナーを接続する

お使いになる機器の端子をよく確認して、**音声で1つ、映像で1つ**を選んで接続してください。

ケーブルTV/衛星放送 チューナーを接続する

お使いになる機器の端子をよく確認して、**音声で1つ、映像で1つ**を選んで接続してください。HDMIで接続する場合は、映像、音声両方をHDMIケーブル1本で接続することができます。

ご注意

コンポーネントビデオ入力端子とD5ビデオ入力端子の両方を同時に接続することはできません。お使いになるデジタルTVチューナーを確認のうえ、どちらか片方を接続してください。

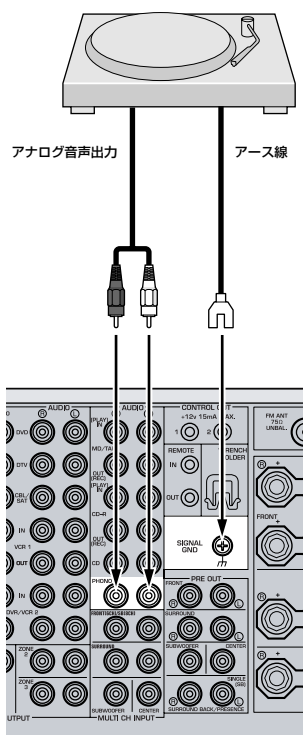
LDプレーヤーを接続する

お使いになる機器の端子をよく確認して、**音声で1つ、映像で1つ**を選んで接続してください。

ドルビーデジタルRF出力端子がある場合は、市販のRFデモジュレーターに接続してから、空いているデジタル入力端子に接続します。

CDプレーヤーを接続する

お使いになる機器の端子をよく確認して、**どれか1つ**を選んで接続してください。

同軸デジタル
出力
光デジタル
出力
アナログ音声
出力
右
左

レコードプレーヤーを接続する

低出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続するときは、昇圧トランスまたはMCヘッドアンプを使って接続します。

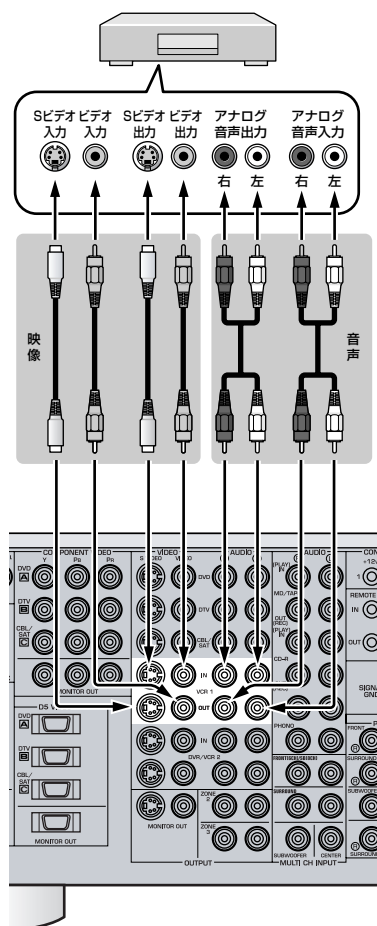
ご注意

SIGNAL GND端子は安全アースではありません。一般的に、ノイズが多いときに接続するとノイズレベルを低減できます。
レコードプレーヤーによってはノイズレベルが高くなってしまうことがありますので、お使いのレコードプレーヤーに合った接続をお試しください。

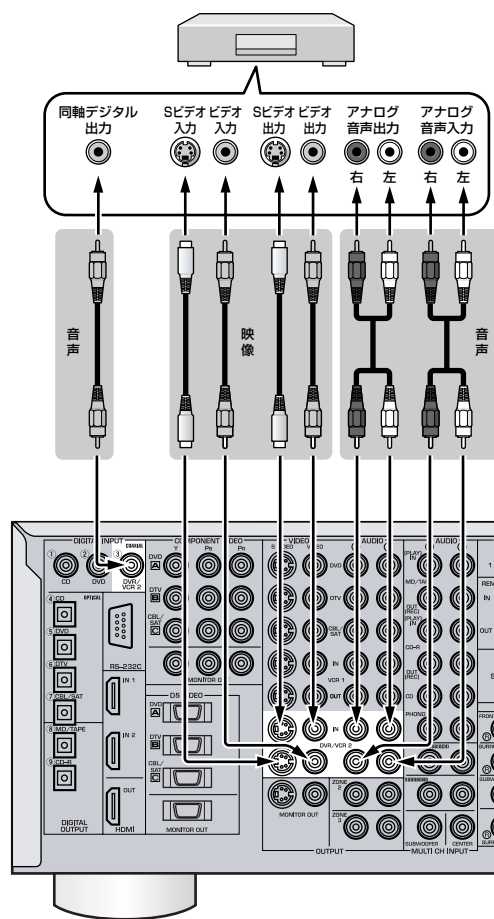
録音/録画機器を接続する

左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、入力(IN)、出力(OUT)をよく確認して、正しく接続してください。

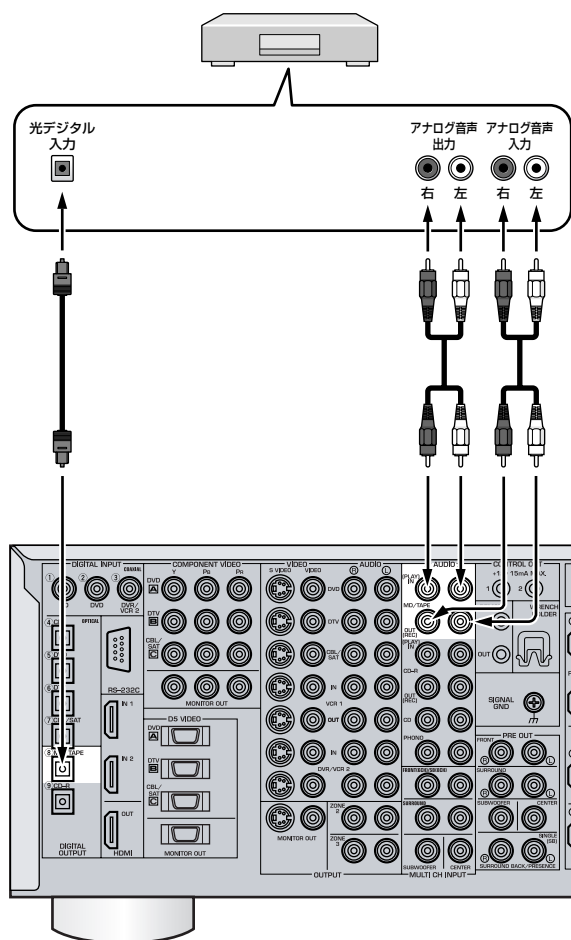
ビデオデッキを接続する

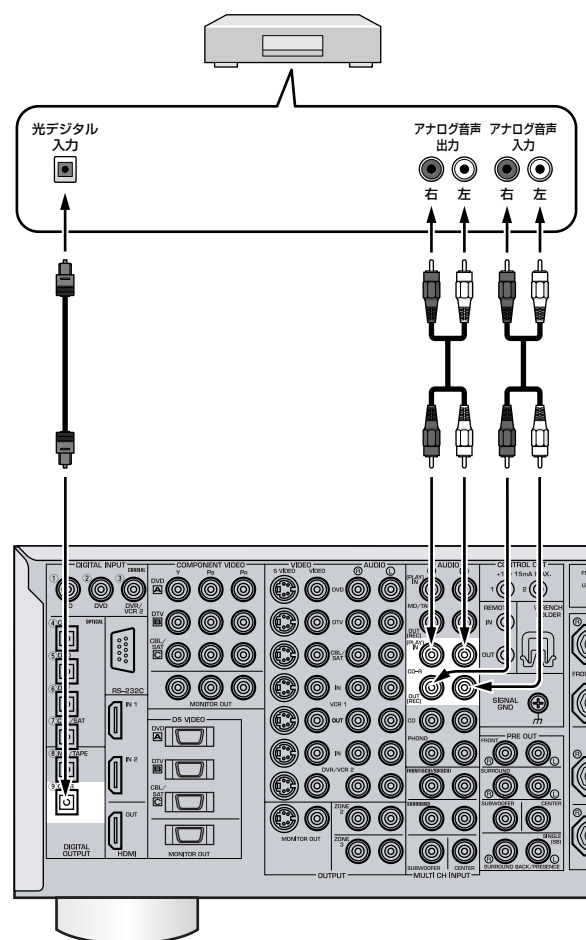
お使いになる機器の端子をよく確認して、入出力それぞれ**音声で1つ、映像で1つ**を選んで接続してください。

DVDレコーダーを接続する

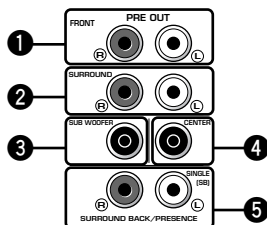
お使いになる機器の端子をよく確認して、入出力それぞれ**音声で1つ、映像で1つ**を選んで接続してください。

ヒント

DVR/VCR 2端子を使って、2台目のビデオデッキを接続することもできます。

MDレコーダー/テープデッキを接続する

お使いになる機器の端子をよく確認して、アナログ音源を録音する場合はアナログ接続を、デジタル音源を録音する場合はデジタル接続をしてください。

CDレコーダーを接続する

お使いになる機器の端子をよく確認して、アナログ音源を録音する場合はアナログ接続を、デジタル音源を録音する場合はデジタル接続をしてください。

外部パワーアンプを接続する

外部パワーアンプ（プリメインアンプ）を使う場合や、お手持ちのアンプを使う場合などは、PREOUT（プリアウト）端子と接続します。

❶ FRONT（フロント）端子
フロントL/Rチャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプを接続して、フロントL/Rスピーカーを駆動させる場合に使います。

❷ SURROUND（サラウンド）端子
サラウンドL/Rチャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプを接続して、サラウンドL/Rスピーカーを駆動させる場合に使います。

❸ SUBWOOFER（サブウーファー）端子
ヤマハアクティブサーボサブウーファーシステムなどの、アンプ内蔵サブウーファーを使うときに、この端子に接続します。フロント、センター、サラウンドおよびサラウンドバックチャンネルの低音信号が出力されます。また、ドルビーデジタル、DTSやAACデコード時のLFE信号も、この端子に出力されます。

❹ CENTER（センター）端子
センターチャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプを接続して、センタースピーカーを駆動させる場合に使います。

❺ SURROUND（サラウンド） BACK（バック）/PRESENCE（プレゼンス）端子
サラウンドバックL/RチャンネルまたはプレゼンスL/Rチャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプを接続して、サラウンドバックL/RスピーカーまたはプレゼンスL/Rスピーカーを駆動させる場合に使います。

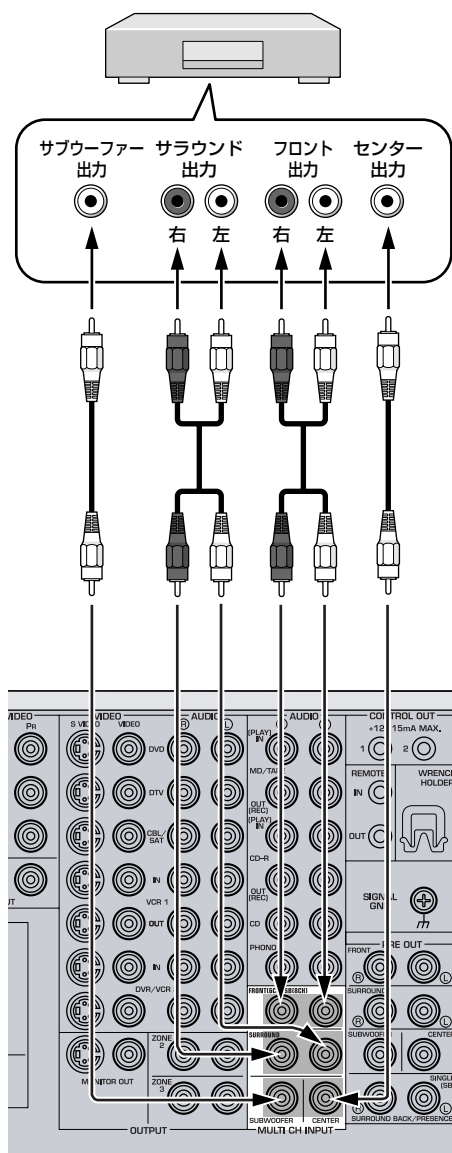
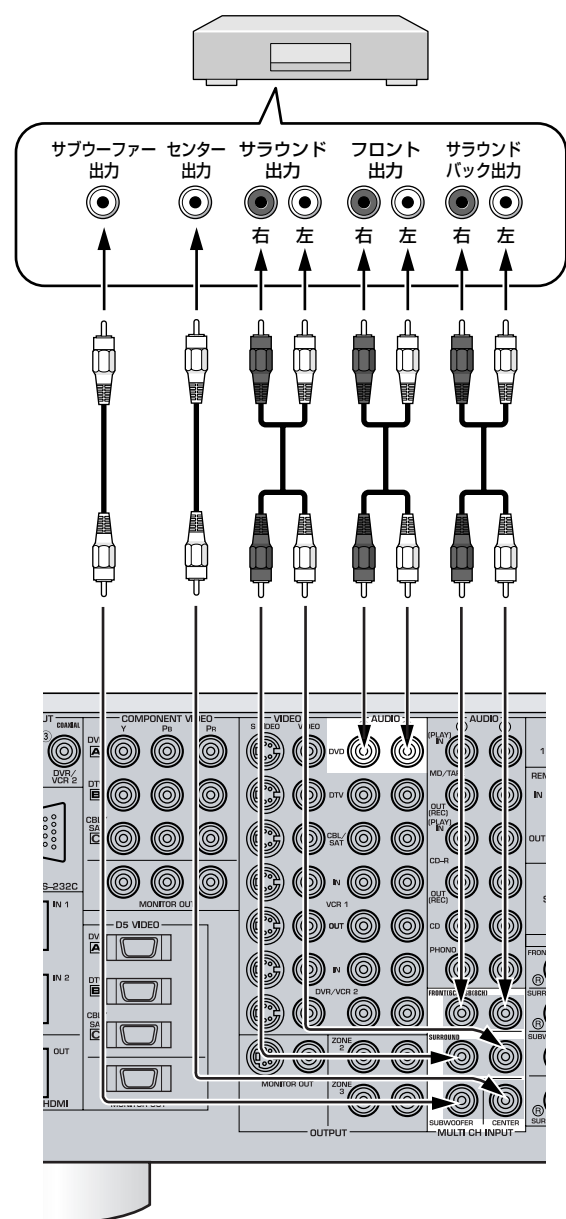
ヒント

サラウンドバック用のパワーアンプを１台のみ使う場合は、SURROUND BACK/PRESENCE端子のL側に接続してください。

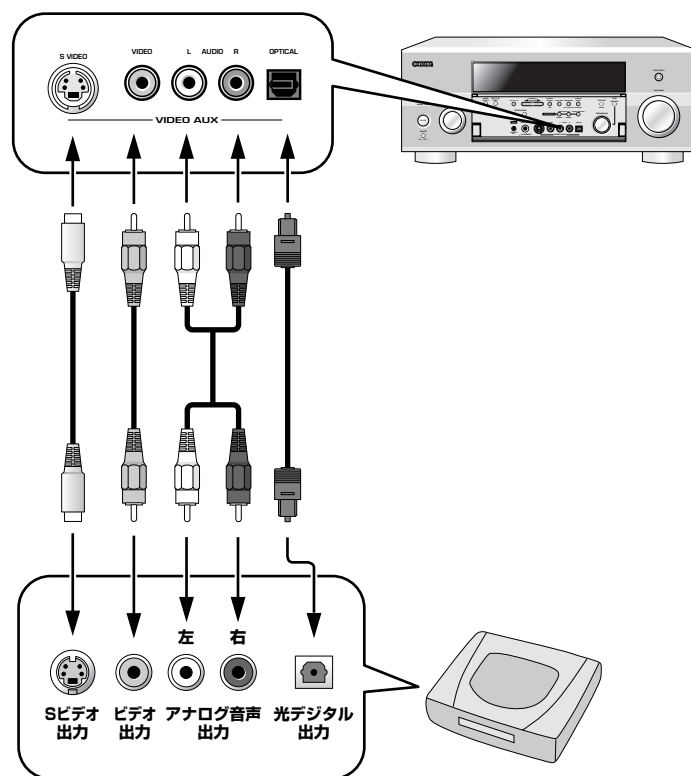
ご注意

- PREOUT端子に外部パワーアンプを接続するときには、対応するスピーカー端子を使わないでください。また、接続する外部パワーアンプの音量は最大にしてください。
- セットメニュー「ZONE SET」の「SP B」を、「ZONE B」に設定して、SPEAKER AスイッチをOFFにした場合、FRONT端子以外のPREOUT端子には信号が出力されません。（「取扱説明書」67ページ）
- セットメニュー「SPEAKER SET」の設定によっては、SUBWOOFER端子から出力されない信号があります。（「取扱説明書」52ページ）
- サラウンドバックスピーカーとプレゼンススピーカーの両方を接続・使用する場合、SURROUND BACK/PRESENCE端子からは、再生するソースや音場プログラムにより、接続しているスピーカーのチャンネルとは別のチャンネルが出力される場合があります。

マルチチャンネル出力端子がある機器を接続する

DVDプレーヤーやスーパーオーディオCDプレーヤーなど、マルチチャンネル出力端子がある機器を接続します。
セットメニュー「INPUT CH」を、「8CH」に設定すると、アナログ音声入力端子とMULTI CH IN端子を組み合わせて、8チャンネル音声入力端子として使うことができます。「FRONT」で、フロントL/Rチャンネル入力として使うアナログ音声端子を設定してください(「取扱説明書」63ページ)。

ご注意
- MULTI CH INPUT 端子から入力した信号には、本機の音場効果はかかりません。
- ヘッドホン使用時には、サラウンドバックL/R以外のチャンネルの音声を左右に振り分けて出力します。

ゲーム機やビデオカメラなどを接続する

フロントパネル(前面)のVIDEO AUX端子に接続します。

アンテナを接続する

本機には、FM簡易アンテナおよびAMループアンテナが付属されています。付属のアンテナでうまく受信できない場合は、屋外アンテナを接続してください。

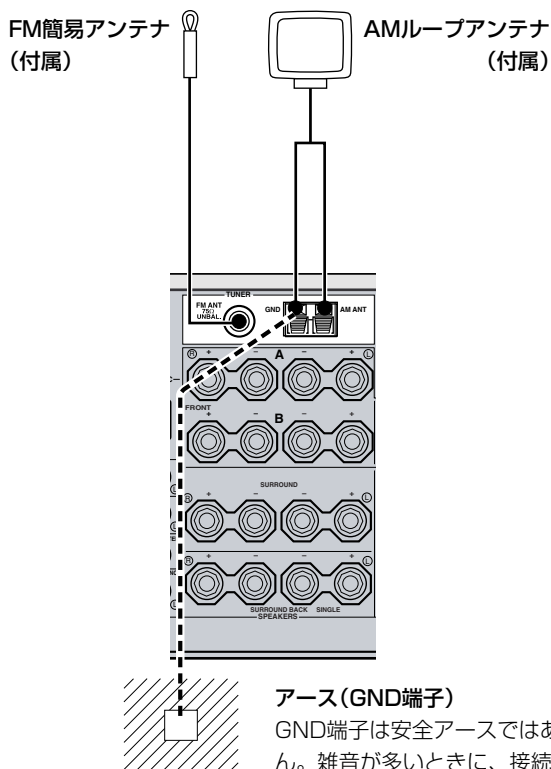
アース（GND端子）

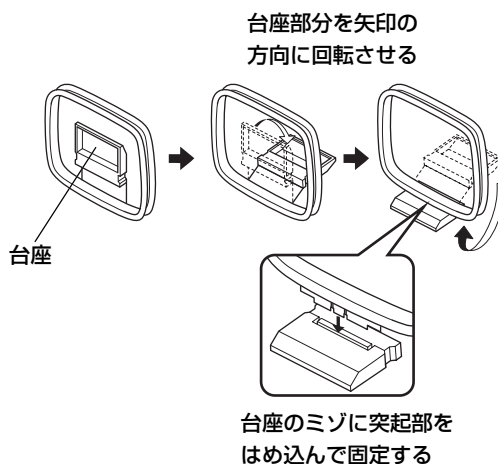
GND端子は安全アースではありません。雑音が多いときに、接続すると雑音を低減することができます。アースは市販のアース棒か銅板に、ビニール被覆線を接続し、湿気の多い地中に埋めてください。

FM簡易アンテナを接続する

付属のFM簡易アンテナを、FM ANT端子に接続してください。

FM屋外アンテナを接続する場合

アンテナの同軸ケーブルを、市販のF型コネクターを使って、FM ANT端子に接続します。詳しくは、屋外アンテナをお買い求めの販売店にご相談ください。

AMループアンテナを接続する

1 アンテナをアンテナスタンドに取り付ける

2 AM ANT端子とGND端子のレバーを押し込んだ状態で、AMループアンテナのコードをAM ANT端子とGND端子に差し込む

コードに極性（+/−）はありません。

3 レバーを放して、コードを固定する

コードを軽く引いて、正しく固定されたかどうか確認してください。

ヒント

- 受信がうまくいかない場合は、アンテナを左右に回し、受信状態が最も良くなる方向に向けてください。
- 放送を良好に受信するには、屋外アンテナを設置することをおすすめします。詳しくは、本機をお買い求めの販売店にお問い合わせください。

ご注意

- AMループアンテナは、本機から離して設置してください。
- 屋外アンテナを接続した場合でも、AMループアンテナは必ず接続しておいてください。

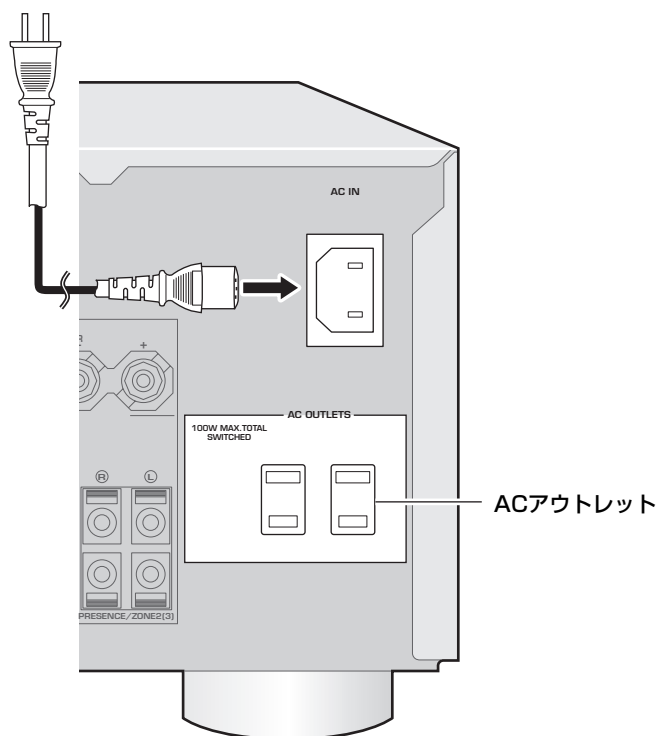
電源コードを接続する

ACコンセントへ

AC IN

AC OUTLETS

100W MAX.TOTAL SWITCHED

PRESENCE/ZONE2(3)

ACアウトレット

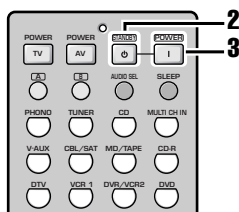
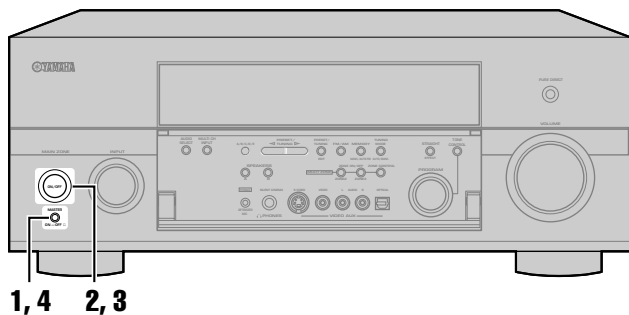
AC アウトレット

外部オーディオ機器に電源を供給するコンセントで、本機のMASTER ON/OFFスイッチと連動しています。MASTER ON/OFFスイッチがONで、メインゾーン、ゾーン2、ゾーン3のいずれかがONになっているときに、合計で消費電力１００Ｗまでのオーディオ機器を接続し、電源を供給することができます。
接続するときの電源プラグの向き（極性）によって音質が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。

電源コード

すべての接続が終了したら、電源コードを本機のAC IN端子にしっかりと差し込み、家庭用AC１００V、50/60HzのACコンセントに電源プラグを接続します。
接続するときの電源プラグの向き（極性）によって音質が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。

電源をオン/スタンバイにする

本機の電源をオンにしてから、オフにするまでの一連の操作方法を説明します。

1 本体のMASTER ON/OFFスイッチを押して、ONにする

本体スイッチやリモコンキーで本機を操作できるようになります。

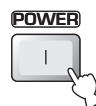
2 本体のMAIN ZONE ON/OFFスイッチを押す、またはリモコンのSTANDBYキーを押す

電源がスタンバイになります。この状態のときは、本体のMAIN ZONE ON/OFFスイッチやリモコンのPOWERキーで本機の電源をオンすることができます。

または

3 もういちど本体のMAIN ZONE ON/OFFスイッチまたはリモコンのPOWERキーを押す

電源がオンになります。手順1を操作したときと同じ状態になります。

または

4 本体のMASTER ON/OFFスイッチを押して、OFFにする

電源がオフになり、本体スイッチやリモコンキーで本機を操作できなくなります。

ヒント

ゾーン2、ゾーン3の操作については「取扱説明書」46ページをご参照ください。

はじめに　接続する　接続が終わったら　再生のしかた

操作内容をテレビに表示する(オンスクリーン表示)

本機にテレビを映像接続すると、本機の操作内容などをテレビ画面に表示させることができます。本体のディスプレイ表示に比べて、項目や設定値などが見やすく表示されるので、セットメニューや音場プログラムパラメーターを設定する際に便利です。

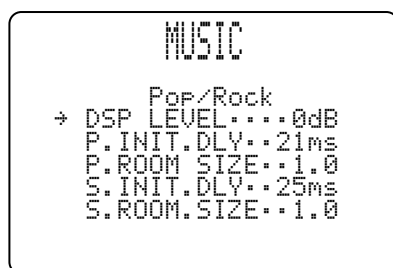
表示の種類

オンスクリーン表示には次の3種類があります。

フル表示

音場プログラムのパラメーターが、常にテレビ画面に表示されます。
入力を切り替えるときや音量を調節するときは、これらの操作内容が、テレビ画面の下側に数秒間表示されます。

MUSIC

Pop/Rock
→ DSP LEVEL····0dB
P.INIT.DLY··21ms
P.ROOM SIZE··1.0
S.INIT.DLY··25ms
S.ROOM.SIZE··1.0

ショート表示

本体のディスプレイと同じ内容(操作状態)が、テレビ画面の下側に数秒間表示された後、消えます。

表示OFF

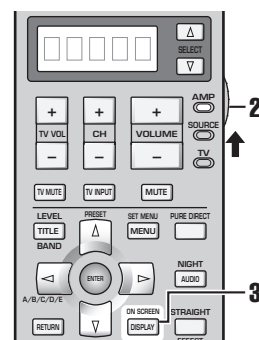
テレビ画面の下側に「DISPLAY OFF」が表示された後、消えます。ON SCREENキー以外のキーを操作しても何も表示されません。

ヒント

- 映像信号が入力されているときは、映像に重ねて表示されます。
- セットメニューやテストトーンを使っているときは、表示の種類にかかわらず、常にフル表示の内容が表示されます。
- オンスクリーン表示はVCR 1 OUT端子、VCR 2/DVR OUT端子に出力されないので映像と一緒に録画されることはありません。

ご注意

- 以下の場合は、オンスクリーン表示されません。
  - プログレッシブ方式の映像やハイビジョン映像が入力されている場合
  - セットメニュー「DISPLAY SET」の「GRAY BACK」が「OFF」に設定されていて(「取扱説明書」64ページ)、ビデオ信号が入力されていない場合
  - HDMI IN端子からの入力信号がHDMI OUT端子へ伝送されている場合
  - セットメニュー「V CONV.」が「OFF」に設定されている場合
- コピーガード信号が入ったビデオソフトを再生したり、ノイズの多い映像信号を再生した場合、オンスクリーン表示がぶれることがありますが、本機の故障ではありません。

表示の切り替え

1 ***本機とテレビの電源を入れる***

2 ***AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ***

3 ***ON SCREENキーを押す***

押すごとに、表示内容が、フル表示→ショート表示→表示OFF→フル表示→…の順に切り替わります。

最適な視聴空間を自動的に設定する

本機に搭載の「YPAO（Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer）」により、ご使用になるスピーカーの配置、能力やお部屋の音響特性を測定し、最適な視聴空間を自動的に設定することができます。スピーカーから出力されるテストトーンを、付属のマイク（オプティマイザーマイク）で拾い、自動的に測定、設定します。

ご注意

本機のPREOUT端子に外部パワーアンプを接続している場合でもYPAOでの設定は可能ですが、本機の出力レベルと接続したパワーアンプの出力レベルの差が大きい場合など、YPAOの補正範囲を超えてしまう場合は正しく設定できません。

設定の流れ

付属のマイクを準備する

測定を開始する 36ページ

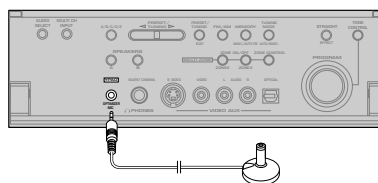
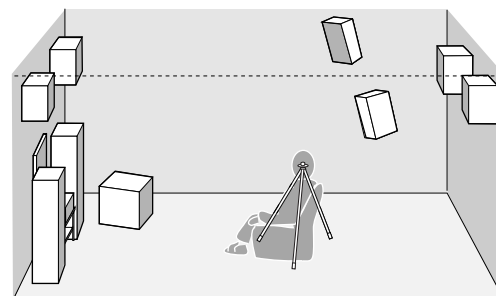
- WIRING： スピーカーの接続状態や極性をチェックします。
- DISTANCE： リスニングポジションから各スピーカーまでの距離をチェックし、遅延時間を設定します。
- SIZE： 各スピーカーのサイズを設定します。
- EQ： 各スピーカーの周波数特性を補正します。
- LEVEL： 各スピーカーからの音量を調節します。

結果を確認する 37ページ

EQ(EQUALIZING)について

EQによる周波数特性の補正には、周波数、レベル、Qファクターの3つのパラメーターがそれぞれ独立して可変するパラメトリックイコライザーを使用しています。これらのパラメーターの組み合わせにより、精度の高い周波数特性の補正を、YPAOで自動的に行うことができます。

付属のマイクを準備する

本機前面のOPTIMIZER MIC端子に、付属のオプティマイザーマイクを接続します。

オプティマイザーマイクは実際に視聴する位置(リスニングポジション)に、耳と同じ高さで設置します。耳と同じ高さに設置する場合は、水平な台にのせるか、三脚を使います。

ご注意

- 設定が完了したら、オプティマイザーマイクをMIC端子から外して保管してください。
- オプティマイザーマイクは熱に弱いため、直射日光が当たる場所やAV機器の上など高温になる場所には置かないでください。

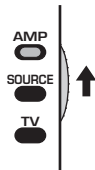
測定を開始する

ご注意

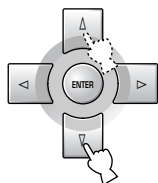
- 測定中は大きなテストトーンが出ます。小さなお子様などをリスニングルームに立ち入らせないようご配慮ください。
- 各スピーカーとオプティマイザーマイクの間に、障害物がないか確認してください。障害物があると、正しく測定できない場合があります。
- 測定中に声を出したり、周囲の騒音が大きいと、正しく測定ができなかったり、エラー表示が出る場合があります。測定中はなるべく静かにしてください。
- スピーカーの接続状況に合わせて、スピーカーA/Bスイッチでスピーカーを選択してください。通常の場合は、スピーカーAのみONに設定してください。

1 本機とテレビの電源を入れる

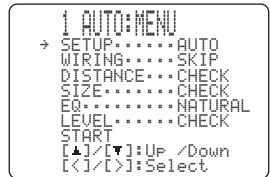
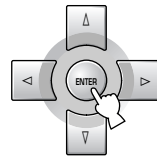
テレビの画面にオンスクリーン表示が出ることを確認してください(34ページ)。

2 AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ

3 SET MENUキーを押す

4 △/▽キーを押して、「AUTO SETUP」を選ぶ

ヒント

セットメニューで設定中に前の画面に戻りたいときは、リモコンのRETURNキーを押します。

5 ENTERキーを押す

メインメニューに画面が切り替わります。

6 △/▽キーを押して、項目を選ぶ

7 ◁/▷キーを押して、各項目を設定するかしないかを選ぶ

〈WIRING、SIZE/DISTANCE、LEVEL〉

CHECK： 自動的に測定、設定します。

SKIP： 測定、設定しません。

〈EQ〉

NATURAL：すべてのスピーカーの音質を、高域特性を下げた状態にそろえます。高域がきつく聞こえるときに設定してください。

FLAT： 各スピーカーの特性を均一(フラット)にします。

FRONT： フロントL/Rスピーカーの特性に、各スピーカーの特性を合わせます。

SKIP： 測定、設定しません。

ヒント

THX認証のスピーカーをご使用の場合は「SIZE」をSKIPにして、設定しないようにしてください。またセットメニュー「SPEAKER SET」で、すべてのスピーカーがSML(SMALL)に設定されていることと(「取扱説明書」52ページ)、「CROSS OVER」が80Hz(THX)に設定されていることを確認してください(「取扱説明書」53ページ)。

8 △キーを押して、「SETUP」を選ぶ

9 ◁/▷キーを押して、設定の方法を選ぶ

AUTO： 全ての項目を自動的に設定します。

RELOAD： 前回YPAOで設定した設定値に戻します。

ご注意

「RELOAD」は、すでにYPAOでの設定を行っている場合にのみ選ぶことができます。

10 ∇キーを押して、「START」を選ぶ

11 ENTERキーを押す

大きなテストトーンがスピーカーから出力されます。測定中の項目の左に「→」が表示されます。自動測定メニューを中止するには、∆キーを押してください。

```
2 AUTO:CHECK

→ INITIALIZING
  WIRING
  SIZE/DISTANCE
  EQUALIZING
  LEVEL
  CHECK CH=FRONT L
  
  [▲]: Exit
```

ご注意

測定中にエラー表示が出た場合は、「表示メッセージについて」(39〜40ページ)を確認のうえ、必要な対処をしてから、測定をやりなおしてください。測定中に「E-10：INTERNAL ERROR」が表示された場合は、手順4から設定をやりなおしてください。

設定が終わると、結果が表示されます。

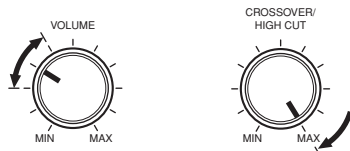
12 SET MENUキーを押す

オートセットアップを終了します。

ヒント

スピーカーを変更した場合や、スピーカーの設置場所を変えた場合は、もう一度自動測定で設定しなおすことをおすすめします。

アクティブサブウーファーの設定について

- サブウーファーを接続している場合は電源を入れて、下図の位置(半分または半分よりやや小さめ)にボリュームを設定してください。

- クロスオーバー周波数の設定機能がある場合は、クロスオーバー周波数を最大に設定してください。

結果を確認する

各項目の測定、設定の結果を確認することができます。

AUTOで設定した場合

すべての測定、設定が終わると、RESULT:EXIT画面が表示されます。

```
RESULT:EXIT

→WARNING 0
 RESULT
   SP   :    5/4/0.1
   DIST: 4.50/6.10m
   LVL :-10.0/+6.5dB
 ▶SET     CANCEL
  [▲]/[▼]:Up/Down
  [ENTER]:Enter
```

SP： スピーカーの数をあらわします(フロント、プレゼンスの合計/サラウンド、サラウンドバックの合計/サブウーファーの有無)。

DIST：すべてのスピーカーまでの最短距離と最長距離をあらわします(最短距離/最長距離)。

LVL： 補正したスピーカーレベルの最小値と最大値をあらわします(最小値/最大値)。

設定内容を決定する場合は、◁/▷キーを押して「SET」を選び、ENTERキーを押します。
設定内容をキャンセルする場合は、◁/▷キーを押して「CANCEL」を選び、ENTERキーを押します。

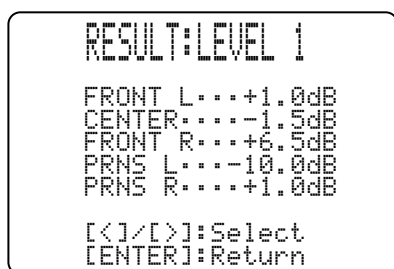
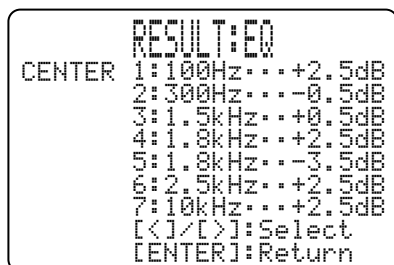
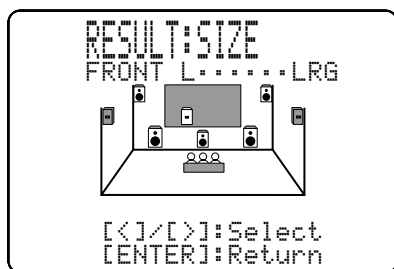
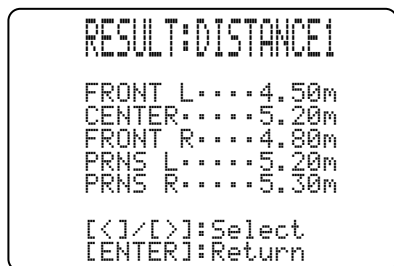
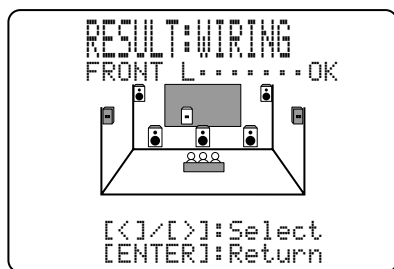
各項目の測定、設定結果を確認するには、∆/∇キーを押して「RESULT」を選び、ENTERキーを押します。
◁/▷キーで、各項目の結果画面を切り替えることができます。
ENTERキーを押すと、RESULT:EXIT画面に戻ります。

結果画面の表示例

```
RESULT:DISTANCE1

FRONT L····4.50m
CENTER·····5.20m
FRONT R····4.80m
PRNS L·····5.20m
PRNS R·····5.30m

[<]/[>]:Select
[ENTER]:Return
```

```
RESULT:LEVEL 1

FRONT L···+1.0dB
CENTER····-1.5dB
FRONT R···+6.5dB
PRNS L···-10.0dB
PRNS R····+1.0dB

[<]/[>]:Select
[ENTER]:Return
```

ヒント

THXでは、「自動測定メニュー」で満足な結果が得られなかった場合や、各項目を手動で調節したい場合、「MANUAL SETUP」(「取扱説明書」52ページ)を行うことを推奨しています。

RELOADで設定した場合

RESULT:EXIT画面が表示されます。
設定内容を決定する場合は、◁/▷キーを押して「SET」を選び、ENTERキーを押します。
設定内容をキャンセルする場合は、◁/▷キーを押して「CANCEL」を選び、ENTERキーを押します。

各項目の測定、設定結果を確認するには、△/▽キーを押して「RESULT」を選び、ENTERキーを押します。
◁/▷キーで、各項目の結果画面を切り替えることができます。
ENTERキーを押すと、RESULT:EXIT画面に戻ります。

ヒント

より細かい設定をしたい場合は、マニュアルで各項目を設定することができます(「取扱説明書」50ページ)。

ご注意

- ご使用のサブウーファーの特性によっては、実際の配置距離よりも長い距離が測定・設定される場合があります。
- 周波数をより精密に補正するために、同じ周波数帯域で違うレベル値が設定される場合があります。

表示メッセージについて

測定開始時の表示

Connect MIC !
付属のオプティマイザーマイクが接続されていません。

⇒本機前面のOPTIMIZER MIC端子に、オプティマイザーマイクを接続してください。

Unplug HP !
ヘッドホンが接続されています。

⇒本機前面のPHONES端子から、ヘッドホンを抜いてください。

測定中のエラーメッセージ

⊲/⊳キーを押すと、各メッセージの詳細を表示することができます。各メッセージの内容を確認のうえ、表示画面で「RETRY」を選んで、測定をやり直してください。

E-1:NO FRONT SP
フロントL/Rスピーカーが検出されませんでした。

⇒SPEAKER A/Bスイッチで正しくスピーカーを選んでください。
⇒フロントL/Rスピーカーが正しく接続されているか確認してください。

E-2:NO SURR.SP
サラウンドL/Rスピーカーの片側しか検出されませんでした。

⇒サラウンドL/Rスピーカーが正しく接続されているか確認してください。

E-3:NO PRNS. SP
プレゼンスL/Rスピーカーの片側しか検出されませんでした。

⇒プレゼンスL/Rスピーカーが正しく接続されているか確認してください。

E-4:SBR->SBL
サラウンドバックスピーカーを1本のみ接続している場合に、R側から検出されました。

⇒サラウンドバックスピーカーを１本のみ接続する場合は、L側(SINGLE)端子に接続してください。

E-5:NOISY
騒音が大きすぎて、正確な測定ができません。

⇒エアコンなど騒音を発生する機器の電源を一時的に切るか、遠ざけてみてください。
⇒周囲が静かな時間帯にやり直してみてください。

E-6:CHECK SUR.
サラウンドL/Rスピーカーが接続されておらず、サラウンドバックスピーカーだけが接続されています。

⇒サラウンドバックスピーカーを使うときは、サラウンドL/Rスピーカーを接続する必要があります。正しく接続されているか確認してください。

E-7:NO MIC
測定の途中でオプティマイザーマイクが外れました。

⇒本機前面のOPTIMIZER MIC端子に、オプティマイザーマイクを接続してください。

E-8:NO SIGNAL
テストトーンが出ているにもかかわらず、オプティマイザーマイクがテストトーンを検知していません。

⇒オプティマイザーマイクが正しく設置されているか確認してください。
⇒各スピーカーが正しく接続または設置されているか確認してください。

E-9:USER CANCEL
音量を調節または消音したり、SPEAKER A/Bスイッチでスピーカーを切り替えた、などの操作をしたため、測定をキャンセルしました。

⇒測定の精度が落ちるため、測定中は音量を変えないでください。
⇒測定中はスピーカーを切り替えないでください。

E-10:INTERNAL ERROR
E-1～E-9以外のエラーが発生しました。

⇒測定をはじめからやりなおしてください。

ご注意
「E－10」が続けて表示される場合は、お近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点（「取扱説明書」巻末）までお問い合わせください。

測定終了後の警告メッセージ

測定は完了しましたが、設定がされていない、または設定が最適でない項目がある場合に表示されます。下記をご確認のうえ、再度該当する項目を測定・設定しなおしてください。
◁/▷キーを押すと、各メッセージの詳細を表示することができます。

W-1 <OUT OF PHASE>
表示されたスピーカーの極性（+/−）が、逆に接続されています。

⇒スピーカーが正しく接続されているか確認してください。
⇒スピーカーによっては、正しく接続していてもこの表示が出ることがあります。

W-2 <OVER 24m>
表示されたスピーカーとリスニングポジションとの距離が、24m以上あり、補正ができません。

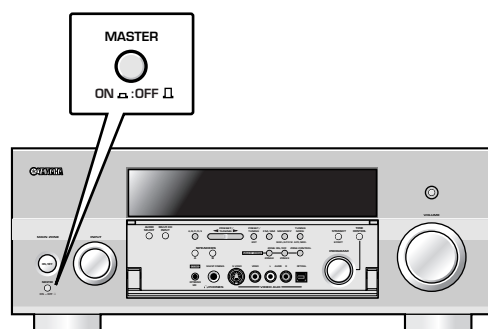
⇒スピーカーの設置場所を確認してください。
⇒確認後、測定・設定をやりなおしてください。

W-3 <LEVEL ERROR>
各チャンネル間の音量差が大きすぎて、補正ができません。

⇒スピーカーの設置場所を確認してください。
⇒スピーカーが正しく接続されているか確認してください。
⇒なるべく近い性能のスピーカーを使用することをおすすめします。
⇒サブウーファーの音量を調節してください。
⇒確認後、測定・設定をやりなおしてください。

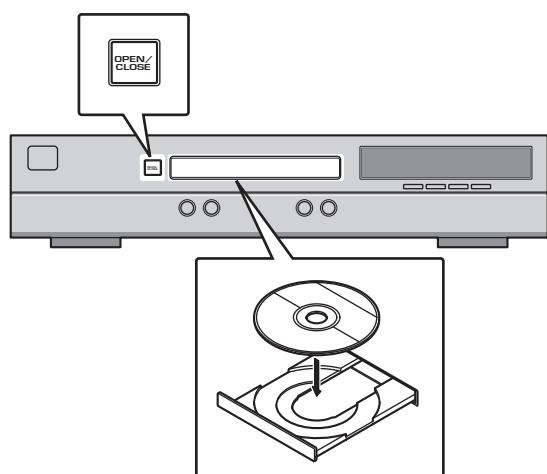
映像機器を再生する（DVD、テレビ / 衛星放送）

1 本機の電源を入れる

本体のMASTER ON/OFFスイッチを押して、ONにします。

2 テレビの電源を入れる

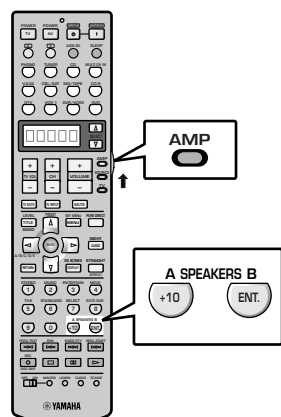
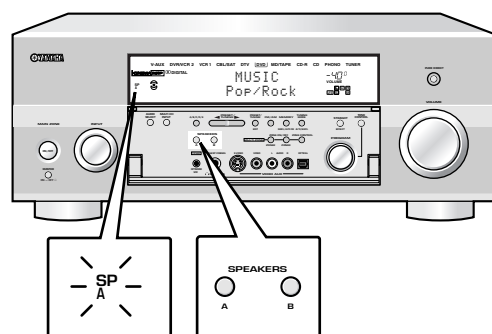
詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

3 DVDプレーヤー / 衛星放送チューナー / ケーブルTVチューナーの電源を入れる

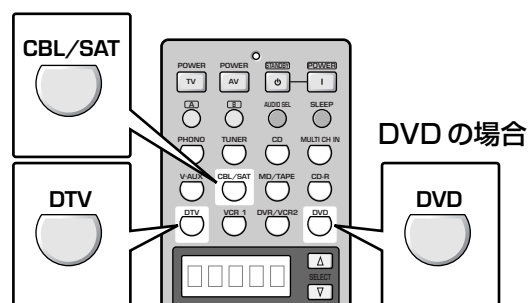
詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。

DVDを再生する場合は、DVDプレーヤーのディスクトレイを開き、ディスクレーベル（印刷面）のある面を上にして、ディスクをディスクトレイにのせます。
ディスクをのせたら、ディスクトレイを閉めます。
DVDプレーヤーのディスクトレイの開閉について詳しくは、DVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

4 スピーカーを選ぶ

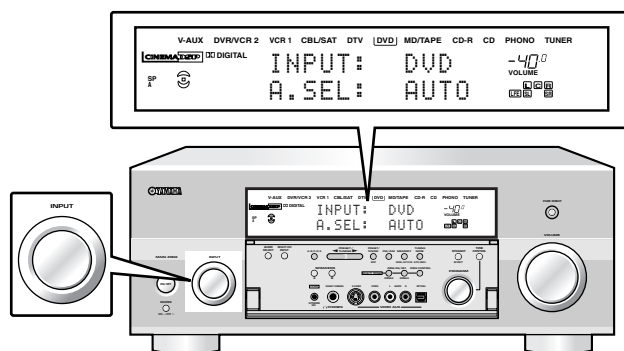
リモコンのAMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせてAMPを選び、SPEAKERS A/Bキーを押す、または本体のSPEAKERS A/Bスイッチを押して、音を出すフロントスピーカーを選択します。A、Bの両方を使用する場合は、AとBをそれぞれ押します。選択しているスピーカーは、SP A/Bインジケーターで表示されます。

リモコンの操作

本体の操作

5 本機の入力を切り替える

リモコンの入力選択キーを押す、または本体のINPUTセレクターを回して、DVDまたはDTV、CAL/SATを選びます。入力を切り替えると、フロントパネルディスプレイに選んだ入力の名前と入力モードが数秒間表示されます。

リモコンの操作

ケーブル／衛星放送の場合

本体の表示

DVDの場合の表示例

6 テレビの入力を切り替える

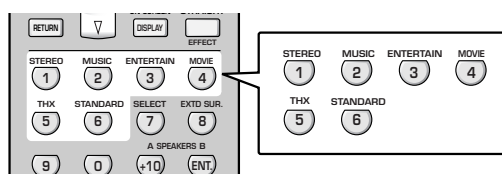
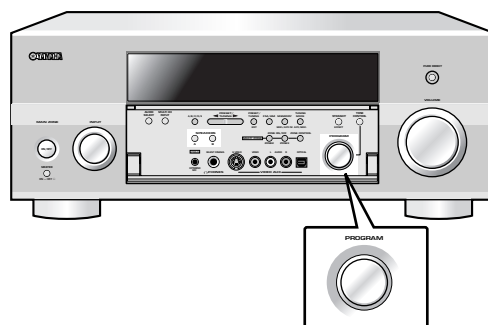
例えば、本機がテレビのビデオ入力端子2に接続されている場合はビデオ入力2を選びます。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

7 再生を始める

詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。

8 音場プログラムを選ぶ

お好みの音場プログラムを呼び出して、臨場感と効果をお楽しみください。リモコンの音場プログラムキーを押してお好みの音場プログラムを選びます。
本体のPROGRAMセレクターを回しても音場プログラムを選ぶことができます。

リモコンの操作

本体の操作

おすすめ

以下は映画を見るとき、音楽を聴くときにおすすめの音場プログラムです。なお、それぞれの音場の特徴など、詳しくは「取扱説明書」19ページをご覧ください。

- **映画を見るとき**
  - → MOVIE THEATER
  - → THX
  - → DOLBY DIGITAL/DTS/AAC
  - → PRO LOGIC
  - → PRO LOGIC Ⅱx
  - → DTS Neo:6
  - → SRS CS Ⅱ
- **音楽を聴くとき**
  - → MUSIC
  - → ENTERTAINMENT

ヒント

- 音の大きさを調節するには？(44ページ)
- 本機の使用を終了するには？(44ページ)
- リモコンコードを設定すると、本機のリモコンでお使いの外部機器を操作することができます。詳しくは「取扱説明書」74ページをご覧ください。

こんなときは・・・

●使い終わった!

STANDBYキー、または本体のMAIN ZONE ON/OFFスイッチを押すと、本機の電源をスタンバイ状態にすることができます。

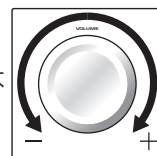
本体では

●音の大きさを調節したい!

VOLUME+/−キーを押します。または本体のVOLUMEコントロールを回します。

本体では

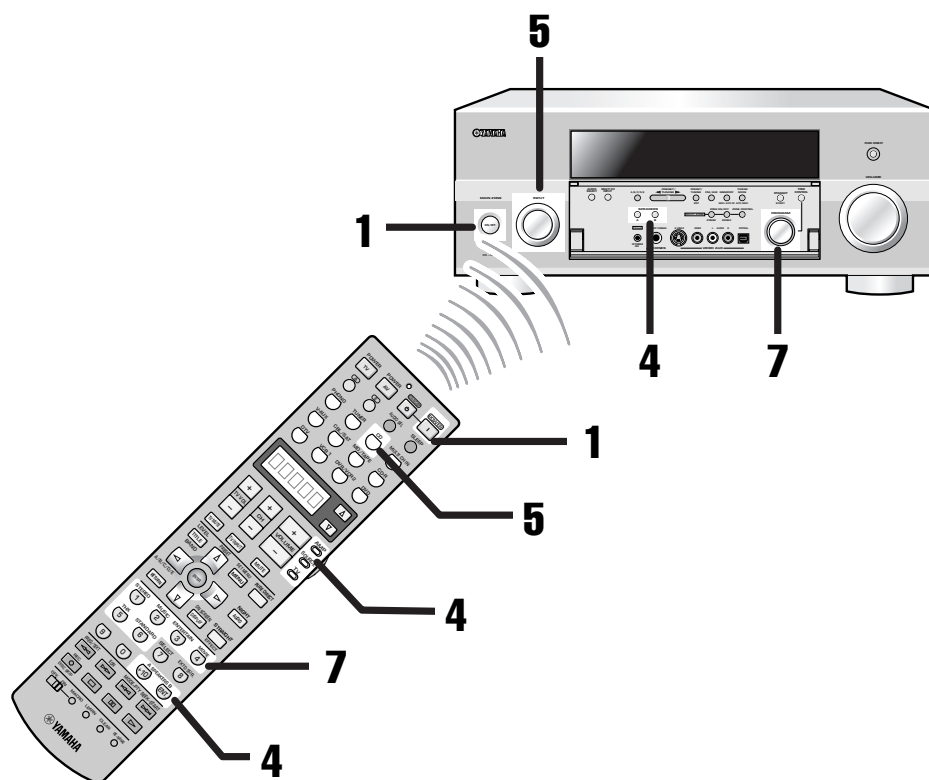
●本機のリモコンで他の機器を操作したい!

リモコンコードを設定すると、本機のリモコンで、テレビなど他の機器を操作することができます。詳しくは「取扱説明書」74ページをご覧ください。

●一時的に音を下げたい!(消音)

MUTEキーを押します。もう一度MUTEキーを押すと元の音量に戻ります。

お知らせ

- 消音中は、本体ディスプレイに「AUDIO MUTE ON」と表示され、MUTEインジケーターが点滅します。
- VOLUMEキーや音場プログラムキーなどを押しても消音は解除されます。
- セットメニュー「AUDIO SET」の「MUTE TYPE」で下げる音量を選ぶことができます。詳しくは「取扱説明書」59ページをご覧ください。

CD を聴く

1 本機の電源を入れます

2 CD プレーヤーの電源を入れます

詳しくは CD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

3 CD をセットします

CD プレーヤーのディスクトレイを開き、ディスクレーベル（印刷面）のある面を上にして、ディスクをディスクトレイにのせます。ディスクをのせたら、ディスクトレイを閉めます。

一部のプレーヤーでは、セット方法が違う場合があります。詳しくは、CD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

4 スピーカーを選びます

AMP/SOURCE/TV スイッチをスライドさせて AMP を選んでからスピーカーを選択してください。

5 本機の入力を切り替えます

入力を切り替えると、本体ディスプレイに選んだ入力の名前と入力モードが数秒間表示されます。

6 再生を始めます

詳しくは CD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

7 音場プログラムを選びます

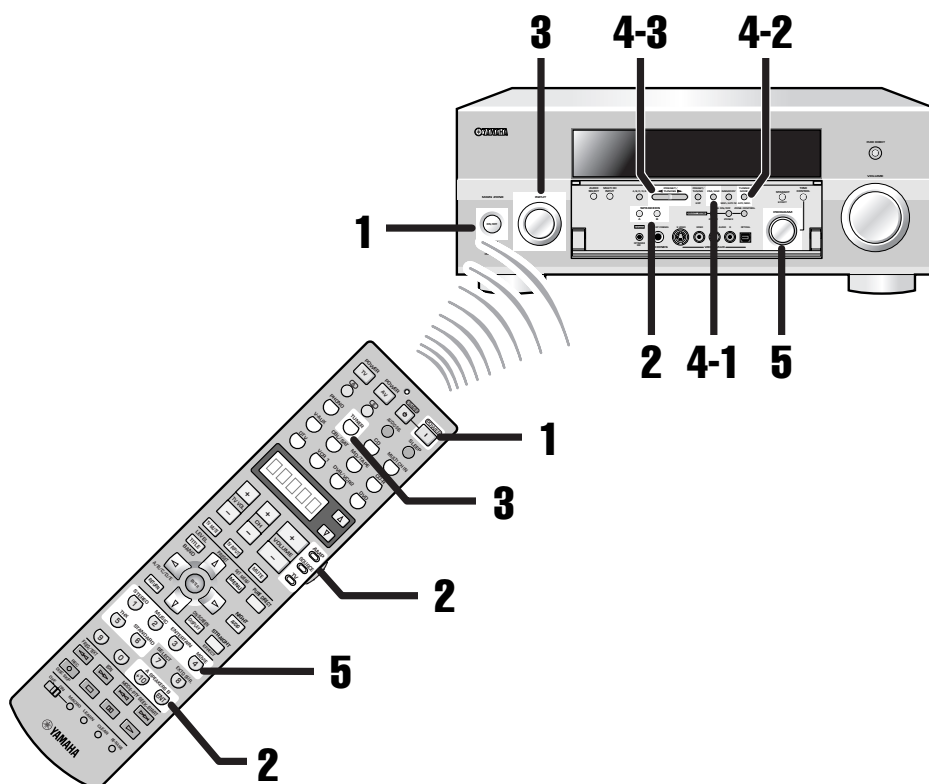
おすすめ

以下は音楽を聴くときにおすすめの音場プログラムです。なお、それぞれの音場の特徴など、詳しくは「取扱説明書」18 ページをご参照ください。

・音楽を聴くとき
→ MUSIC
→ ENTERTAINMENT

聴きおわったらSTANDBYキーを押して本機の電源をスタンバイにします。

・音の大きさを調節するには？（44 ページ）
・リモコンコードを設定すると、本機のリモコンで CD プレーヤーを操作することができます。詳しくは「取扱説明書」74 ページをご参照ください。
・高音質のステレオ音声で楽しみたい場合は、PURE DIRECT キーを押すと原音に忠実に高音質で再生するピュアダイレクトモードで楽しむことができます。詳しくは「取扱説明書」27 ページをご参照ください。

FM/AM 放送を聴く

1　本機の電源を入れます

2　スピーカーを選びます

AMP/SOURCE/TV スイッチをスライドさせて AMP を選んでからスピーカーを選択してください。

3　本機の入力をTUNERに切り替えます

入力を切り替えると、本体ディスプレイに「TUNER」と数秒間表示されます。

4　放送局を選びます

＜自動的に選局する場合（オート選局）＞

4-1.FM/AM キーを押して、FM または AM を選ぶ

4-2.TUNING MODE（AUTO/MAN'L）キーを押して、ディスプレイにAUTOインジケーターを点灯させる

4-3.PRESET/TUNING⊲/⊳ キーを押して、受信したい放送局を選ぶ

＜手動で選局する場合（マニュアル選局）＞

4-1.FM/AM キーを押して、FM または AM を選ぶ

4-2.TUNING MODE（AUTO/MAN'L）キーを押して、ディスプレイの AUTO インジケーターを消す

4-3.PRESET/TUNING⊲/⊳ キーを押す

5　音場プログラムを選びます

おすすめ

以下は音楽を聴くときにおすすめの音場プログラムです。なお、それぞれの音場の特徴など、詳しくは「取扱説明書」18 ページをご覧ください。

・音楽を聴くとき

→ MUSIC

→ ENTERTAINMENT

聴きおわったらSTANDBYキーを押して本機の電源をスタンバイにします。

ヒント　音の大きさを調節するには？（44 ページ）

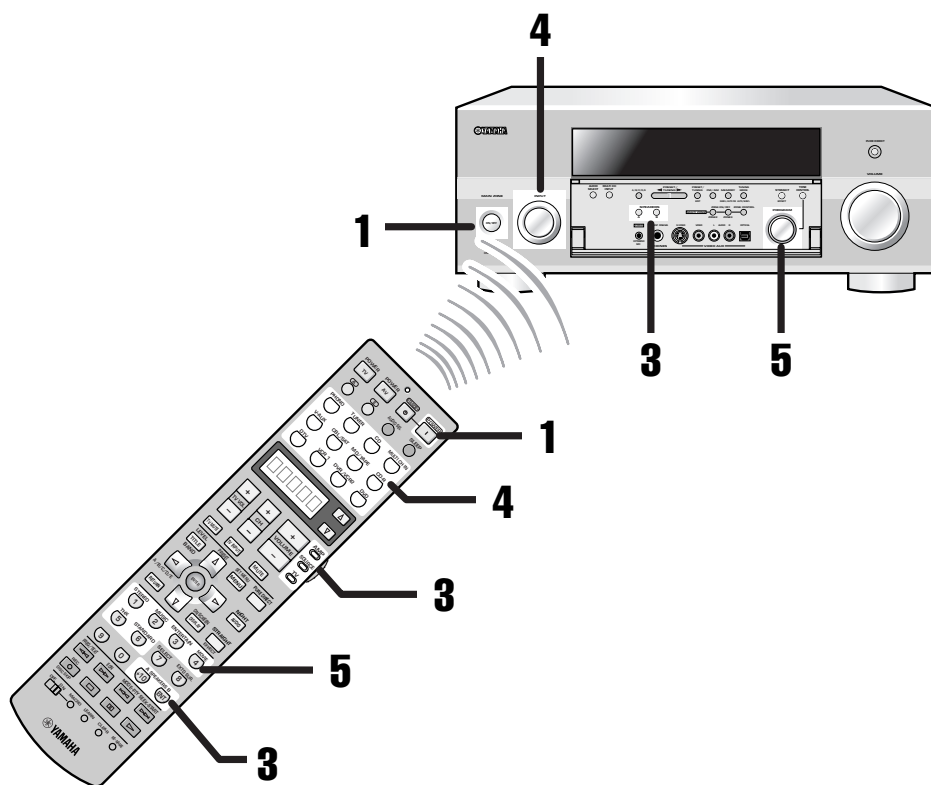
こんなときは・・・

●雑音が入って聴きづらい！

アンテナの高さや方向、接続などを確認してください。詳しくは 31 ページをご覧ください。

●放送局を登録したい！

お好みの放送局を登録することにより､簡単に放送局を呼び出せます。詳しくは「取扱説明書」29 ページをご覧ください。

その他のソースを楽しむ

ご注意
HDMIで接続した場合は、入力モードをAUTOまたはHDMIに設定して再生してください。詳しくは「取扱説明書」42ページをご覧ください。

1 本機の電源を入れます

2 接続機器の準備をします

接続機器の電源を入れ、ソフトをセットします。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。

3 スピーカーを選びます

AMP/SOURCE/TV スイッチをスライドさせて AMP を選んでからスピーカーを選択してください。

4 接続機器にあわせて本機の入力を切り替えます

入力を切り替えると、本体ディスプレイに選んだ入力の名と入力モードが数秒間表示されます。

CD を聴く→ CD キー
レコードを聴く→ PHONO キー
スーパーオーディオCD/DVDオーディオを聴く
→ MULTI CH IN キー
ゲームを楽しむ→ V-AUX キー

5 音場プログラムを選びます

おすすめ

以下は映画を見るとき、音楽を聴くときにおすすめの音場プログラムです。なお、それぞれの音場の特徴など、詳しくは「取扱説明書」18ページをご覧ください。

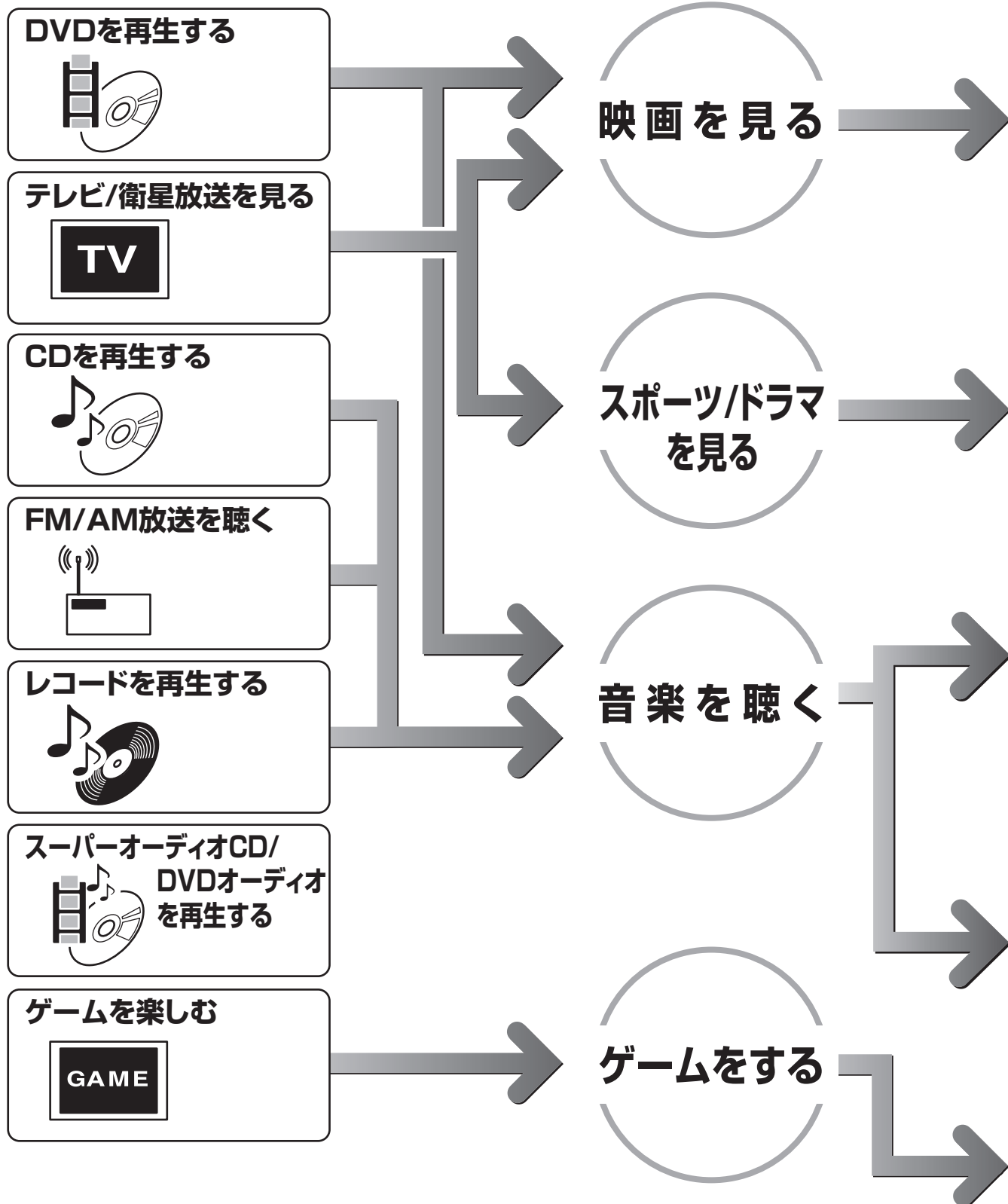
・映画を見るとき
→ MOVIE THEATER
→ THX
→ DOLBY DIGITAL/DTS/AAC
→ PRO LOGIC
→ PRO LOGIC Ⅱx
→ DTS Neo:6
→ SRS CS Ⅱ

・音楽を聴くとき
→ MUSIC
→ ENTERTAINMENT

聴きおわったらSTANDBYキーを押して本機の電源をスタンバイにします。

・音の大きさを調節するには？（44ページ）

何を見ますか、何を聴きますか？

本機でお楽しみいただける音場プログラムの一覧です。見たい/聴きたいものに合わせて、音場プログラムを選び、再生してみましょう。音場プログラムの詳細については「取扱説明書」18ページをご参照ください。

効果的にお楽しみいただくには

音場を選びます		特長または最適ソース
映画館の感覚で聴きたい	MOVIE 4 **MOVIE THEATER**	
	Spectacle	70mm映画の大画面のスペクタクルな音場
	Sci-Fi	最新のSFX映画をクールに楽しめる音場
	Adventure	アドベンチャー映画を大迫力で楽しめる音場
	General	情緒的な映画を柔らかく再現する音場
	THX 5 **THX**	
	THX Cinema	あらゆるソースを、映画館の迫力で再現
	THX Surround EX	あらゆるマルチチャンネルソースを、映画館の迫力で再現
	STANDARD 6 **DOLBY DIGITAL/DTS/AAC**	
	Surround	ドルビーデジタル、DTS、AAC信号を忠実に再現
	Enhanced	ドルビーデジタル、DTS、AAC信号に音場効果を与える
	PRO LOGIC	
	Surround	ドルビープロロジック信号を忠実に再現
	Enhanced	ドルビープロロジック信号に音場効果を与える
	PRO LOGIC IIx	
	Movie Music	2チャンネル音声を仮想的にマルチチャンネル化して再生
	DTS Neo:6	
	Cinema Music	2チャンネル音声を仮想的にマルチチャンネル化して再生
	SRS CS II	
	Cinema Music	2チャンネル音声を仮想的にマルチチャンネル化して再生
雰囲気よく聴きたい	ENTERTAIN 3 **ENTERTAINMENT**	
	Mono Movie	往年のモノラル映画を自然に再生する音場
	TV Sports	バラエティやスポーツ中継番組など、適用範囲の広い音場
大ホール感覚で聴きたい	MUSIC 2 **MUSIC**	
	Hall in Vienna	響きが豊かな古典的な中ホールの音場
ライブハウス/コンサート感覚で聴きたい	MUSIC 2 **MUSIC**	
	The Bottom Line	ニューヨークで話題のライブハウス「ザ・ボトム・ライン」の音場
	The Roxy Theatre	ロサンゼルスのホットなロックライブハウスの音場
	Pop/Rock	ロック、ジャズなどのライブコンサートを再現する音場
	ENTERTAIN 3 **ENTERTAINMENT**	
	Disco	ホットなディスコの雰囲気を再現する音場
	THX 5 **THX**	
	THX music	ライブやコンサートのサウンドを大迫力で楽しめる音場
弾むテンポで聴きたい	ENTERTAIN 3 **ENTERTAINMENT**	
	Game	TVゲームの軽快なノリをさらに加速する、痛快なテンポの音場
	THX 5 **THX**	
	Game	TVゲームのサウンドを大迫力で楽しめる音場
	STANDARD 6 **PRO LOGIC IIx**	
	Game	2チャンネル音声を仮想的にマルチチャンネル化して再生

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/audio/

■ お客様ご相談センター

ナビダイヤル(全国共通) 0570-01-1808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。
TEL(053)460-3409

FAX (053)460-3459
〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1

受 付 日:月～土曜日(祝日およびセンターの休業日を除く)
受付時間:10:00～12:00、13:00～18:00

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ電気音響製品修理受付センター

ナビダイヤル(全国共通) 0570-012-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

FAX (053)463-1127

受 付 日:月～土曜日(祝日およびセンターの休業日を除く)
受付時間:月～金曜日 9:00～19:00　土曜日 9:00～17:30

修理お持ち込み窓口
受 付 日:月～金曜日(祝日および弊社の休業日を除く)
受付時間:9:00～17:45

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

浜松 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内
FAX (053)462-9244

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪 〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● 保証期間
お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を!

愛情点検

こんな症状はありませんか?
- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。
事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中沢町10-1

DSP AVアンプ

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

DSP-AX1600

取扱説明書

本機の性能をフルに活用していただくためのものです。音場プログラムの変更やセットメニューを使った設定の変更、リモコンの使いこなし、その他便利な機能について説明しています。
本機に接続した機器の基本的な操作については「スタートアップ ガイド」をご覧ください。

■ 本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

安全上のご注意

本機をお使いいただく前に、スタートアップガイドに記載されている「安全上のご注意（安全に正しくお使いいただくために）」をお読みのうえ、正しくお使いください。

もくじ

本機について

いろいろな再生のしかた

オリジナルのリスニング環境をつくる

便利な機能

メニューで設定を変更する

リモコンを使いこなす

その他の情報

本機の特長

HDMI対応

次世代のテレビ向けデジタルインターフェイスであるHDMI端子を、入力2つ、出力1つの合計3つ装備しています。1本のHDMIケーブルを接続するだけで、デジタル音声信号とデジタル映像信号をデジタルのまま、高音質/高画質で伝送したり、本機で再生することができます。

高音質7チャンネルパワーアンプ搭載

バランスの良い、7チャンネルパワーアンプを搭載しています。

- フロントL/R：　120W+120W*
- センター：　120W*
- サラウンドL/R：　120W+120W*
- サラウンドバックL/R：　120W+120W*

*定格出力時

THX規格対応

THX SELECT2 SURROUND EX

THX社が提唱する劇場用音響の品質規格に準拠。映画製作者の製作意図をご家庭でも忠実に再現します。またTHX SURROUND EXデコーダーを搭載し、ドルビーデジタルEX方式で収録された映像ソフトを、映画館上映時と同等の臨場感で再生することができます。

ビデオコンバージョン機能

コンポジットビデオ、Sビデオ、コンポーネントビデオ信号を他の種類の信号に変換し出力できます。また、480/576i（インターレース）の信号を480/576p（プログレッシブ）に変換し出力できます。

マルチゾーン機能

本機を設置している部屋とは別の部屋で、異なるソースを楽しむことができます。

視聴環境最適化システム「YPAO」搭載

YPAO（Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer）により、耳で聞くだけでは、正確な調整が難しかったマルチチャンネル用のセットアップを、高性能測定用マイクを使用して、自動で行います。お使いになるお部屋や、スピーカーシステムの構成に合わせて、最適な視聴空間を作り出します。

高音質設計

192kHz/24ビットD/Aコンバーターを、全チャンネルに採用しています。

デジタルサウンドフィールドプロセッサー(DSP)搭載

各種デコーダーと、ヤマハ独自のDSPによる、効果的な音場再生を実現します。ヤマハが誇るDSPを、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTS、AACに融合させて、音場効果を向上させています。

- 「バーチャルシネマDSP」：サラウンドL/Rスピーカーなしでも、音場効果を楽しめます。
- 「サイレントシネマ」：ヘッドホン使用時でも、音場効果を楽しめます。

多機能リモコン

付属リモコンは14面の機器操作エリアを持っており、内蔵プリセットコードやラーニング機能、マクロ機能を利用して、他のAV機器の操作を本機のリモコンでおこなうことができます。

最新の音響技術に対応

以下の信号方式に対応したデコーダーを搭載しています。

■ドルビーデジタル
■ドルビーデジタルEX

専用のマトリクスデコーダーを使用して、5.1チャンネルソフトのサラウンドL/Rチャンネルからサラウンドバックチャンネルを抽出し、6.1チャンネルで再生します。

■ドルビープロロジック
■ドルビープロロジックⅡx

5.1チャンネルソフトを信号処理し、サラウンドバックチャンネルを加えた6.1/7.1チャンネルで再生します。また、2チャンネル音声（モノラル音声を除く）で記録されたソースも、優れた分離感を保ちながら6.1/7.1チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

■DTS
■DTS-ES(エクステンディッド・サラウンド)

フロント3チャンネル、リア2チャンネル、低音チャンネルLFE(ロー・フリークエンシー・エフェクト)という従来の5.1チャンネル構成に、サラウンドバックチャンネルを加えて6.1チャンネルとし、さらにこれらのチャンネルを独立させて収録したディスクリート6.1方式に対応しています。またマトリクス回路により、5.1チャンネルで収録されたソフトからサラウンドバックチャンネルを抽出するマトリクス6.1方式にも対応しています。

■DTS Neo：6(ネオ・シックス)

2チャンネル音源から最大6チャンネルを抽出し、再生します。ソースに合わせ、音楽用のMusicモードと、映画のサウンドトラック用のCinemaモードが用意されています。

■DTS 96/24

5.1チャンネルすべてを「サンプリング周波数96kHz/量子化ビット数24bit」の高音質での再生を実現します。

■AAC(アドバンスド・オーディオ・コーディング)

BSデジタル放送や地上波デジタル放送が採用している音声フォーマット。高圧縮率と高音質が特長で、通常の2チャンネルステレオ音声に加え、5.1チャンネルのサラウンド音声や多言語の放送を可能にしています。

■SRS Circle Surround Ⅱ

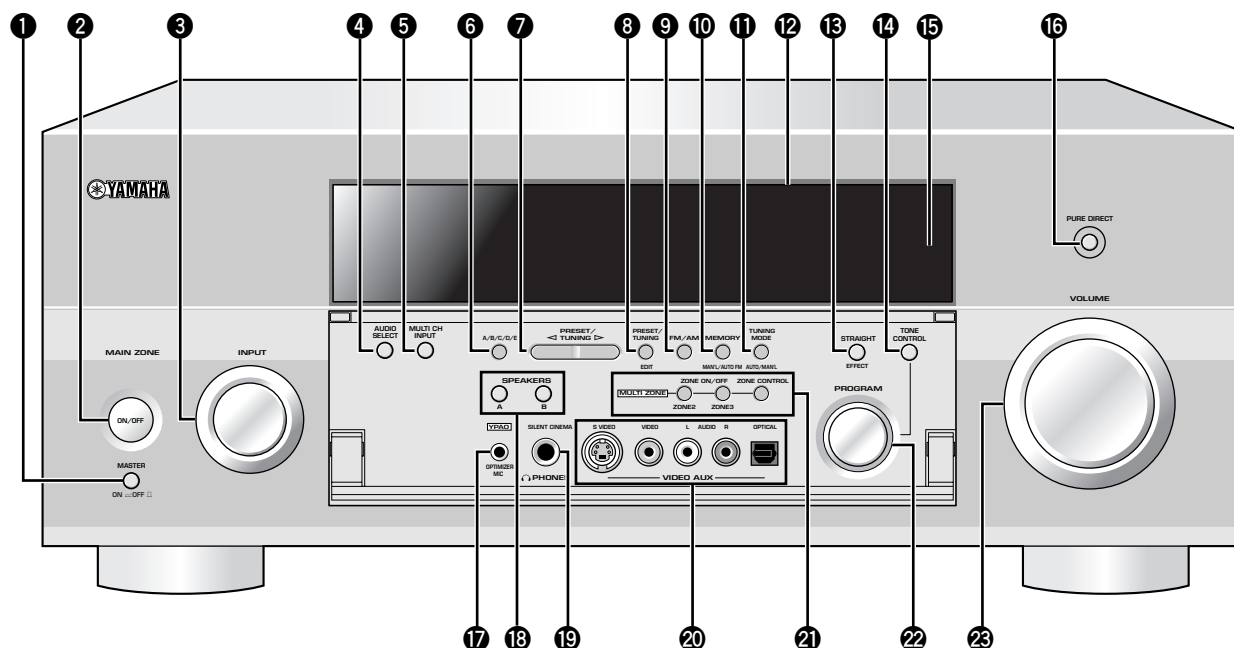
アナログソース、デジタルソースに関わらず、あらゆる2チャンネルソースをマトリクス処理し、6.1チャンネルで再生します。

SILENT™
CINEMA

■サイレントシネマ

マルチスピーカーによる音場プログラムの効果を、ヘッドホンで擬似的に再現します。

各部の名称とはたらき

前面（フロントパネル）

❶ MASTER ON/OFFスイッチ
本機の電源をオン/オフします。
オンにするとメインゾーンの電源も連動してオンになります。オンになっているときにはフロントパネルスイッチまたはリモコンキーで本機を操作することができます。
オフになっている間も、少量の電力を消費しています。

❷ MAIN ZONE ON/OFFスイッチ
MASTER ON/OFFスイッチがオンのとき、メインゾーンの電源をオン/スタンバイ（待機）にします。

❸ INPUTセレクター
再生する入力ソースを選びます。

❹ AUDIO SELECTキー
入力信号を自動的に判別するか、または特定の入力信号に固定するかを切り替えます（42ページ）。

❺ MULTI CH INPUTキー
本機背面のMULTI CH INPUT端子に入力されている信号を選びます（「スタートアップガイド」29ページ）。本体のINPUTセレクターや、リモコンの入力選択キーで選んだ入力ソースよりも優先されます。

❻ A/B/C/D/Eキー
FM/AM放送を聴くときに、プリセットグループ(A、B、C、D、E)を選びます。

❼ PRESET/TUNING ◁/▷キー
聴く放送局を選びます。1～8の登録（プリセット）した局から選ぶか、周波数で選局します（「スタートアップガイド」46ページ）。

❽ PRESET/TUNING (EDIT)キー
FM/AM放送を聴くときに、あらかじめ登録（プリセット）した局から選ぶか、または周波数で選局するかを切り替えます。また、登録した局の入れ替えもこのキーで行います（32ページ）。

❾ FM/AMキー
FM放送、AM放送の受信を切り替えます。

❿ MEMORY (MAN' L/AUTO FM)キー
受信した放送局を登録（プリセット）します。3秒以上押すと、オートプリセット機能を利用できます（29ページ）。

⓫ TUNING MODE (AUTO/MAN' L)キー
自動（オート）選局または手動（マニュアル）選局を選びます。自動選局する場合は、このキーを押してAUTOインジケーターを点灯させます。手動選局する場合は、AUTOインジケーターを消します（「スタートアップガイド」46ページ）。

⓬ ディスプレイ
音場プログラムの名前や、設定値などを表示します（11ページ）。

⑬ STRAIGHT/EFFECTキー

音場効果を加えない音声と、音場効果を加えた音声とを切り替えます。「STRAIGHT」を選ぶと、入力された信号に対応するデコーダで忠実にデコードし、音場効果をかけずに再生します(28ページ)。

⑭ TONE CONTROLキー

フロントL/R、センターチャンネルの音声の音色を調節するときに押します。キーを押すごとに、BASS(低音域)とTREBLE(高音域)が切り替わります。このキーを押した後に、PROGRAMセレクター(㉒)で、音色を調節します。

ご注意

- トーンコントロールにより、フロントL/Rおよびセンターチャンネルを極端に増強、または減衰した場合、他のスピーカーとの音のつながりが悪くなることがあります。
- THXサラウンドモード(15ページ)で再生しているときは、トーンコントロールで音色を調節できません。

⑮ リモコン受光部

リモコンからの信号を受信します。

⑯ PURE DIRECTキー

原音に忠実に最高の音質で再生するピュアダイレクトモードのオン/オフを切り替えます(27ページ)。

⑰ OPTIMIZER MIC端子

自動音場補正(YPAO)用のマイクを接続します(「スタートアップガイド」35ページ)。

⑱ SPEAKERS A/Bスイッチ

FRONT A/B SPEAKERS端子に接続されたフロントL/Rスピーカーのうち、音声を出力するフロントL/Rスピーカーを選びます(「スタートアップガイド」42ページ)。

⑲ PHONES(SILENT CINEMA)端子

ヘッドホンを接続します。ヘッドホンを接続すると、すべてのスピーカーから音が出ませんので、深夜に音声を楽しむ際は、ヘッドホンをお使いくださるようおすすめします。ヘッドホンを接続時は、「サイレントシネマ」で音声を楽しむことができます(17ページ)。

⑳ VIDEO AUX端子

ゲーム機やビデオカメラなどを接続する、予備入力端子です。この端子に入力された信号を再生するには、INPUT セレクター、またはリモコンの入力選択キーで「V-AUX」を選びます。

㉑ MULTI ZONEキー

ZONE 2 ON/OFFキー

MASTER ON/OFFスイッチがオンのとき、ゾーン2の電源のオン/スタンバイを切り替えます。

ZONE 3 ON/OFFキー

MASTER ON/OFFスイッチがオンのとき、ゾーン3の電源のオン/スタンバイを切り替えます。

ZONE CONTROLキー

操作するゾーン(メインゾーン/ゾーン2/ゾーン3)を切り替えます。

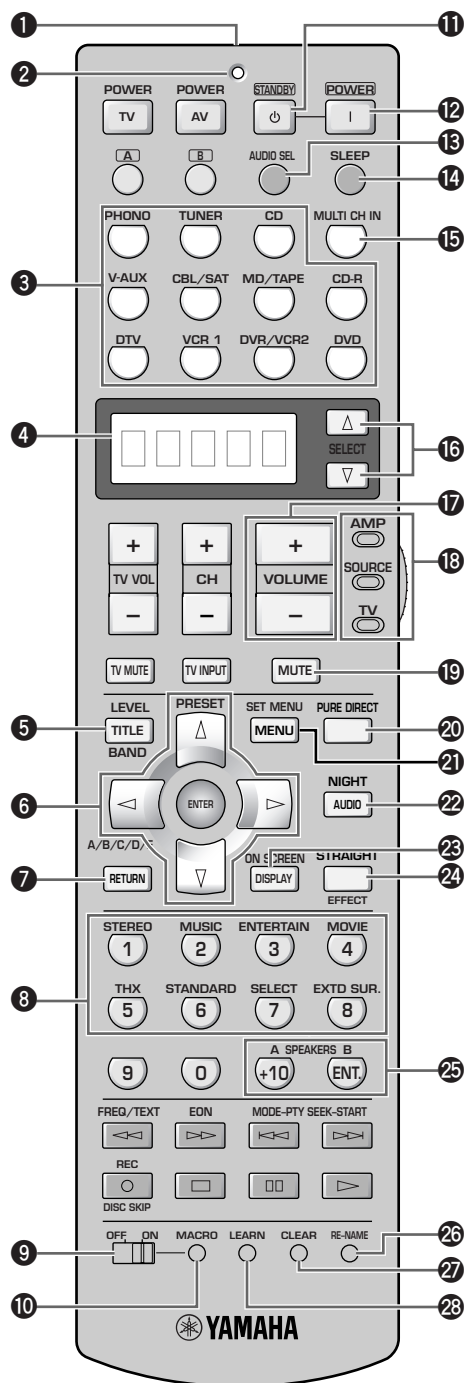
㉒ PROGRAMセレクター

音場プログラムを選ぶときに回します(「スタートアップガイド」43ページ)。
またTONE CONTROLキー(⑭)を押したあとは、スピーカーから出力される音声の音色を調節します。

㉓ VOLUMEコントロール

本機の音量を調節します。
録音用のOUT(REC)端子の音量には影響しません。

リモコン

⓲AMP/SOURCE/TVスイッチでAMPを選択しているときに、本機を操作することができます。また、⓲AMP/SOURCE/TVスイッチでSOURCEまたはTVを選択しているときは、他の機器を操作することもできます。他の機器の操作については79～82ページをご覧ください。

❶ 赤外線送受信部

リモコン操作用の赤外線信号を送受信します（「スタートアップガイド」8ページ）。

❷トランスミッションインジケーター

リモコン操作用の赤外線信号を送信しているときに、点灯します。

❸ 入力選択キー

再生する入力ソースを選びます。入力ソースに合わせて、リモコンの機能も切り替わります。

❹ リモコンディスプレイ

操作できる機器の名前を表示します。

❺ LEVEL（レベル）、BAND（バンド）キー

スピーカーの音量を調節します。

チューナーモードのとき、受信するバンド（FM/AM）を切り替えます。（⓲:SOURCE）

❻ カーソル（△/▽/◁/▷）/ENTER（エンター）キー

セットメニューや音場プログラムパラメーターを選んだり、設定するときに使います。

チューナーモードのとき、△/▽キーでプリセット番号（1～8）を、◁/▷キーでプリセットグループ（A、B、C、D、E）を選びます。（⓲:SOURCE）

❼ RETURN（リターン）キー

セットメニューで、１つ前のメニュー表示に戻るときに押します。

❽ 音場プログラム、プリセット番号キー

音場プログラムを選びます（「スタートアップガイド」43ページ）。

チューナーモードのとき、プリセット番号（1～8）を選びます。

SELECT（セレクト）キー

2チャンネルソフトをマルチチャンネルで再生します（16ページ）。

EXTD SUR.（エクステンドサラウンド）キー

ドルビーデジタルやDTSなどのマルチソフトを6.1/7.1チャンネルで再生するときに押します（13ページ）。

❾ MACRO ON/OFFスイッチ
マクロ機能のオン/オフを切り替えます(87ページ)。

❿ MACROボタン
一連のキー操作を１つのキー操作でできるように設定するときに押します(87ページ)。

⓫ STANDBYキー
フロントパネルのMASTER ON/OFFスイッチがオンのとき、本機の電源をスタンバイにします(「スタートアップガイド」33ページ)。

⓬ POWERキー
フロントパネルのMASTER ON/OFFスイッチがオンのとき、本機の電源をオンにします(「スタートアップガイド」33ページ)。

⓭ AUDIO SELキー
入力信号を自動的に判別するか、または特定の入力信号に固定するかを切り替えます(42ページ)。

⓮ SLEEPキー
スリープタイマーを設定します(44ページ)。

⓯ MULTI CH INキー
本機背面のMULTI CH INPUT端子に入力されている信号を選びます(「スタートアップガイド」２９ページ)。本体のINPUTセレクターや、リモコンの入力選択キーで選んだ入力ソースよりも優先されます。

⓰ SELECT △/▽キー
入力ソースを切り替えずに、リモコンで操作したい機器を切り替えたいときに押して、操作したい機器の名前を表示させます。

⓱ VOLUME ＋/－キー
本機の音量を調節します。
録音用のOUT(REC)端子の音量には影響しません。

⓲ AMP/SOURCE/TVスイッチ
リモコンで操作する機器を選択します。
- **AMP**： 本機を操作するときに選びます。
- **SOURCE**： 入力選択キーで選んだ機器を操作するときに選びます。
- **TV**： TVを操作するときに選びます。

⓳ MUTEキー
音量を下げます(「スタートアップガイド」44ページ)。
もう一度押すと、元の音量に戻ります。

⓴ PURE DIRECTキー
原音に忠実に最高の音質で再生するピュアダイレクトモードのオン/オフを切り替えます(27ページ)。

㉑ SET MENUキー
セットメニュー画面を表示したり、メニューから抜けます。

㉒ NIGHTキー
夜間など、小音量で音声を楽しむときに押します(２８ページ)。

㉓ ON SCREENキー
オンスクリーン表示の種類を選択します(34ページ)。

㉔ STRAIGHT/EFFECTキー
音場効果を加えない音声と、音場効果を加えた音声とを切り替えます。「STRAIGHT」を選ぶと、入力された信号を対応するデコーダーで忠実にデコードし、音場効果をかけずに再生します(28ページ)。

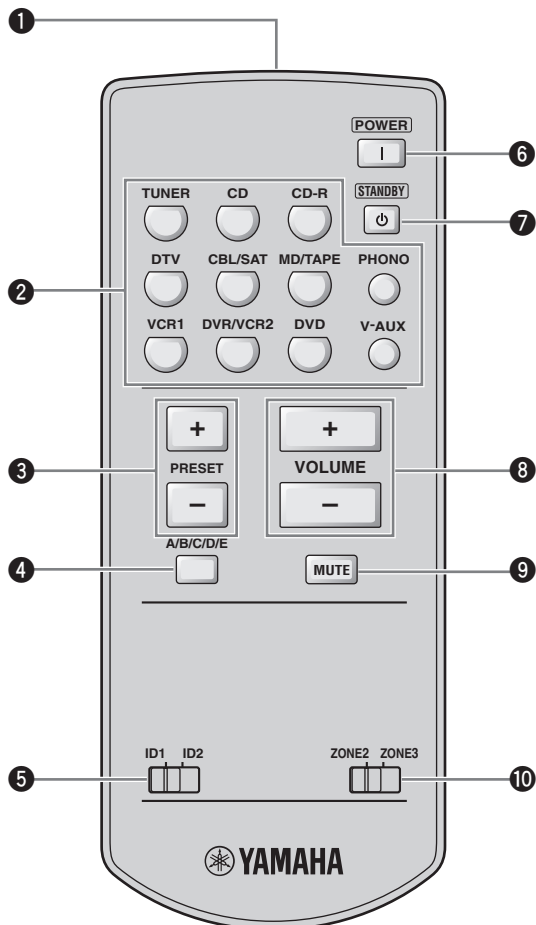
㉕ SPEAKERS A/Bキー
FRONT A/B SPEAKERS端子に接続されたフロントL/Rスピーカーのうち、音声を出力するフロントL/Rスピーカーを選びます(「スタートアップガイド」42ページ)。

㉖ RE-NAMEボタン
リモコンディスプレイに表示される入力機器名を変更するときに押します(85ページ)。

㉗ CLEARボタン
設定したリモコンコードや記憶(ラーニング)させた機能、マクロに設定した機能を消去するときや、変更した表示機器名を元に戻すときに押します(89ページ)。

㉘ LEARNボタン
リモコンコードを設定するときや、他の機器のリモコン信号を記憶させるときに押します(74、83ページ)。

ゾーンリモコン

ゾーン2/ゾーン3で使用するリモコンの機能について説明します。それぞれの機能はZONE2/ZONE3セレクター(❿)で選択しているゾーンで使用することができます。

❶ 赤外線送受信部
リモコン操作用の赤外線信号を送受信します(「スタートアップガイド」8ページ)。

❷ 入力選択キー
再生する入力ソースを選びます。

❸ PRESET+/−キー
チューナーモードのとき、A1〜E8の登録(プリセット)番号を切り替えます。

❹ A/B/C/D/Eキー
チューナーモードのとき、プリセットグループ(A、B、C、D、E)を選びます。

❺ ID切り替えスイッチ
リモコンのID1/ID2を切り替えます。
複数のヤマハ製アンプ/レシーバーを同じ部屋で使用している場合に、IDを切り替えることで誤動作を防止します。

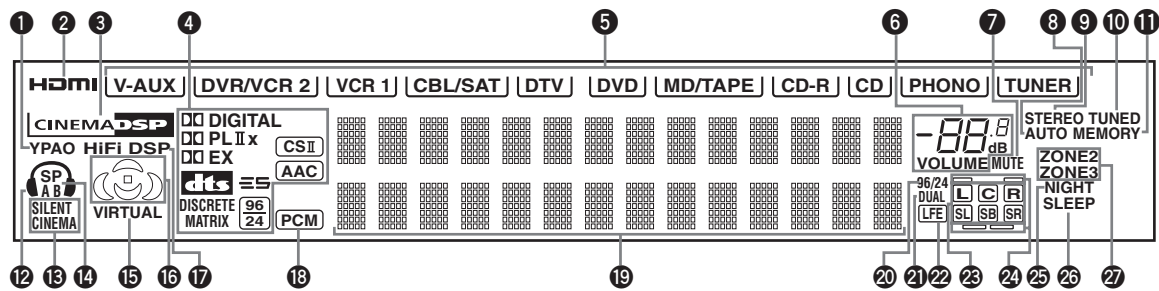
❻ POWERキー
フロントパネルのMASTER ON/OFFスイッチがオンのとき、電源をオンにします。

❼ STANDBYキー
フロントパネルのMASTER ON/OFFスイッチがオンのとき、電源をスタンバイにします。

❽ VOLUME +/−キー
音量を調節します。

❾ MUTEキー
音量を下げます。
もう一度押すと、元の音量に戻ります。

❿ ZONE2/ZONE3セレクター
ゾーンリモコンをどちらのゾーンで使うかを切り替えます。ZONE2側にするとゾーン2を操作するモードに切り替わり、ZONE3側にするとゾーン3を操作するモードに切り替わります。

ディスプレイ

❶ **YPAOインジケーター**

「AUTO　SETUP」の手順を行っている間と、「AUTO SETUP」での設定が有効になっている状態で点灯します。

❷ **HDMIインジケーター**

HDMI IN 端子に他の機器を接続し、HDMI入力信号を選択しているときに点灯します。HDMI入力信号を選択していないときには消灯します。

❸ **CINEMA（シネマ） DSPインジケーター**

CINEMA DSP音場プログラムを使って再生しているときに点灯します。

❹ **デコーダーインジケーター**

本機内蔵のデコーダーが作動しているときに、それぞれのインジケーターが点灯します。

❺ **入力ソースインジケーター**

現在選んでいる入力ソースの名前の下に、▁▁▁が点灯します。

❻ **VOLUME（ボリューム）インジケーター**

現在の音量を表示します。

❼ **MUTE（ミュート）インジケーター**

MUTEキーを押して、音量を下げている間点滅します（「スタートアップガイド」44ページ）。

❽ **AUTO（オート）インジケーター**

自動（オート）で放送局を選ぶときに点灯します。

❾ **STEREO（ステレオ）インジケーター**

自動（オート）で放送局を選んでいるときに、電波の強いFMステレオ放送を受信すると、点灯します。

❿ **TUNED（チューンド）インジケーター**

FM/AM放送が受信されたときに点灯します。

⓫ **MEMORY（メモリー）インジケーター**

放送局を登録（プリセット）するときに点滅します。

⓬ **ヘッドホンインジケーター**

PHONES（SILENT CINEMA）端子に、ヘッドホンを接続しているときに点灯します。

⓭ **SILENT（サイレント） CINEMA（シネマ）インジケーター**

ヘッドホンを接続して「サイレントシネマ」で再生しているときに点灯します。

⓮ **SP（スピーカーズ） A/Bインジケーター**

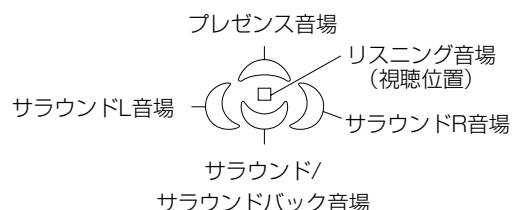
選んでいるフロントL/Rスピーカー（A、B）を表示します（「スタートアップガイド」42ページ）。

⓯ **VIRTUAL（バーチャル）インジケーター**

バーチャルシネマDSPモードで再生しているときに点灯します（17ページ）。

⓰ **音場インジケーター**

DSP音場プログラムを使っているときに、本機がどのように音場を処理しているかを表示します。

⓱ **HiFi（ハイファイ） DSPインジケーター**

HiFi DSP音場プログラムを使って再生しているときに点灯します。

⓲ **PCMインジケーター**

PCM信号を再生しているときに点灯します。

⓳ **マルチインフォメーションディスプレイ**

音場プログラムの名前や、設定値などが表示されます。

⓴ **96/24インジケーター**

DTS 96/24信号が入力されているときに点灯します。

㉑ DUAL（デュアル）インジケーター

ドルビーデジタル、DTSおよびAACのDUAL MONOまたはMULTI MONOなど、音声多重モノラルのデジタル信号が入力されているときに点灯します。

㉒ LFEインジケーター

入力されているデジタル信号に、LFE（低域効果音）チャンネルが含まれているときに点灯します。

㉓ 入力信号チャンネルインジケーター

入力されているデジタル信号に含まれている、チャンネルの数に合わせて点灯します。
また、セットメニュー「AUTO SETUP」（「スタートアップガイド」35ページ）で測定しているときに点滅します。

㉔ プレゼンス/サラウンドバックインジケーター

セットメニュー「MANUAL SETUP－BASIC MENU－TEST TONE」（56ページ）を「ON」に設定すると、設定されているプレゼンス/サラウンドバックスピーカーの本数に応じて点灯します。
スピーカーの本数は、「AUTO SETUP」（「スタートアップガイド」35ページ）や、「MANUAL SETUP－BASIC MENU－SPEAKER SET」（52ページ）で設定できます。

㉕ NIGHT（ナイト）インジケーター

ナイトリスニングモードで再生しているときに点灯します（28ページ）。

㉖ SLEEP（スリープ）インジケーター

スリープタイマーが作動しているときに点灯します（44ページ）。

㉗ ZONE2/ZONE3（ゾーン）インジケーター

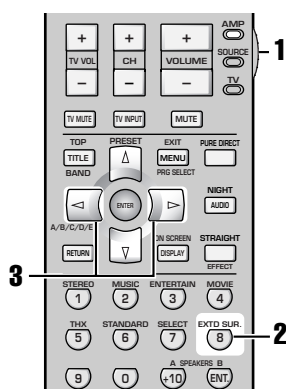
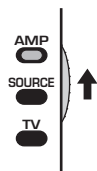
ゾーン2またはゾーン3の電源がオンのときに点灯します（47ページ）。

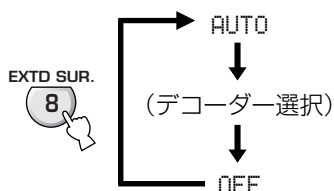
ドルビーデジタル/DTSソフトを再生する

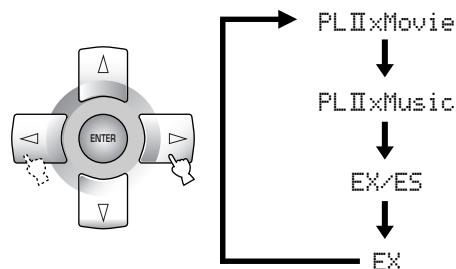
5.1チャンネルで再生する

ドルビーデジタル、DTS、AAC信号が入力されると、本機は自動的にそれらの信号フォーマットに適した、デコーダーおよび音場プログラムを選んで再生します(23ページ)。

6.1/7.1チャンネルで再生する

ドルビーデジタルEXやDTS-ESなど、サラウンドL/R成分があるソースは、サラウンドバックスピーカーの音声を加えて、6.1/7.1チャンネルで再生することができます。

1 ***AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせてAMPを選ぶ***

2 ***EXTD SUR.キーを押して、下記の(デコーダー選択)を選ぶ***

押すごとにフロントパネルディスプレイの表示が下記のように切り替わります。

3 ***◁ / ▷ キーを押して、再生モード(デコーダー)を切り替える***

6.1または7.1チャンネル再生で使うデコーダーを選ぶことができます。

AUTO
本機が確認できる信号(フラグ)が記録されているソースが入力されると、信号に応じて最適なデコーダーを自動的に選び、6.1または7.1チャンネルで再生します。
本機がフラグを認識できない、またはソース自体にフラグが記録されていない場合は、6.1/7.1チャンネルで再生されません。

PLⅡxMovie
プロロジックⅡxデコーダーにより、ドルビーデジタル、DTS、AACを7.1チャンネルで再生します。

PLⅡxMusic
プロロジックⅡxデコーダーにより、ドルビーデジタル、DTS、AACを6.1/7.1チャンネルで再生します。

EX/ES
ドルビーデジタルEXデコーダーにより、ドルビーデジタルおよびAACを6.1チャンネルで再生します。
またDTS-ESデコーダーにより、DTSを6.1チャンネルで再生します。

EX
ドルビーデジタルEXデコーダーにより、ドルビーデジタル、DTS、AACを6.1チャンネルで再生します。

OFF
6.1/7.1チャンネルでの再生はしません。5.1チャンネルで再生されます。

次ページの「ご注意」も必ずお読みください。

ご注意

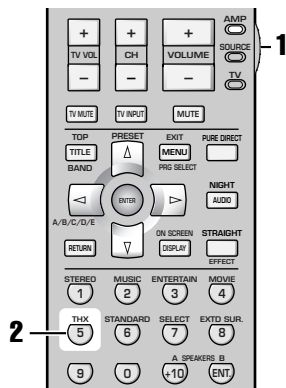
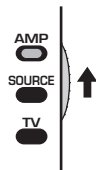
- 以下の場合は、EXTD SUR.キーを押しても、6.1または7.1チャンネルで再生されません。
  - セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. L/R SP」を、「NONE」に設定しているとき(52ページ)。
  - セットメニュー「SPEAKER SET」の「SB L/R SP」を、「NONE」に設定しているとき(53ページ)。
  - 2ch Stereo、7ch Stereoを、音場プログラムとして選んでいるとき。
  - ピュアダイレクトモードで再生しているとき(27ページ)。
  - サラウンドL/R成分のないソース(2チャンネルのPCM、アナログ信号など)を再生しているとき。
  - MULTI CH INPUT端子に接続したソースを再生しているとき。
  - ヘッドホンを接続しているとき。
- セットメニュー「SPEAKER SET」の「SB L/R SP」を、「LRG×1」または「SMAL×1」に設定しているときは、「PLⅡx Movie」を選べません(53ページ)。
- 本機の電源をスタンバイにすると、再生モードは自動的にAUTOになります。

ダイアログ・ノーマライゼーション

DialNorm··+4dB

「ダイアログ・ノーマライゼーション」とは、ドルビーデジタルおよびDTSにおいて、音声信号に含まれている情報(THX推奨値)に基づいて各ソフトの音量を自動的に補正する機能です。この機能が作動すると、再生開始時に上図のように一定時間表示されます。ここでの数値はダイアログ・ノーマライゼーションによって補正された音量を表しています。

THXサラウンドモードで再生する

THXサラウンドモードでは、映画のサウンドトラックを、一般家庭でリアルに再現することができます。どのようなソフトに対しても効果的ですが、ドルビーデジタル、DTSソフトを再生するときには、特に威力を発揮します。

1 リモコンのAMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせてAMPを選ぶ

2 THXキーを押す

THXサラウンドモードで再生します。

2チャンネルソースの場合：

マルチチャンネル化してから、THX処理をして再生します。THX CinemaとTHX Gameモードを選択できます。

フロントパネルディスプレイに「THX」と表示され、続けて以下のように表示されます。

Cinema

Game

マルチチャンネルソースの場合：

入力信号の種類により、最適なデコーダーで忠実にデコードしてから、THX処理をして再生します。THX Cinema、THX Select2 Cinema、THX Music、THX Game、THX Surround EXモードを選択できます。THX Surround EXモードでは、ドルビーデジタルEX方式のソフトを、サラウンドバックチャンネルを加えた計6.1または7.1チャンネルで再生します。EXTD SUR.キーを押して、EXデコーダーをオンにしてください(13ページ)。

フロントパネルディスプレイに「THX」と表示され、続けて以下のように表示されます。

Cinema

Select2 Cinema

Music

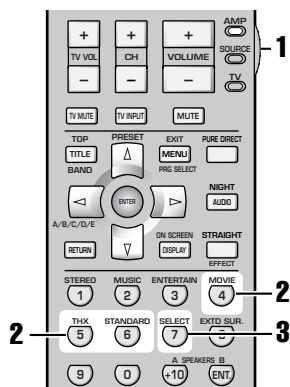
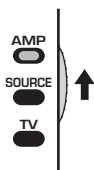
Game

Surround EX

ご注意

- セットメニュー「SPEAKER SET」の「SB L/R SP」を「NONE」に設定しているときは、THX Surround EXモードを選択できません。また、「LRGX2」または「SMLX2」以外に設定しているときは、THX Select2 Cinema、THX Music、THX Gameモードを選択できません(53ページ)。
- EXデコーダーで6.1または7.1チャンネル再生すると、THX Select2 CinemaモードはTHX Surround EXモードに切り替わります。また、EXデコーダー以外のデコーダーで6.1または7.1チャンネル再生すると、THX Cinemaモードに切り替わります。

2チャンネルソースをマルチチャンネルで楽しむ

ドルビープロロジック、ドルビープロロジックⅡx、DTS Neo:6デコーダーまたはTHX Cinemaモードを選ぶと、2チャンネルソースをマルチチャンネル化してお楽しみいただけます。

1 リモコンのAMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ

2 STANDARDキーを押して、「Surround」または「Enhanced」を選択する、あるいはMOVIEキー、THXキーを押して、MOVIE THEATERプログラム、THX Cinemaモードを選ぶ

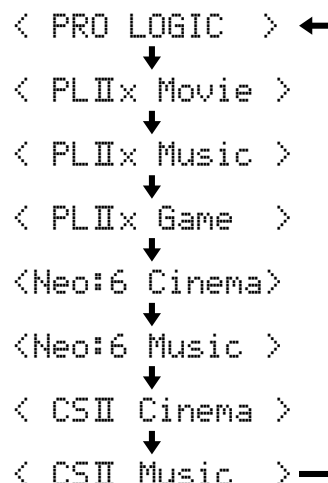
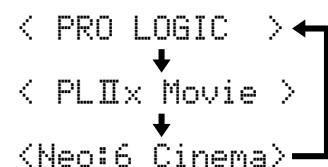
2チャンネル音声がマルチチャンネル音声になります。

または

または

3 SELECTキーを押して、デコーダーを選ぶ

右の図のようにデコーダーが切り替わり、DSPによる音場効果が付加されます。

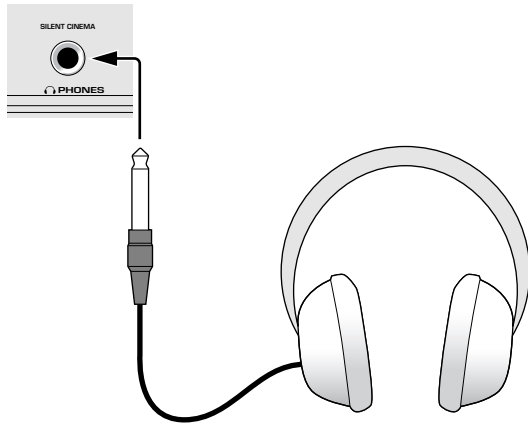
Surroundを選んだ場合

Enhanced、MOVIE THEATERプログラムまたはTHX Cinemaモードを選んだ場合

ヒント

ショートメッセージでデコーダー名が表示されている間は、リモコンの◁/▷キーでデコーダーを切り替えることもできます。

ご注意

セットメニュー「SPEAKER SET」の「SB L/R SP」を、「NONE」に設定しているときは、プロロジックⅡxデコーダーは自動的にプロロジックⅡデコーダーに切り替わります（53ページ）。

ヘッドホンで音場プログラムを楽しむ(サイレントシネマ)

音場効果が入っている状態で、ヘッドホンを本体のPHONES端子に接続すると、「サイレントシネマ」モードで再生を楽しめます。

「サイレントシネマ」モードでは、マルチスピーカーによる音場プログラムの効果を、ヘッドホンで擬似的に再現します。「サイレントシネマ」モードで再生している間は、フロントパネルディスプレイのSILENT CINEMAインジケーターが点灯します。

ご注意

以下の場合は、ヘッドホンを接続しても、「サイレントシネマ」モードには切り替わりません。

- 入力ソースにMULTI CH INPUTを選択しているとき。
- 2ch Stereoを音場プログラムとして選んでいるとき(27ページ)。
- ピュアダイレクトモードで再生しているとき(27ページ)。
- THXサラウンドモードで再生しているとき(15ページ)。
- ストレートデコードモードで再生しているとき(28ページ)。

サラウンドL/Rスピーカーなしで音場プログラムを楽しむ(バーチャルシネマDSP)

サラウンドL/Rスピーカーがない場合でも、バーチャルシネマDSPモードにより、臨場感あふれる再生を楽しめます。セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. L/R SP」を、「NONE」に設定すると(52ページ)、バーチャルシネマDSPモードで再生を楽しめます。

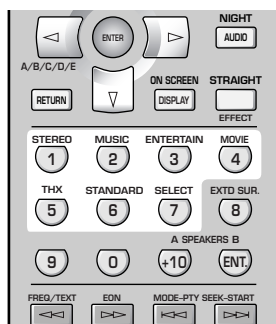
バーチャルシネマDSPモードでは、入力ソースの音声に、選んだ音場プログラムの音場効果を付加して、フロントL/Rスピーカー、センタースピーカーとサブウーファーから出力します。バーチャルシネマDSPモードで再生している間は、フロントパネルディスプレイのVIRTUALインジケーターが点灯します。

ご注意

以下の場合は、セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. L/R SP 」を、「NONE」に設定しても、バーチャルシネマDSPモードには切り替わりません。

- 2ch Stereo、7ch Stereoを音場プログラムとして選んでいるとき。
- Surroundを音場プログラムとして選んでいるとき。
- ピュアダイレクトモードで再生しているとき(27ページ)。
- THXサラウンドモードで再生しているとき(15ページ)。
- ストレートデコードモードで再生しているとき(28ページ)。
- ヘッドホンを接続しているとき。
- 入力ソースにMULTI CH INPUTを選択しているとき。

音場プログラムについて

本機には、音楽に最適なHiFi DSP音場プログラム、映画に最適なCINEMA DSP音場プログラム、元の音を忠実にデコードして再現するストレートデコードプログラムが搭載されています。表中の「キー」欄に描かれているリモコンキーを押して、音場プログラムを変更します。くり返し押すと、サブプログラムが切り替わります。

ご注意

- 本機の音場プログラムは、世界各地の実在のホールなどの音響特性を測定した結果に基づいて設計されています。そのため、前後左右で響きの強さや音量差が異なると感じられる場合がありますが故障ではありません。
- 音場プログラムの名前や説明にこだわらず、最も心地よく聞こえる音場プログラムをお選びください。

HiFi DSP音場プログラム

プログラムと特長

- CDなどのステレオ音楽ソースに最適なプログラムです。
- フロントL/Rスピーカーの他に4本のエフェクトスピーカー(プレゼンスL/プレゼンスR/サラウンドL/サラウンドR)で音場を再現します。
- 入力信号に応じて各種デコーダーが使用されます。

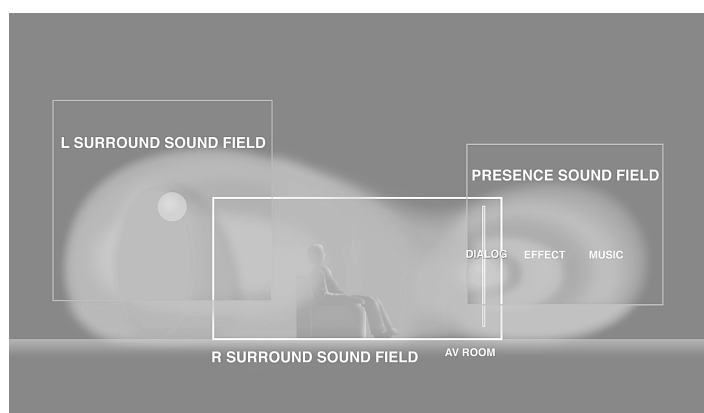
キー	プログラム	サブプログラム	特徴
STEREO 1	ステレオ STEREO	チャンネル ステレオ 7ch Stereo	後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特徴のホームパーティーを演出する音場プログラムです。セットメニューの設定により、最大7つのスピーカーから音が出力されます。
MUSIC 2	ミュージック MUSIC	ホール イン ビエナ Hall in Vienna	1700席程度のウィーンの伝統的なシューボックス型の中規模コンサートホールです。周囲の柱や彫刻により、全方向からの複雑な反射音を生み出しています。豊かな響きが特長です。
		ザ ボトム ライン The Bttm Line	ニューヨークで話題のライブハウス「ザ・ボトム・ライン」のステージ正面の音場です。フロアは300席ある左右に幅広い客席で占められ、リアルでライブな音場です。
		ザ ロキシー シアター The Roxy Thtr	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、客席は最高時で約460程です。客席中央左寄りの音場です。
ENTERTAIN 3	エンターテイメント ENTERTAINMENT	ディスコ Disco	ディスコミュージックに包まれる、乗りの良い音場空間を演出するプログラムです。

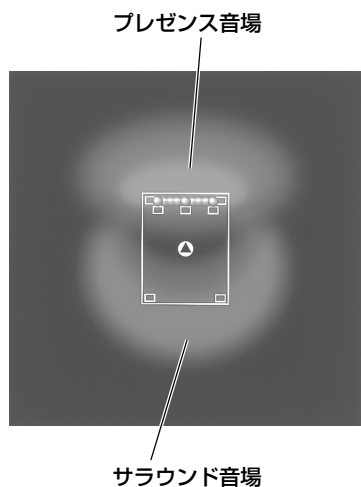
CINEMA DSP音場プログラム

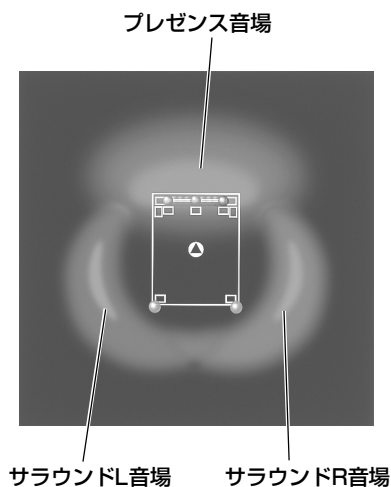
CINEMA DSP音場プログラムのサウンドデザイン

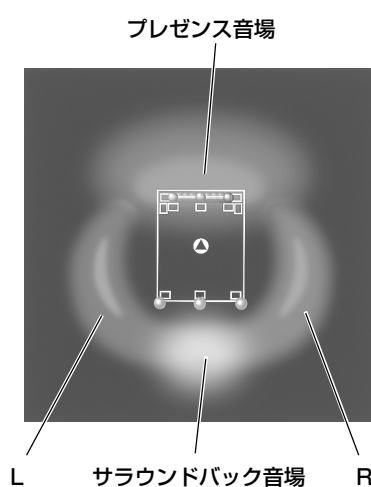
映画製作者の意図するサウンドは、セリフは明瞭にスクリーン上に定位し、効果音はその奥に、音楽はさらにその奥に広がり、そしてサラウンドは視聴者を取り囲んでスクリーンの映像と一体になるようにデザインされています。

ヤマハDSPをAV再生用に進化させたプログラムが「CINEMA DSP音場プログラム」です。映画サラウンドデコーダーであるドルビープロロジック、ドルビーデジタルやDTS、またBS/地上波デジタル放送の音声フォーマットであるAACなどの各デコーダーとヤマハDSPを融合し、映画のサウンドを最良の状態でデザインするダビングステージ(最終的な映画のサウンドデザインを完成させるファイナルミックス)でのクオリティをAVルームに再現するサラウンド音場です。

CINEMA DSP音場プログラムでは、フロントL/センター/フロントRチャンネルにもヤマハDSP処理を加えることで、視聴者はセリフの実在感や効果音、音楽の奥行き感とともに、スムーズな音源の移動感とスクリーンまで回り込むサラウンド音場に包まれます。

2音場

CDやビデオテープなどの、ステレオソースをマトリクス処理し、前方のプレゼンス音場、後方のサラウンド音場を付加します。

3音場

ドルビーデジタル、DTSなどの5.1チャンネルソースに対して、前方のプレゼンス音場と、後方の左右それぞれに独立したサラウンド音場を付加します。

4音場

ドルビーデジタルEX、DTS-ESなど最新の6.1チャンネルソースに対応して、3音場にサラウンドバック音場を加えた、4つの音場を付加します。

プログラムと特長

- 入力信号に応じて、各デコーダーおよび方向性強調回路が使用されます。
- センタースピーカーを使用した場合は、良好なセンター定位が得られます。
- フロントL/Rスピーカーも方向性強調に信号処理された出力になります。
- プレゼンス音場処理によって画面奥行きへの音場表現が得られます。さらに、サラウンド音場処理によってスケールの大きなサラウンド感が得られます。
- 入力モードが「AUTO」に設定されている場合、MOVIE THEATERプログラムとEnhancedプログラムでは、ドルビーデジタル、DTSまたはAAC信号が入力されると、音場プログラムは自動的にドルビーデジタル再生用音場、DTS再生用音場またはAAC再生用音場に切り替わります。

キー	プログラム	サブプログラム	特徴
MUSIC 2	ミュージック MUSIC	ポップ　ロック Pop/Rock	ロック、ジャズ等のライブコンサート会場のイメージです。サラウンド音場に広いホールのデータを使用しているため、間接音成分が豊かに回り込み、スクリーン周囲への映像空間、音場空間がいっぱいに広がり、熱狂的な雰囲気にひたれます。
ENTERTAIN 3	エンターテイメント ENTERTAINMENT	スポーツ TV Sports	プレゼンス音場は狭めてあるが、サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用しており、様々なバラエティや中継番組に、適用範囲の広い音場効果を再現。スポーツ中継のステレオ放送では、解説者は中央に定位し、歓声や場内の雰囲気は周囲へと広がります。後方回り込みは適度に抑えてあるので、長時間使用しても違和感がありません。
		モノ　ムービー Mono Movie	古いモノラル名作映画専用のポジションです。オペラハウス系のプレゼンス音場と適度な残響処理により、往年の名作映画のモノラル音声が臨場感を持って再生されます。
		ゲーム Game	モノラル、ステレオを問わず、ゲームサウンドにビビッドな奥行きとサラウンド感を与え、迫力と臨場感のあるゲームが楽しめます。
MOVIE 4	ムービー　シアター MOVIE THEATER （ムービーシアター）	スペクタクル Spectacle	70mm映画の大画面シアターそのものの超ワイドな空間に映画の空気がそのまま存在するようなスペクタクルな音場です。微妙な音の響きまでも再現する表現力をもち、映像と空間に今までにないリアリティを生み出します。70mm映画初期の作品から最新のドルビーデジタルソフトおよびDTSソフトまで、幅広くスペクタクルな世界が楽しめます。
		サイ　ファイ Sci-Fi	最新のSFX映画のサウンドデザインをセリフと音楽効果音にクールに描き分け、静けさの中に広大なシネマ空間を演出します。高度なテクニックを駆使したドルビーステレオ、ドルビーデジタル、DTSソフトまで、サイエンス・フィクションの世界を仮想空間音場で楽しめます。
		アドベンチャー Adventure	最新の映画サウンドデザインを最高に再現するプログラムです。70mm/ドルビーデジタル、DTSおよびAACマルチトラックにデザインされた演出を忠実に再現するとともに音場プログラム自体の響きをできるだけ抑え、響きをデッドにした最新の映画館とコンセプトを同じにしています。プレゼンス音場に、オペラハウス音場データを使用。会話の定位、立体感に優れています。サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用、力強い響きとともにアクション、アドベンチャーなどのデザインされたサウンドを明確に再現し、痛快な臨場感をもたらします。
		ジェネラル General	70mm/ドルビーデジタル、DTSおよびAACマルチトラックのサウンドを再現するプログラムで、全体に柔らかい広がり感のある響きが特長です。プレゼンス音場はやや狭い印象で、セリフの響きを抑え明瞭度を損なわずにスクリーン周囲とスクリーンの奥に立体的に再現されます。サラウンド音場は後方の広い空間に音楽やコーラス等のハーモニーが美しく響く印象です。

キー	プログラム	サブプログラム	特徴
STANDARD 6	DOLBY DIGITAL/Enhanced （エンハンスト）		ドルビーサラウンド、DTSサラウンドまたはAACサラウンドのオリジナル定位を乱すことなく、正確なデコード動作とDSP処理を行います。35mm映画館のマルチサウンドスピーカーを、より理想的なものへシミュレーションした音場です。サラウンド音場は、視聴者を左右後方から美しい響きで包み込みます。そのため、音の移動は後方から左右、スクリーンに自然につながり、映画制作側の意図する効果を再現します。
	DTS/Enhanced （エンハンスト）		
	AAC/Enhanced （エンハンスト）		
	PRO LOGIC Enhanced （エンハンスト：プロロジック*）		*2チャンネル音声をマルチチャンネル化して、DSP音場効果を付加します。
	PL Ⅱx MOVIE Enhanced （エンハンスト：PL Ⅱxムービー*）		
	Neo:6 Cinema Enhanced （エンハンスト：ネオ6シネマ*）		

＊STANDARDキーを押してEnhancedプログラムを選択してから、SELECTキーでデコーダーを切り替えてください。

ストレートデコードプログラム

音場効果をかけずに元の音で再生したい場合は、下記のストレートデコードプログラムを選んでください。
本機には下記のデコーダーが搭載されています。

- **ドルビーデジタル、DTS、AACデコーダー**：マルチチャンネルソース用
- **ドルビーデジタルEX、DTS-ES、ドルビープロロジックⅡxデコーダー**：サラウンドバックチャンネル音声再生用
- **DTS 96/24デコーダー**：96kHz/24bitの高音質再生用
- **ドルビープロロジック、ドルビープロロジックⅡx、DTS Neo：6、SRS CSⅡデコーダー**：ドルビーサラウンドと2チャンネルソース用

キー	プログラム	サブプログラム	特徴
STANDARD 6	DOLBY DIGITAL Surround（ドルビー デジタル サラウンド）		ドルビーデジタル、DTS、AACで処理されたソースの再生用プログラムです。セパレーションに優れ、安定したデコードが得られます。
	DTS Surround（ディーティーエス サラウンド）		
	AAC Surround（エーエーシー サラウンド）		
	PRO LOGIC Surround（プロ ロジック サラウンド）		*2チャンネル音声をそれぞれの方式でマルチチャンネル化して再生します。
	PLⅡx Movie Surround（ムービー サラウンド）		
	PLⅡx Music Surround（ミュージック サラウンド）		
	PLⅡx Game Surround（ゲーム サラウンド）		
	Neo：6 Cinema Surround（シネマ サラウンド）		
	Neo：6 Music Surround（ミュージック サラウンド）		
	CSⅡ Cinema Surround（シネマ サラウンド）		
	CSⅡ Music Surround（ミュージック サラウンド）		

＊STANDARDキーを押してSurroundプログラムを選択してから、SELECTキーでデコーダーを切り替えてください。

入力信号別音場プログラム名一覧

Surroundプログラムまたは THXサラウンドモードで再生しているときは、本機に入力されている信号の種類とデコーダーの動作により、フロントパネルディスプレイに下記のように音場プログラム名が表示されます。

入力信号 / プログラム	アナログ、PCM、ドルビーデジタル(2ch)、DTS(2ch)、AAC(2ch)	ドルビーデジタル	DTS	AAC
Surround プログラム	STANDARD PRO LOGIC STANDARD PL Ⅱx Movie STANDARD PL Ⅱx Music STANDARD PL Ⅱx Game STANDARD Neo:6 Cinema STANDARD Neo:6 Music STANDARD CS Ⅱ Cinema STANDARD CS Ⅱ Music	STANDARD DOLBY DIGITAL STANDARD *1 □□D + PL Ⅱx Movie STANDARD *2 □□D + PL Ⅱx Music STANDARD *3 DOLBY D EX	STANDARD DTS STANDARD *1 DTS + PL Ⅱx Movie STANDARD *2 DTS + PL Ⅱx Music STANDARD *3 DTS + DOLBY EX STANDARD *4*5 DTS ES STANDARD *6 DTS 96/24 STANDARD *4 *6 DTS 96/24 ES	STANDARD AAC STANDARD *1 AAC + PL Ⅱx Movie STANDARD *2 AAC + PL Ⅱx Music STANDARD *3 AAC + DOLBY EX
THX Select2	THX Cinema THX Game	THX Cinema THX Select2 Cinema THX Music THX Game *3 THX Surround EX	THX Cinema THX Select2 Cinema THX Music THX Game *3 THX Surround EX	THX Cinema THX Select2 Cinema THX Music THX Game *3 THX Surround EX

*1 ドルビープロロジックⅡxデコーダー(Movieモード)動作時(□□ PLⅡx 点灯時)

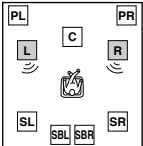
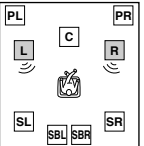
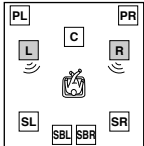
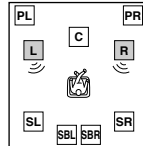
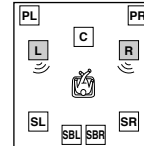
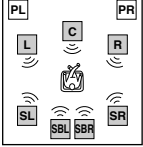
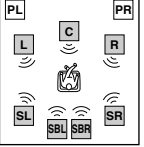
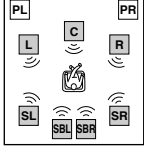
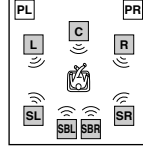
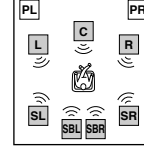
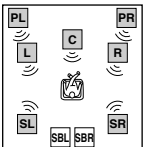
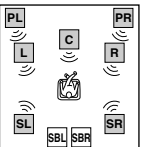
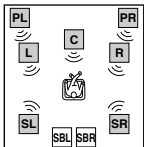
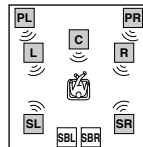
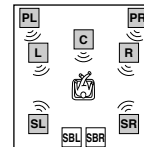
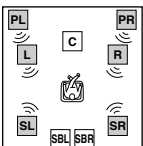
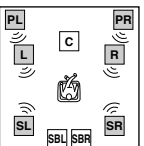
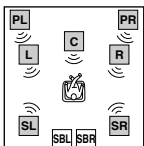
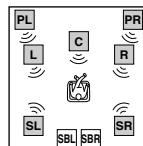
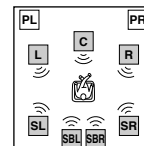
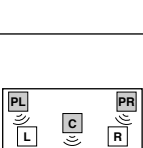
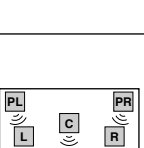
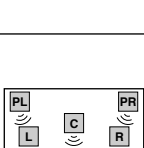
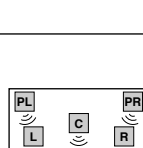
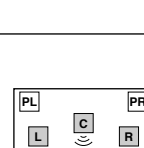
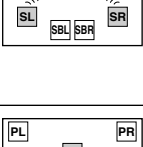
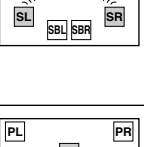
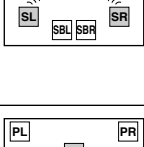
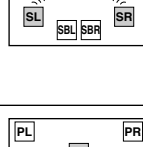
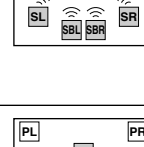
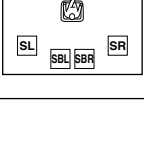
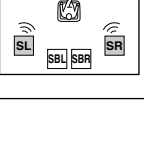
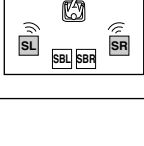
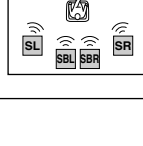
*2 ドルビープロロジックⅡxデコーダー(Musicモード)動作時(□□ PLⅡx 点灯時)

*3 ドルビーデジタルEXデコーダー動作時(□□ EX 点灯時)

*4 DTS-ESマトリクスデコーダー動作時(MATRIXインジケーター点灯時)

*5 DTS-ESディスクリートデコーダー動作時(DISCRETEインジケーター点灯時)

*6 DTS 96/24デコーダー動作時(96/24 点灯時)

入力信号と再生スピーカー対応表

入力信号の種類によって、下図で示されたスピーカーから音声が出力されます。

ご注意

再生するソースによっては、スピーカーから音が出なかったり、小さい音しか出ない場合もあります。映画の効果音など、シーンに合わせて部分的にしか使用されないチャンネルもあります。

表中のイラストは以下の内容を表しています。

L	フロントLスピーカー
C	センタースピーカー
R	フロントRスピーカー
PL	プレゼンスLスピーカー
PR	プレゼンスRスピーカー
SL	サラウンドLスピーカー

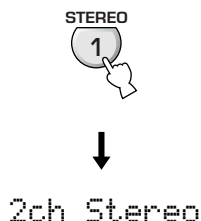
SR	サラウンドRスピーカー
SBL	サラウンドバックLスピーカー
SBR	サラウンドバックRスピーカー
▢（音波あり）	音が出ているスピーカー
□	音が出ていないスピーカー

	2チャンネル音声（モノラル）	2チャンネル音声（ステレオ）	5.1/6.1チャンネル音声（EX/PLⅡx/ES インジケーター消灯時）	5.1/6.1 チャンネル音声（EX/PLⅡx/ES インジケーター点灯時） PRIORITY:PRNSに設定	5.1/6.1 チャンネル音声（EX/PLⅡx/ES インジケーター点灯時） PRIORITY:SBに設定
STEREO 2ch Stereo					
STEREO 7ch Stereo	サラウンドバックスピーカー接続時	サラウンドバックスピーカー接続時	サラウンドバックスピーカー接続時	サラウンドバックスピーカー接続時	サラウンドバックスピーカー接続時
	サラウンドバックスピーカー未接続時	サラウンドバックスピーカー未接続時	サラウンドバックスピーカー未接続時	サラウンドバックスピーカー未接続時	サラウンドバックスピーカー未接続時
MUSIC Hall in Vienna The Bttm Line The Roxy Thtr ENTERTAINMENT Disco					
MUSIC Pop/Rock ENTERTAINMENT TV Sports Mono Movie Game MOVIE THEATER					
THX THX Cinema THX Surround EX					

	2チャンネル音声（モノラル）	2チャンネル音声（ステレオ）	5.1/6.1チャンネル音声（EX/PLⅡx/ES インジケーター消灯時）	5.1/6.1 チャンネル音声（EX/PLⅡx/ES インジケーター点灯時）PRIORITY:PRNSに設定	PRIORITY:SBに設定
THX THX Select2 Cinema Music Mode	—	—			
THX THX Games Mode					
Surround DOLBY DIGITAL PRO LOGIC DTS AAC	PRO LOGIC	PRO LOGIC			
MOVIE THEATER Enhanced DOLBY DIGITAL PRO LOGIC DTS AAC	PRO LOGIC	PRO LOGIC			
Surround PL Ⅱ x Movie PL Ⅱ x Music PL Ⅱ x Game	Movie/Game Music	Movie/Music/Game	—	—	—
MOVIE THEATER Enhanced PL Ⅱ x Movie		PRIORITY:PRNSに設定 PRIORITY:SBに設定			

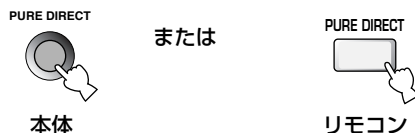
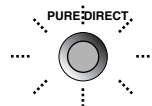
ステレオ再生を楽しむ

ステレオ再生する（2チャンネルステレオ）

フロントL/Rスピーカーからステレオ音声で再生します。
リモコンのAMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせてAMPを選び、STEREOキーを繰り返し押して、2ch Stereoを選びます。

2チャンネルソースの場合：
フロントL/Rスピーカーからステレオ音声で再生します。

マルチチャンネルソースの場合：
フロントL/Rチャンネル以外の音声をフロントL/Rチャンネルにミックスして、フロントL/Rスピーカーからステレオ音声で再生します。
LFEチャンネルは、セットメニュー「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」を、「FRONT」に設定した場合(52ページ)のみ、フロントL/Rスピーカーにミックスされます。

最高の音質でステレオ再生する（ピュアダイレクトモード）

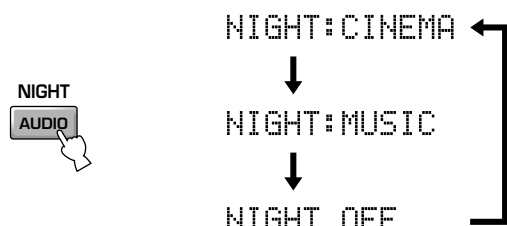
DSP回路をバイパスし、ビデオ回路をオフすることで音声信号に与える影響を減らし、アナログ信号、PCM信号を原音に忠実な高品質音声で再生します。CDを最高の音質で楽しむのに適しています。
リモコンまたは本体のPURE DIRECTキーを押します。

ピュアダイレクトモードで再生している間は、本体のPURE DIRECTキーが青色で点灯します。

ピュアダイレクトモードをキャンセルするには、もう一度PURE DIRECTキーを押します。

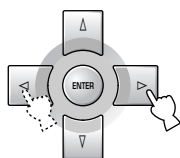
ご注意

- ドルビーデジタルやDTSなどのマルチチャンネルソースを再生しているときにピュアダイレクトモードに切り替えると、対応するアナログ音声入力端子に入力されている信号を再生します。アナログ音声入力端子に信号が入力されていない場合は音が出ません。
- ピュアダイレクトモードで再生中は、以下の操作ができません（「Not Available」と表示されます）。
  - 音場プログラムの切り替え
  - セットメニューの設定
  - HDMI IN端子に入力した音声信号の再生
  - HDMI IN端子に入力した音声信号および映像信号の、HDMI OUT端子への伝送
  - アナログ信号からHDMI信号へのアップコンバージョン
- ピュアダイレクトモードで再生中は、以下の設定が無効になります。
  - セットメニュー「A. DELAY」の設定
  - フロントL/Rスピーカーの音質（トーンコントロール）設定
- ピュアダイレクトモードで再生中は、フロントパネルディスプレイの表示が消えます。入力切り替えや、音量調節などの操作をすると数秒間だけ点灯します。
- ピュアダイレクトモードで再生中は、REC OUT端子から映像信号は出力されません。
- ピュアダイレクトモードで再生中は、サブウーファーから音は出ません。ただしMULTI CH INPUT端子のSUBWOOFER端子に信号が入力されている場合は、サブウーファーからも音声が出力されます。
- ピュアダイレクトモードでDTS-CDを再生しないでください。ノイズが出力されることがあります。
- 本機をスタンバイにすると、ピュアダイレクトモードは解除されます。

その他の再生のしかた

夜間に小音量で音声を楽しむ（ナイトリスニングモード）

夜間に小音量で再生する場合でも、セリフなどは明瞭に再生します。
映画用のCINEMAモードと、音楽用のMUSICモードが用意されています。
リモコンのAMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせてAMPを選び、NIGHTキーを押して、モードを選びます。

ナイトリスニングモードで再生している間は、フロントパネルディスプレイのNIGHTインジケーターが点灯します。

また、各モードが表示されている間に ◁/ ▷ キーを押すと、エフェクトレベル(音を抑えるレベル)を選ぶことができます。

Effect.Lvl:MIN（弱めに抑える）

Effect.Lvl:MID（ほどよく抑える）

Effect.Lvl:MAX（強めに抑える）

ご注意

- ピュアダイレクトモード(27ページ)で再生しているときや、MULTI　CH　INPUT端子に接続した機器を再生しているとき、ヘッドホンを接続しているときは、ナイトリスニングモードで再生できません。
- 入力ソースにより、効果に違いが生じる場合があります。

音場効果をかけずに再生する（ストレートデコードモード）

入力された信号を、音場効果をかけずにそのまま再生します。リモコンのSTRAIGHT/EFFECTキーを押すと、ストレートデコードモードで再生します。

STRAIGHT

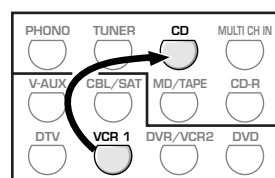
2チャンネルソースの場合：
フロントL/Rスピーカーからステレオ音声で再生します。

マルチチャンネルソースの場合：
入力信号により、適切なデコーダーでデコードしたあと、マルチチャンネル音声で再生します。

元の状態（音場効果をかけた状態）に戻るには、もう一度STRAIGHT/EFFECTキーを押します。

音楽と映像で異なるソースを楽しむ（バックグラウンドビデオ機能）

バックグラウンドビデオ機能とは、ビデオ系ソースの映像と、オーディオ系ソースの音声を組み合わせて楽しむ機能です(たとえばビデオを観ながら、クラシック音楽を楽しむことができます)。
ビデオ系ソースを選んでから、リモコンの入力選択キーでオーディオ系ソースを選びます。

ヒント

ビデオ系ソースの映像を見ながら、MULTI CH INPUT端子に接続されているオーディオ系ソースの音声を楽しむには、ビデオ系ソースを選んでから、MULTI CH INPUTキーを押します。

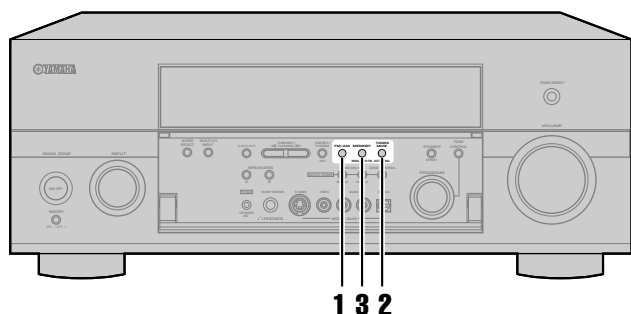
ご注意

HDMI映像信号入力時にはバックグラウンドビデオ機能ははたらきません。

FM/AM放送を楽しむ

FM/AM放送局を登録しておくと、あとで選局するときに便利です。

FM放送局を自動登録する（オートプリセット）

FM放送局を自動的に40局(8局×5グループA1からE8)まで登録(プリセット)できます。放送局を登録しておくと、あとは簡単なキー操作で選局することができ、便利です。

1 FM/AMキーを押して、FMを選ぶ

2 TUNING MODE(AUTO/MAN'L)キーを押して、ディスプレイにAUTOインジケーターを点灯させる

3 MEMORY(MAN'L/AUTO FM)キーを約3秒押し続ける

プリセット番号とMEMORYインジケーター、AUTOインジケーターが点滅します。 数秒後に、周波数の低い方から放送局を探し始め、自動的に登録していきます。

V-AUX DVR/VCR 2 VCR 1 CBL/SAT DTV DVD MD/TAPE CD-R CD PHONO TUNER
C8:FM 87.5 MHz -40dB VOLUME AUTO MEMORY

オートプリセットが終了すると、最後に登録された放送局の周波数が表示されます。

ヒント

- 放送局が登録されると、放送局の周波数と受信モードも同時に登録されます。
- FM局の登録を始めるプリセット番号を指定したり、周波数の高い方から低い方へ向けて、自動登録を始めることもできます(下記参照)。
- 登録されたFM放送局の順序を、あとから手動で入れ替えることもできます(32ページ)。
- オートプリセットでは、プリセットする放送局の数が40(A1〜E8)に満たない場合には全周波数帯域を一巡して停止します。

ご注意

- 同じプリセット番号に新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消え、新しい放送局に入れ替わります。
- オートプリセットでは、電波の強いFM放送局だけが登録されます。電波の弱いFM放送局を登録したいときは受信モードをモノラルにして手動で登録してください(30ページ)。

登録を始めるプリセット番号を指定する場合

左に記載の「FM放送局を自動登録する(オートプリセット)」の手順3でMEMORY(MAN' L/AUTO FM)キーを約3秒間押したあと、A/B/C/D/EキーとPRESET/TUNING⊲/⊳キーを使って、最初に登録するプリセット番号を選びます。

数秒後に、選んだプリセット番号から登録を始めます。

放送局が40局(A1〜E8)すべて登録されると、オートプリセットが停止します。

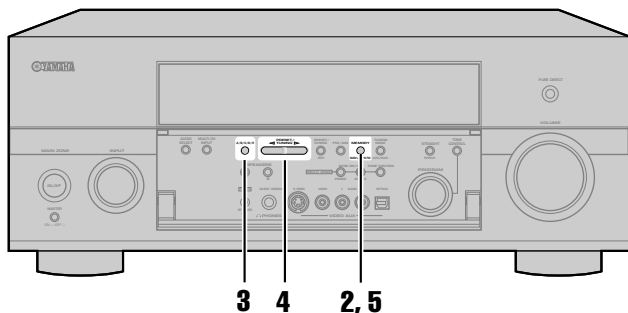
周波数の高い方から低い方に向けて登録する場合

左に記載の「FM放送局を自動登録する(オートプリセット)」の手順3でMEMORY(MAN' L/AUTO FM)キーを約3秒間押したあと、PRESET/TUNING(EDIT)キーでコロン(：)を消してから、PRESET/TUNING⊲キーを押します。

周波数の高い方から放送局を探し始め、自動的に登録していきます。

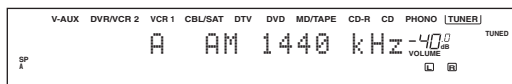
手動で登録する(マニュアルプリセット)

放送局を最大40局まで、手動で登録することもできます。

ヒント

AM放送局はマニュアルで登録してください。

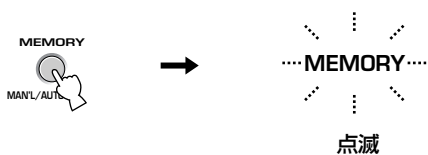
1 プリセットしたい放送局を選局する

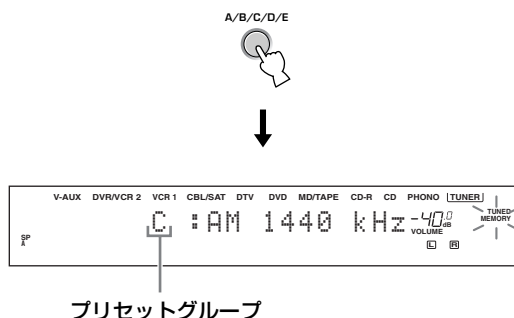
詳しくは「スタートアップガイド」46ページをご覧ください。

A AM 1440 kHz

フロントパネルディスプレイに、受信している局の周波数と放送バンド(「FM」または「AM」)が表示されます。

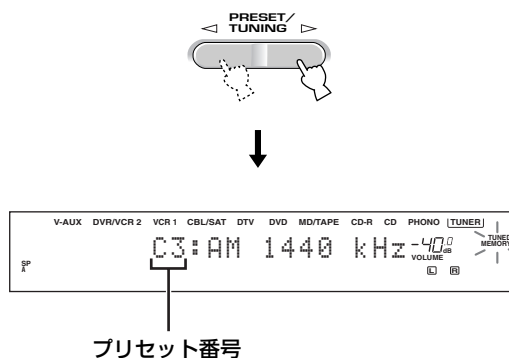
2 MEMORY(MAN' L/AUTO FM)キーを押す

放送局が登録できる状態になります。ディスプレイのMEMORYインジケーターが約5秒間点滅します。

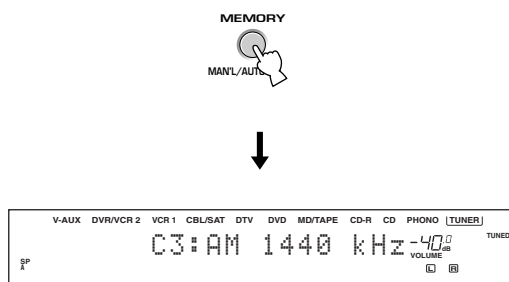
点滅

3 MEMORYインジケーターの点滅中にA/B/C/D/Eキーを押して、プリセットグループ(A～E)を選ぶ

グループが表示されます。放送バンド表示の隣にコロン(:)が点灯していることを確認してください。

プリセットグループ

4 MEMORYインジケーターの点滅中にPRESET/TUNING◁/▷キーを押して、プリセット番号(1～8)を選ぶ

▷キーを押すと数が大きくなり、◁キーを押すと小さくなります。

プリセット番号

5 MEMORYインジケーターの点滅中に、MEMORY(MAN' L/AUTO FM)キーを押す

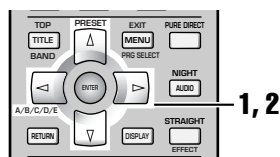
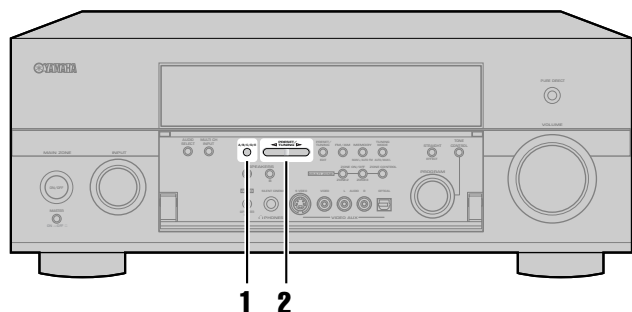
選択したプリセットグループ、プリセット番号と放送バンド(「FM」または「AM」)、周波数がディスプレイに表示されます。

C3に登録された局を示しています。

6 他の放送局を続けて登録するときは、手順1～5を繰り返す

ご注意

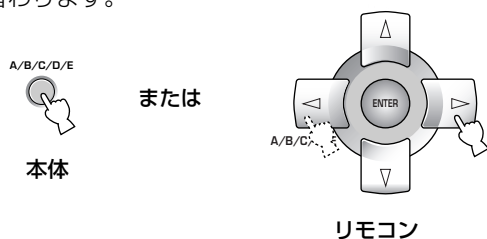
- 同じプリセット番号に新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消え、新しい放送局に入れ替わります。
- 新しい放送局を登録すると、放送局の周波数と受信モード(ステレオ/モノラル)も同時に登録されます。

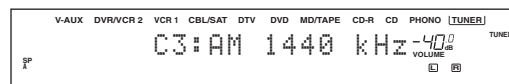
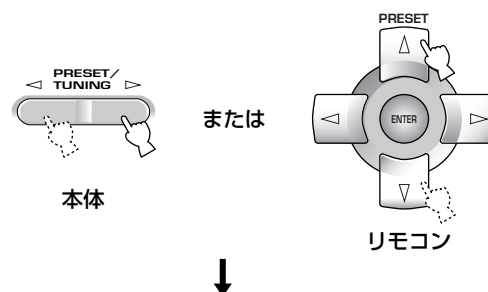
登録した放送局を選んで聴く（プリセット選局）

プリセット番号を選ぶだけで、登録した放送局を選局できます。

ご注意

リモコンで操作する場合は、AMP/SOURCE/TVスイッチをSOURCEに設定し、TUNERキーを押して、リモコンの機能をチューナー操作用に切り替えてから操作してください。

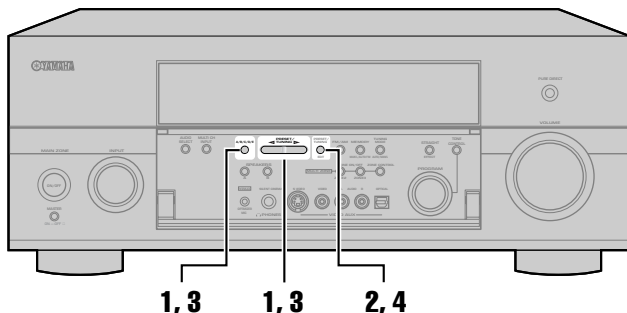
1 本体のA/B/C/D/Eキー（またはリモコンのカーソル◁/▷キー）を何回か押して、放送局をプリセットしたグループを選ぶ

フロントパネルディスプレイに表示されるプリセットグループはカーソル◁/▷(A/B/C/D/E)キーを押すたびに切り替わります。

2 本体のPRESET/TUNING◁/▷キー（またはリモコンのPRESET△/▽キー）を押して、プリセット番号を選ぶ

プリセットグループとプリセット番号が、放送バンド（「FM」または「AM」）と周波数とともにディスプレイに表示され、TUNEDインジケーターが点灯します。

ヒント

- プリセット番号は数字キー（1～8）でも選べます。
- 自動的に選局するオート選局と、手動で選局するマニュアル選局については、「スタートアップガイド」46ページをご覧ください。

登録した放送局を入れ替える

登録した放送局を入れ替えることもできます。
ここでは「E1」に登録した放送局を「A5」に、「A5」の放送局を「E1」に変更する場合の手順を説明します。

1 「E1」に登録した放送局を、A/B/C/D/EキーとPRESET/TUNING◁/▷キーを使って選局する

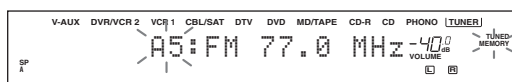
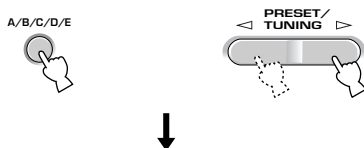
詳しくは、「登録した局を選んで聴く(プリセット選局)」をご覧ください(31ページ)。

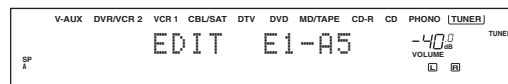
2 PRESET/TUNING(EDIT)キーを約3秒間押す

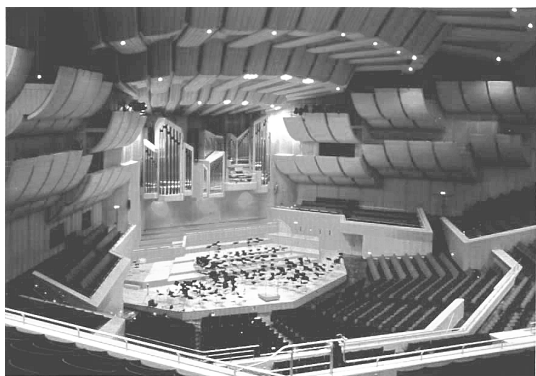
フロントパネルディスプレイのMEMORYインジケーターと「E1」が点滅します。

3 「A5」に登録した放送局を、A/B/C/D/EキーとPRESET/TUNING◁/▷キーを使って選局する

フロントパネルディスプレイのMEMORYインジケーターと「A5」が点滅します。

V-AUX DVR/VCR 2 VCR 1 CBL/SAT DTV DVD MD/TAPE CD-R CD PHONO TUNER
A5:FM 77.0 MHz -40.0dB
VOLUME TUNED MEMORY SP A L R

4 PRESET/TUNING(EDIT)キーを押す

プリセット局が入れ替わります。

プリセットした局の入れ替えが完了したことを示しています。

音場とは？

「その空間が持つ特有の音の響き」を音場と呼んでいます。
コンサートホールなどで、私達は、楽器の音や歌手の声が直接聴こえてくる「直接音」のほかに、床や壁・天井などに1回反射してから聴こえてくる「初期反射音」、さらに何回も反射を繰り返しながら次第に減衰してゆく「後部残響音」を聴くことになります。建物内部の形状や広さ、それに内装材料の種類などによって、初期反射音や残響音の構成が異なり、そのホール特有の響きが生まれます。それが「音場」です。
ヤマハでは、世界の著名なコンサートホールやオペラハウスなどで、反射音の方向・強さ・帯域特性・遅延時間等の音場情報を実際に測定し、その膨大なデータを蓄積しています。
本機では、この音場測定の実測データを基に作成された、音場プログラムを自由に選択し、著名ホールやライブハウス等の音場をリスニングルームにて再現することができます。

音場を構成する要素

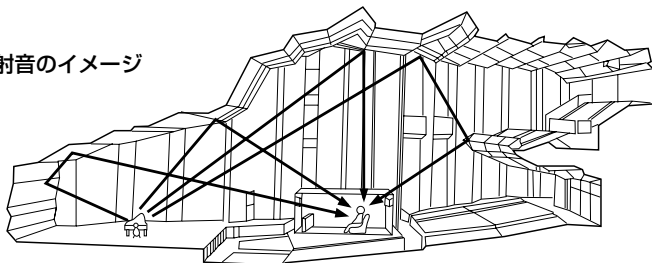
直接音

楽器やボーカルなどの音源からどこにも反射することなく、直接リスナーの耳に届く音です。

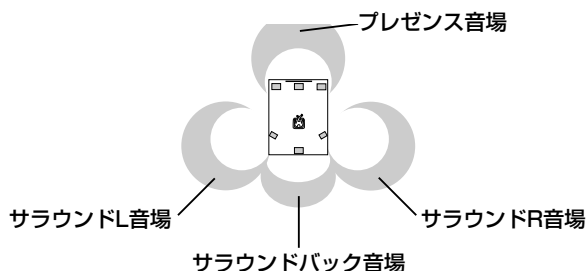
初期反射音

壁や天井などに1回反射してからリスナーの耳に到達する音です。初期反射音は直接音が発生してから50msから80msくらい後に耳に届きます。初期反射音により、直接音に明瞭さが付加されます。

後部残響音

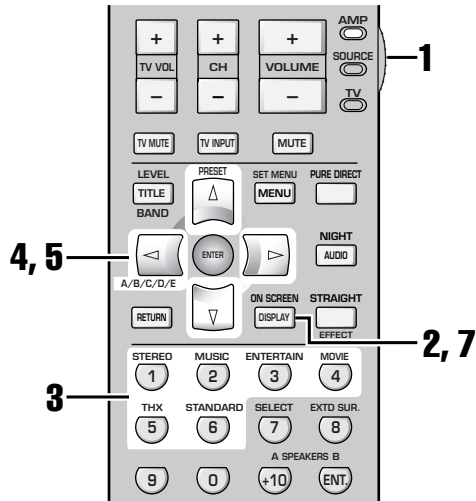
壁や天井、部屋の後部などに2回以上反射を繰り返しながら、多数の反響音がひとまとめになり、連続した音響の余韻となる音です。これらの反射音は方向性がなく、直接音の鮮明さを劣化させます。

直接音、初期反射音、後部残響音がひとつになることで、リスナーは演奏会場や劇場をイメージすることができます。デジタル音場プロセッサーはこの反射音、残響音を再現することで、音場を作り出します。
また、リスニングルームにおいて適切な反射音や後部残響音を再現できれば、独自のリスニング音場を作り出すことができます。つまりリスニングルームをコンサートホール、ダンスフロア、大聖堂などさまざまな演奏会場や劇場の音響効果に変えることができるのです。意のままに音場を再現する能力こそ、デジタル音場プロセッサーを通じてヤマハがこれまでに実践してきたことです。

音場の種類

本機がつくりだす音場は大きくわけて以下の3つです。
プレゼンス音場：前方に広がる音です。
サラウンド音場：後方に広がる音です。
サラウンドバック音場：後方中央につくりだされる音場です。

音場プログラムパラメーターを変更する

各音場プログラムのパラメーターは初期設定のままで十分お楽しみいただけますが、音場プログラムの一部のパラメーターを変更することにより、ソースやリスニングルームの音響に合わせて音場プログラムをアレンジできます。

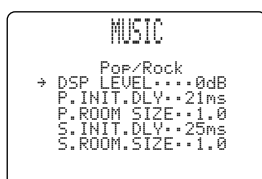
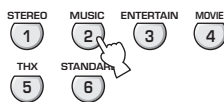
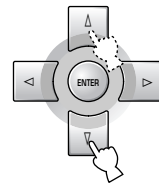
ご注意

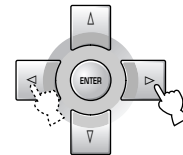
- 操作を始める前に、本機および本機に接続したテレビの電源が入っていることを確認してください。
- セットメニュー「MEMORY GUARD」をONに設定しているとパラメーターを変更できません。変更する前に、OFFに設定してください(65ページ)。

1 AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ

2 ON SCREENキーを押して、オンスクリーンをフル表示させる

3 音場プログラムキーを押して、音場プログラムを選ぶ

↓

```
MUSIC
Pop/Rock
→ DSP LEVEL····0dB
  P.INIT.DLY··21ms
  P.ROOM SIZE··1.0
  S.INIT.DLY··25ms
  S.ROOM.SIZE··1.0
```

4 △/▽キーを押して、変更したいパラメーターを選ぶ

5 ◁/▷キーを押して、設定値を変更する

変更されたパラメーター名の前にアスタリスク(＊)が表示されます。

6 他の音場プログラムのパラメーターを変更する場合は、手順3〜5を繰り返す

7 ON SCREENキーを押して終了する

ご注意

音場プログラムの種類により、変更できるパラメーターがオンスクリーン表示2ページ以上になる場合があります。ページをめくるには△/▽キーを押してください。

メモリーバックアップ

メモリーバックアップ機能は本機がスタンバイの時に、記憶されたデータが失われるのを防ぎます。電源コードがコンセントから抜けていたり、電源供給が一週間以上遮断されると、本機のメモリー内容が消えてしまうことがあります。この場合は各設定を再度やり直してください。

音場プログラムパラメーター一覧

項目	内容	参照ページ
DSP LEVEL(ディーエスピー・レベル)	エフェクトレベル(効果音)の微調節を行います。	36
INIT.DLY(イニシャル・ディレイ)	音源と壁面との距離感を調節します。	36
ROOM SIZE(ルーム・サイズ)	広がり感を調節します。	36
LIVENESS(ライブネス)	響き具合を調節します。	37
P.INIT.DLY(プレゼンス・イニシャル・ディレイ)	プレゼンス音場の遅延時間を調節します。	37
P.ROOM SIZE(プレゼンス・ルーム・サイズ)	プレゼンス音場の広がり感を調節します。	37
S.INIT.DLY(サラウンド・イニシャル・ディレイ)	サラウンド音場の遅延時間を調節します。	37
S.ROOM SIZE(サラウンド・ルーム・サイズ)	サラウンド音場の広がり感を調節します。	37
S.LIVENESS(サラウンド・ライブネス)	サラウンド音場の響き具合を調節します。	37
SB INI.DLY (サラウンド・バック・イニシャル・ディレイ)	サラウンドバック音場の遅延時間を調節します(6.1または7.1チャンネルで再生しているときのみ有効)。	37
SB ROOM SIZE (サラウンド・バック・ルーム・サイズ)	サラウンドバック音場の広がり感を調節します(6.1または7.1チャンネルで再生しているときのみ有効)。	38
SB LIVENESS (サラウンド・バック・センター・ライブネス)	サラウンドバック音場の響き具合を調節します(6.1または7.1チャンネルで再生しているときのみ有効)。	38
REV.TIME(リバーブレーション・タイム)	余韻の長さを調節します。	38
REV.DELAY(リバーブレーション・ディレイ)	残響音の遅延時間を調節します。	38
REV.LEVEL(リバーブレーション・レベル)	余韻の強さを調節します。	39
CT LEVEL(センター・レベル)	7ch Stereo音場でのセンターチャンネルの出力レベルを調節します。	39
SL LEVEL(サラウンド・レフト・レベル)	7ch Stereo音場でのサラウンドLチャンネルの出力レベルを調節します。	39
SR LEVEL(サラウンド・ライト・レベル)	7ch Stereo音場でのサラウンドRチャンネルの出力レベルを調節します。	39
SB LEVEL(サラウンドバック・レベル)	7ch Stereo音場でのサラウンドバックチャンネルの出力レベルを調節します。	39
PL LEVEL(プレゼンス・レフト・レベル)	7ch Stereo音場でのプレゼンスLチャンネルの出力レベルを調節します。	39
PR LEVEL(プレゼンス・ライト・レベル)	7ch Stereo音場でのプレゼンスRチャンネルの出力レベルを調節します。	39
PANORAMA(パノラマ)	ドルビープロロジックⅡxおよびドルビープロロジックⅡのフロント音場の広がり感を調節します(ドルビープロロジックⅡxおよびドルビープロロジックⅡデコーダーのMusicモード再生時のみ有効)。	39
DIMENSION(ディメンション)	ドルビープロロジックⅡxおよびドルビープロロジックⅡのサラウンド音場のフロント側とリア側のレベル差を調節します(ドルビープロロジックⅡxおよびドルビープロロジックⅡデコーダーのMusicモード再生時のみ有効)。	40
CENTER WIDTH (センター・ウィドゥス)	ドルビープロロジックⅡxおよびドルビープロロジックⅡのセンター音声左右への広がり感を調節します(ドルビープロロジックⅡxおよびドルビープロロジックⅡデコーダーのMusicモード再生時のみ有効)。	40
C.IMAGE(センター・イメージ)	DTS Neo:6のフロント音場の広がり感を調節します(DTS Neo:6デコーダーのMusicモード再生時のみ有効)。	40
DIALG.LIFT(ダイアログ・リフト)	会話など、中央に定位する音の位置を調節します(HiFi DSPおよび、CINEMA DSP音場プログラムで再生時のみ有効)。	40
FOCUS(フォーカス)	CSⅡのフロント定位感を調節します(SRS CSⅡデコーダーのCinemaおよびMusicモード再生時のみ有効)。	40
TruBass(トゥルーベース)	CSⅡの低音域出力レベルを調節します(SRS CSⅡデコーダーのCinemaおよびMusicモード再生時のみ有効)。	40
DIRECT(ダイレクト)	2チャンネルアナログソースを、デコーダーをバイパスして出力します。	41
PARAM.INI (パラメーター・イニシャライズ)	サブプログラムごとに、変更した音場プログラムパラメーターを初期化します。	41

音場プログラムパラメーターガイド

音場プログラムごとにDSP処理の構造が違います。以下のパラメーターはすべての音場プログラムで設定できるわけではありません。

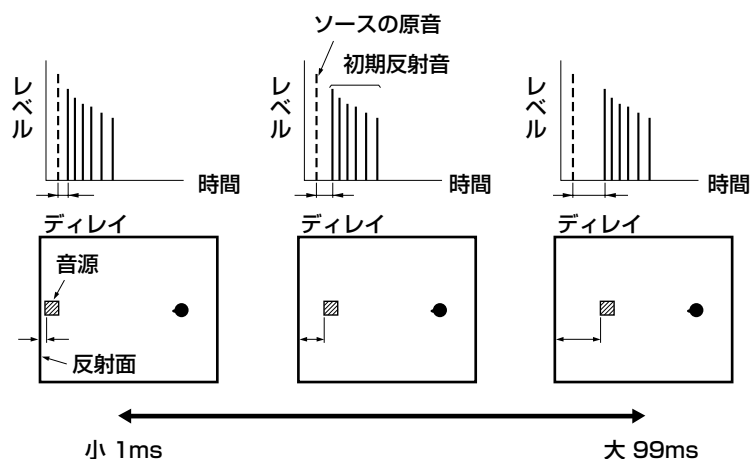
DSP LEVEL(ディーエスピー・レベル)

エフェクト音量(音場効果のかかり具合)を微調節するパラメーターです。

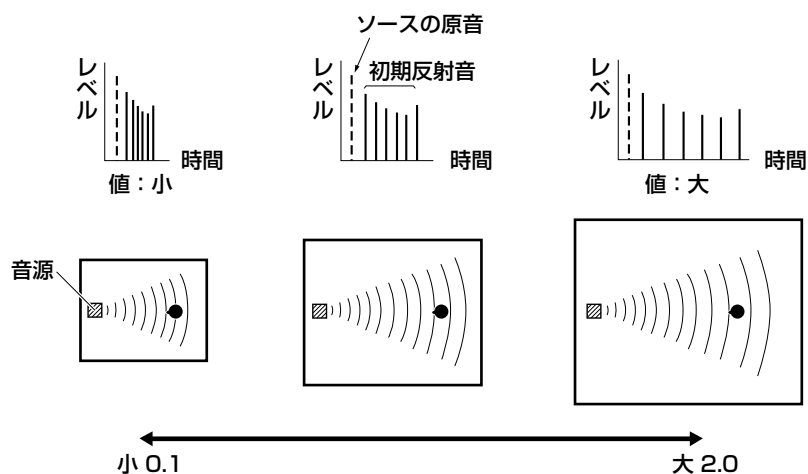
可変範囲：−6～+3dB

INIT. DLY(イニシャル・ディレイ)

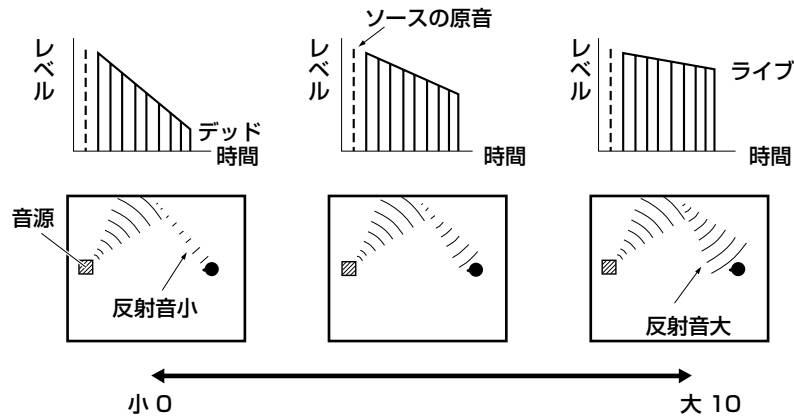
直接音から初期反射音が始まるまでの時間(遅延時間)を調節するパラメーターです。初期反射音の遅れは、音源と反射面との距離によって決まります。つまり、遅延時間を短くすると、音源が壁面に近づいた感じになり、逆に遅延時間を長くすると、音源は壁面から離れた感じになります。「ディレイ」を調節することにより、ソースの原音から周りの壁までの距離感、空間の大きさ感、音像のできかたなどが調節できます。

可変範囲：1～99ms

ROOM SIZE(ルーム・サイズ)

空間の広がり感を調節するパラメーターです。値を大きくするほど広い空間(部屋)になり、値を小さくするほど狭い空間になります。壁と壁の間が広くあいている大きなホールほど、音が反射を繰り返す間隔が長くなります。したがって、反射音同士の時間間隔をコントロールすれば、広がり感を変えることができます。1.0で実測値そのままに、2.0にすると、1辺の長さが倍の空間になります。

可変範囲：0.1～2.0

LIVENESS(ライブネス)

初期反射音の減衰特性を決めるパラメーターです。値を大きくするほど、ライブな(反響が多い)音場になり、値を小さくするほどデッドな(反響が少ない)音場になります。実際のホールでのライブ感/デッド感は、反射面の吸音特性によって決定され、反射音の減衰が早ければデッドに、遅ければライブに感じられます。

可変範囲：0～10

P. INIT. DLY(プレゼンス・イニシャル・ディレイ)

直接音が出てからプレゼンス音場が発生するまでの時間を調節するパラメーターです。値を大きくするほどプレゼンス音場が遅れて発生します。

可変範囲：1～99ms

P. ROOM SIZE(プレゼンス・ルーム・サイズ)

プレゼンスの広がり感を調節するパラメーターです。値を大きくするほどプレゼンス反射音同士の時間間隔が長くなり、ソースに含まれる音楽や効果成分に広がり感が出てきます。

可変範囲：0.1～2.0

S. INIT. DLY(サラウンド・イニシャル・ディレイ)

直接音が出てからサラウンド音場が発生するまでの時間を調節するパラメーターです。値を大きくするほどサラウンド音場が遅れて発生します。

可変範囲：1～49ms

S. ROOM SIZE(サラウンド・ルーム・サイズ)

サラウンド音場の広がり感を調節するパラメーターです。値を大きくするほどサラウンドの音場空間が広がります。

可変範囲：0.1～2.0

S. LIVENESS(サラウンド・ライブネス)

サラウンド音場の減衰量を調節するパラメーターです。値を大きくするほどサラウンド音場の響きが強くなります。

可変範囲：0～10

SB INI. DLY(サラウンド・バック・イニシャル・ディレイ)

直接音が出てからサラウンドバック音場が発生するまでの時間を調節するパラメーターです。値を大きくするほどサラウンドバック音場が遅れて発生します。
6.1または7.1チャンネルで再生しているときのみ有効です。

可変範囲：1～49ms

SB ROOM SIZE(サラウンド・バック・ルーム・サイズ)

サラウンドバック音場の広がり感を調節するパラメーターです。値を大きくするほどサラウンドバックの音場空間が広がります。6.1または7.1チャンネルで再生しているときのみ有効です。

可変範囲：0.1〜2.0

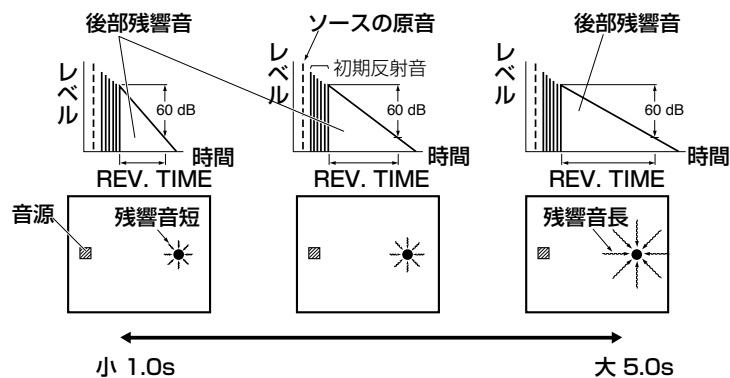
SB LIVENESS(サラウンド・バック・ライブネス)

サラウンドバック音場の減衰量を調節するパラメーターです。値を大きくするほどサラウンドバック音場の響きが強くなります。6.1または7.1チャンネルで再生しているときのみ有効です。

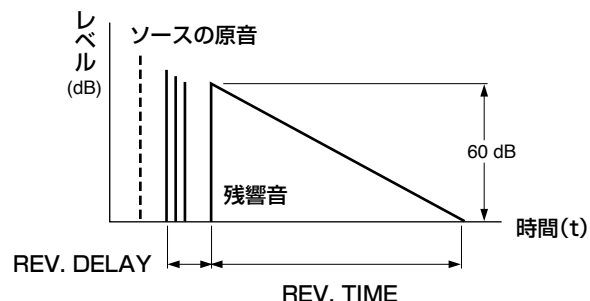
可変範囲：0〜10

REV. TIME(リバーブレーション・タイム)

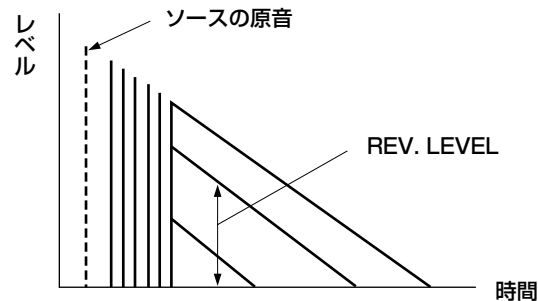
後部残響音が減衰していく時間を調節するパラメーターです。約1kHzの残響音が60dB減衰するのにかかる時間を基準にしています。値を小さくするほど残響音が早く減衰します。REV. TIMEを調節することにより、反響が少なめのソースやリスニングルームに少し長めの残響時間を設定したり、逆に反響が多めのソースやリスニングルームには短い残響時間を設定して自然な残響音となるようにコントロールすることができます。

可変範囲：1.0〜5.0s

REV. DELAY(リバーブレーション・ディレイ)

残響音が発生し始めるまでの時間を調節するパラメータです。値を大きくするほど残響音が初期反射音より遅れて発生するようになります。同じREV. TIMEでも、REV. DELAYを長くしていくと大きな空間の残響感になります。

可変範囲：0〜250ms

REV. LEVEL(リバーブレーション・レベル)

後部残響音のレベルを調節するパラメーターです。値を大きくするほど後部残響音のレベルが大きくなり、余韻が強く感じられます。値を小さくするほど後部残響音のレベルが小さくなり、余韻が弱く感じられます。

可変範囲：0～100%

CT LEVEL(センター・レベル)

7ch Stereoプログラムでのセンターチャンネルの音量を調節します。

可変範囲：0～100%

SL LEVEL(サラウンド・レフト・レベル)

7ch StereoプログラムでのサラウンドLチャンネルの音量を調節します。

可変範囲：0～100%

SR LEVEL(サラウンド・ライト・レベル)

7ch StereoプログラムでのサラウンドRチャンネルの音量を調節します。

可変範囲：0～100%

SB LEVEL(サラウンド・バック・レベル)

7ch Stereoプログラムでのサラウンドバックチャンネルの音量を調節します。

可変範囲：0～100%

PL LEVEL(プレゼンス・レフト・レベル)

7ch Stereoプログラムでのプレゼンスレチャンネルの音量を調節します。

可変範囲：0～100%

PR LEVEL(プレゼンス・ライト・レベル)

7ch StereoプログラムでのプレゼンスRチャンネルの音量を調節します。

可変範囲：0～100%

PANORAMA(パノラマ)

PRO LOGIC Ⅱx Music およびPRO LOGIC ⅡMusic プログラムでのフロント音場の広がり感を調節するパラメーターです。フロントL/Rの音声を左右に大きく回り込ませることで、サラウンド音場につながるような広がり感を得ることができます。

選択項目：ON/OFF

DIMENSION(ディメンション)

PRO LOGIC Ⅱx Music およびPRO LOGIC ⅡMusic プログラムでのフロント音場とサラウンド音場のレベル差を調節するパラメーターです。再生するソフトによって生じる、フロントとサラウンドのレベル差を調節してお好みのバランスにすることができます。−にするとサラウンド側、＋にするとフロント側が強くなります。

可変範囲：−3〜STD〜+3

CENTER WIDTH(センター・ウィドゥス)

PRO LOGIC Ⅱx Music およびPRO LOGIC ⅡMusic プログラムでのセンター音声の左右への広がり感を調節するパラメーターです。センターからの音声をお好みに合わせて左右に振り分けることができます。0にするとセンターのみ、7にするとフロントL/Rのみからセンター音声が出力されます。

可変範囲：0〜7

C. IMAGE(センター・イメージ)

DTS Neo: 6 Music プログラムでのフロント音場の広がり感を調節するパラメーターです。値を小さくするとフロント音場の広がりが大きくなり、大きくすると狭く(センターへの定位が強く)なります。

可変範囲：0〜1.0

DIALG.LIFT(ダイアログ・リフト)

会話など、中央に定位する音の定位位置(上下方向)を調節するパラメーターです。値を小さくすると音が下方に定位し、大きくすると上方に定位します。

可変範囲：0〜5

ご注意

セットメニュー「PRIORITY」をSBに設定して、6.1または7.1チャンネルで再生しているときは、プレゼンス成分がフロントL/Rスピーカーに振り分けられて出力されるためDIALG. LIFTパラメーターを調節しても効果はありません。

FOCUS(フォーカス)

CSⅡプログラムでのセリフの明瞭感を調節するパラメーターです。値を大きくするほどセリフがはっきりと聞こえるようになります。

可変範囲：0〜8　初期設定値：0

TruBass(トゥルーベース)

CSⅡプログラムでの低音域を調節するパラメーターです。値を大きくするほど低音域が強調され、サブウーファーがない場合でも効果的に低音を再生することができます。サブウーファーがある場合は、より重厚な低音を再生することができます。

可変範囲：0〜8　初期設定値：0

DIRECT(ダイレクト)

AUTOに設定すると、本機のデコーダーをバイパスして2チャンネルアナログソースが出力されます。ナイトリスニングモードがOFFの状態で、音色の調節(TONE CONTROL)でBASSおよびTREBLEが0dBに設定されている場合や、「自動測定メニュー」の「EQ」を、「FRONT]または「SKIP」で設定した場合(「スタートアップガイド」36ページ)、セットメニュー「EQUALIZER」(57ページ)で「EQ OFF」を選択した場合、また、「GEQ」を選択し、ゲインを0dBに設定した場合に有効になります。

選択項目：AUTO、OFF　初期設定値：AUTO

ご注意

- ドルビーデジタル、DTSまたはAACのマルチチャンネル信号が入力されると2チャンネル(フロントL/Rスピーカー)に振り分けられます。
- 以下の場合はフロントL/Rスピーカーの低音はサブウーファーから出力されます。
  - セットメニュー「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」が「BOTH」に設定されているとき。
  - セットメニュー「SPEAKER SET」の「FRONT SP」が「SMALL」に設定されていて、「LFE/BASS OUT」が「SWFR」に設定されているとき。

PARAM.INI(パラメーター・イニシャライズ)

サブプログラムごとに、変更した音場プログラムパラメーターを初期値に戻します。PARAM.INI画面を表示中に、⊳キーを2回押すと初期値に戻ります。

音場プログラムパラメーターを初期設定に戻す

一部を初期設定に戻す

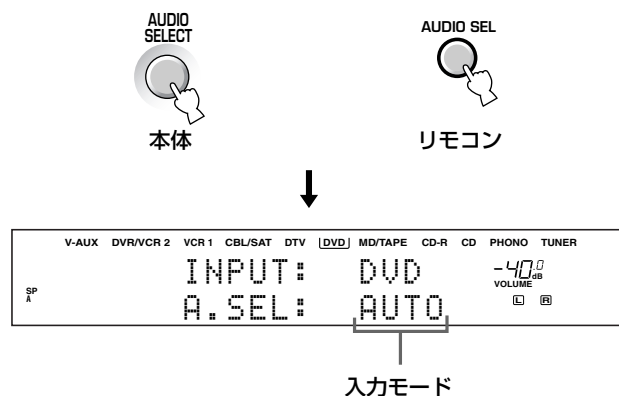
初期設定に戻したいパラメーターを選び、パラメーター名の前のアスタリスク(＊)の表示が消えるまで⊲/⊳キーを押します。

すべてを初期設定に戻す

セットメニュー「PARAM.INI」で、音場プログラムごとに、すべてのパラメーターを初期設定に戻せます(66ページ)。

入力信号を切り替える(入力モード切り替え)

本機は多彩な入力端子を装備しています。入力モードを切り替えることにより、入力信号を自動的に判別するように設定したり、HDMIなどの特定の信号に固定したりすることができます。

フロントパネルのAUDIO SELECTキー、またはリモコンのAUDIO SELキーを押すと、現在の入力モードが表示されます。入力モード表示中にもう一度押すと、入力モードが切り替わります。

AUTO
以下の順序で入力信号が選ばれます。
① HDMI信号
② 光/同軸デジタル信号
③ アナログ信号

HDMI
HDMI信号に固定されます。HDMI信号以外の信号が入力されても再生されません。

COAX/OPT
同軸デジタル端子や光デジタル端子から入力されたデジタル信号に固定されます。デジタル信号以外の信号が入力されても再生されません。

ANALOG
アナログ端子から入力されたアナログ信号に固定されます。アナログ信号以外の信号が入力されても再生されません。

ご注意
- 各入力端子に外部機器が接続されていない場合は、入力端子を指定しても音声は出力されません。
- セットメニュー「INPUT MENU—DECODER MODE」(62ページ)で、「DTS」または「AAC」を選択している場合、入力モードを「ANALOG」にしてもアナログ音声は出力されません。

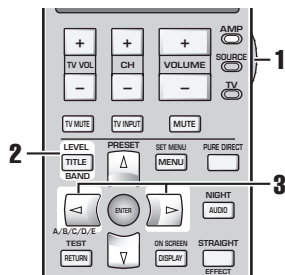
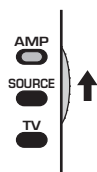
デジタル信号のサンプリング周波数について

本機のデジタル入力端子は、サンプリング周波数192kHzまでのデジタル信号に対応しています。48kHzを超えるデジタル信号を入力する場合は、以下の点にご注意ください。

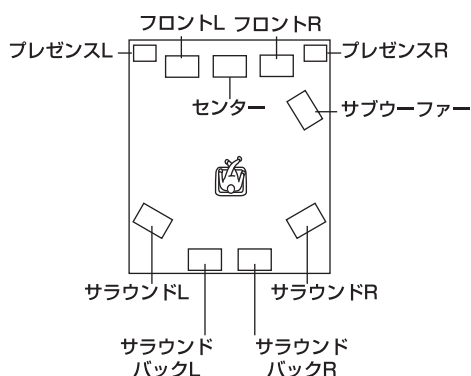
- HiFi DSPおよびCINEMA DSP音場プログラムの音場効果は、サンプリング周波数を48kHz以下に変換したあと付加します。
- ナイトリスニングモードで再生する場合も、サンプリング周波数を48kHz以下に変換します。
- THXサラウンドモードやSurroundで再生する場合、192kHzのサンプリング周波数は96kHzに変換されます。

スピーカーの音量を調節する

再生しながら調節する

再生音を聴きながら、各スピーカーからの音量を調節します。

1 ***AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ***

2 ***LEVELキーを繰り返し押して、調節したいスピーカーを選ぶ***

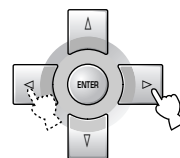
FRONT L	フロントLスピーカー
CENTER	センタースピーカー
FRONT R	フロントRスピーカー
SUR.R	サラウンドRスピーカー
SB	サラウンドバックスピーカー
SB R	サラウンドバックRスピーカー
SB L	サラウンドバックLスピーカー
SUR.L	サラウンドLスピーカー
SWFR	サブウーファー
PRNS. L	プレゼンスLスピーカー
PRNS. R	プレゼンスRスピーカー

LEVELキーを押すと、△/▽キーでスピーカーを選択することができます。

ヒント

セットメニュー「SPEAKER SET」の「SB L/R SP」を「LRGx1」または「SMLx1」に設定した場合、「SB R」および「SB L」は表示されません。代わりに「SB」と表示され、1台のみの調節になります(53ページ)。

3 ***◁/▷キーを押して、スピーカーの音量を調節する***

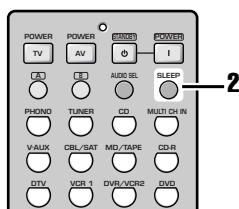
音量の調節範囲は、−10〜+10dBです。

ご注意

- セットメニュー「SPEAKER SET」で、「NONE」に設定されているスピーカーの音量は調節できません(52ページ)。
- セットメニュー「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」を、「FRONT」に設定している場合、サブウーファーの調節はできません(52ページ)。
- LEVELキーでスピーカーの音量を調節すると、セットメニュー「SP LEVEL」(54ページ)で調節したスピーカーの音量も変更されます。

一定時間後に自動的に電源を切る(スリープタイマー)

設定した時間が経過すると、自動的にスタンバイになるように設定します。聴きながら、または録音しながらおやすみになりたいときに便利です。スリープタイマーが作動すると、本機背面のACアウトレットに接続した機器の電源も切れます。

スリープタイマーを設定する

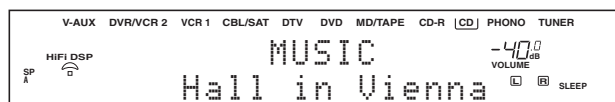
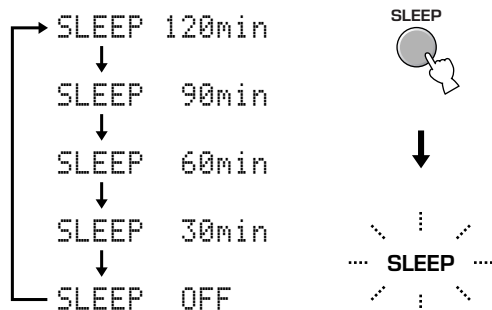
リモコンで操作します。

1 ソースを選んで、再生する

2 SLEEPキーを繰り返し押して、スタンバイ状態になるまでの時間を選ぶ

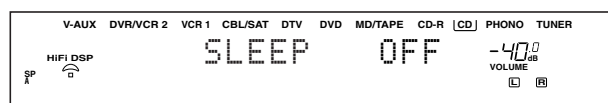
SLEEPキーを押すごとに、下記のように時間が切り替わります。その間はSLEEPインジケーターが点滅します。

SLEEPインジケーターが点灯に変わると、スリープタイマーの時間設定が完了します。

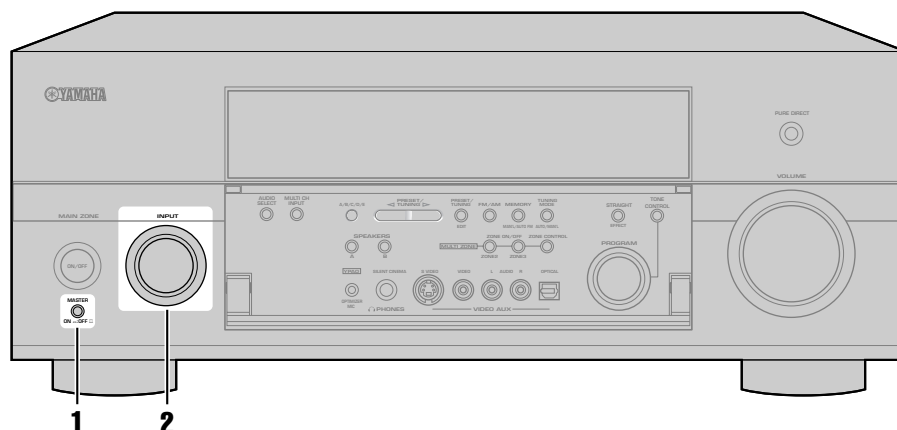
ヒント

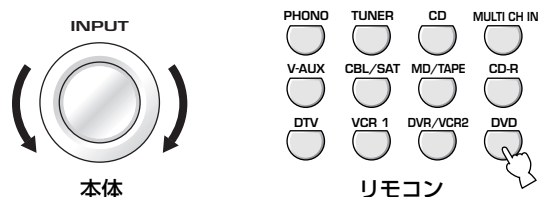
タイマー再生したいときは、市販のタイマーを使います。本機では再生したい入力ソースを選び、音量を調節しておきます。再生機器やタイマーの取扱説明書もあわせて参照してください。

スリープタイマーを解除する

「SLEEP OFF」の表示が出るまで、SLEEPキーを押します。SLEEPインジケーターが消灯し、「SLEEP OFF」と表示されます。数秒後に音場プログラムの表示に戻ります。

ヒント

リモコンのSTANDBYキーを押したり、本体のMAIN ZONE ON/OFFスイッチやMASTER ON/OFFスイッチを押してOFFにする、または電源コードを抜くと、スリープタイマーは解除されます。

外部機器で録音/録画する

本機に接続した録音/録画機器で、音声や映像を録音/録画できます。

1 ***本機および本機に接続されている、すべての機器の電源を入れる***

2 ***本体のINPUTセレクター、またはリモコンの入力選択キーで録音/録画したいソースを選ぶ***

3 ***ソースを再生する***

再生する機器の取扱説明書をご覧ください。
FM/AM放送を録音したいときは、放送局を選びます（「スタートアップガイド」46ページ）。

4 ***録音/録画を開始する***

録音/録画する機器の取扱説明書をご覧ください。

ヒント

- 録音/録画する前に、あらかじめ「試し録音」「試し録画」をしてください。
- 録音されるレベルの調節や操作は、それぞれの録音機器で行います。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 本機をスタンバイにすると、接続した機器間で録音/録画できません。
- 入力ソースのOUT(REC)端子からは、信号は出力されません(例：VCR 1 INへ入力された信号は、VCR 1 OUT端子から出力されません)。
- 本機のDSP処理による音場効果は録音できません。
- 録音中に、音量や音質を調節したり、音場プログラムを変更しても、録音される音声には影響しません。
- MULTI CH INPUT端子に入力された信号は録音できません。
- アナログ音声出力端子からアナログで録音する場合は、録音したい入力ソースをアナログで接続します。また、光デジタル出力端子から、デジタルで録音する場合は、録音したい入力ソースをデジタルで接続します。
- Sビデオ入力端子に入力されたSビデオ信号は、Sビデオ出力端子からのみ録画できます。同様に、ビデオ入力端子に入力されたビデオ信号は、ビデオ出力端子からのみ録画できます。ビデオコンバージョン機能は作動しません。
- HDMI端子に入力されたHDMI信号は、信号の方式によっては出力されない場合があります。
- あなたが録音したものは、個人で楽しむ場合以外は、著作権者に無断で使用することはできません。

DTS LD/DTS CD音声の録音/再生について

DTS信号は、デジタルビットストリームで伝送されるため、DTS信号をデジタルで録音したものをデコーダーを通さずに再生するとノイズだけが再生されます。

- DTS LD/DTS CDからデジタル録音した音声を再生する場合は、デコーダーを通して再生してください。
- DTS CDの音声を録音する場合は、DTSデコーダー内蔵のDVDプレイヤーからアナログで録音することをおすすめします。

詳しくは、お使いのプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

マルチゾーン機能

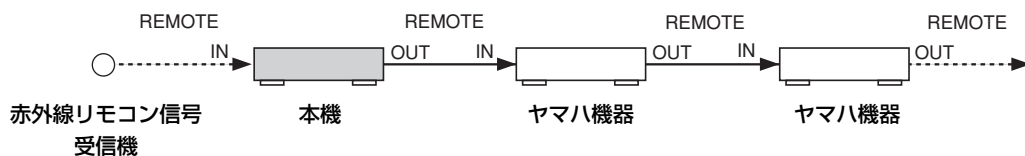
本機を使って、 本機を設置した部屋(メインルーム)と他の部屋(ゾーン2/ゾーン3)で、異なるソースを楽しむことができます。
たとえば、メインルームでCDを聞いているときに、ゾーン2ではMDを、ゾーン3ではFM放送を聴くことができます。
セットメニュー「ZONE SET」で、マルチゾーン機能に関する設定ができます(67ページ)。

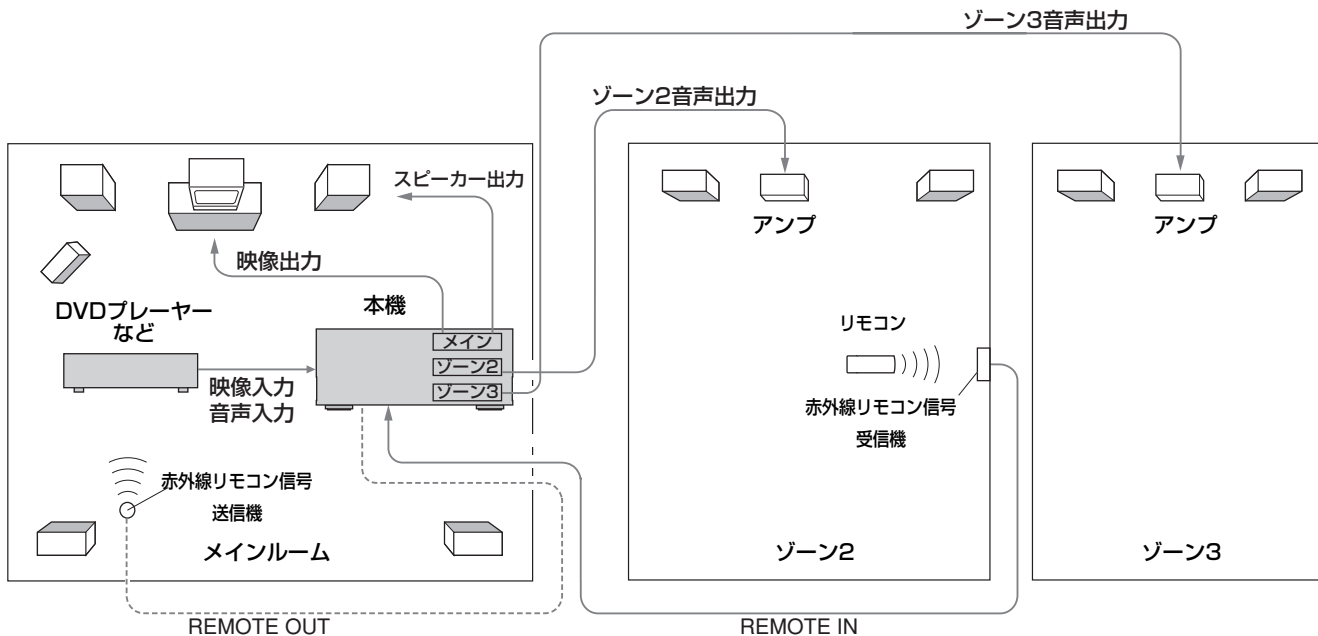
ゾーン2/ゾーン3への接続

マルチゾーン機能を使うには、以下の機器が必要です。

- 赤外線リモコン信号受信機 (ゾーン2に設置します。)
- 赤外線リモコン信号送信機 (メインルームに設置します。)
- アンプとスピーカー (ゾーン2/ゾーン3に設置します。本機の内蔵アンプを使う場合、ゾーン2/ゾーン3用のアンプは不要です。)

ヒント

- 本機をマルチゾーンでお使いになるときには、お買上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご相談されることをおすすめします。
- 本機のCONTROL OUT端子に直接接続することができるヤマハ製品をお持ちの場合は、赤外線リモコン信号送信機は必要ありません。また、6台までのヤマハ製品を下図のように接続することができます。

外部アンプを使用した設置・接続例

セットメニュー「ZONE SET」の「ZONE 2 AMP」と「ZONE 3 AMP」を、「EXT」に設定してください(68ページ)。

ご注意

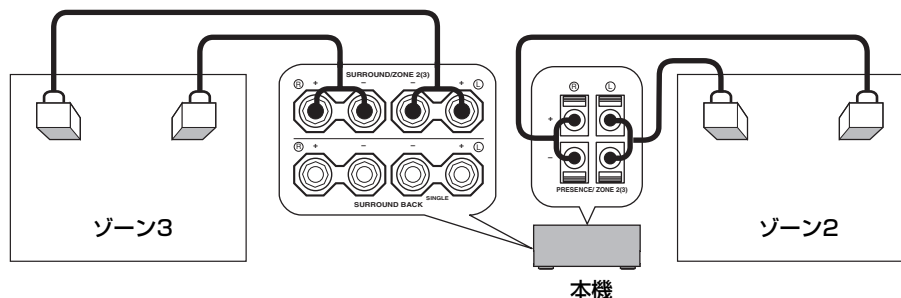
- メインルームで本機を使用していないときは、音量を下げてください。ゾーン2/ゾーン3での音量は、ゾーン2/ゾーン3に設置したアンプで調節してください。
- 本機のZONE2/ZONE3 AUDIO OUTPUT端子からは、本機のアナログ音声入力端子へ接続した機器の音声のみ出力できます。

本機の内部アンプを使用した設置・接続例

本機の内部アンプを1つ使用する場合

ゾーン2またはゾーン3用のスピーカーをPRESENCE/ZONE 2(3)端子に直接接続します。セットメニュー「ZONE SET」の「ZONE2 AMP」と「ZONE3 AMP」を、「PRNS」に設定してください。

本機の内部アンプを2つ使用する場合

ゾーン2とゾーン3用のスピーカーをSURROUND/ZONE 2(3)端子とPRESENCE/ZONE 2(3)端子に接続します。セットメニュー「ZONE SET」の「ZONE 2 AMP」または「ZONE 3 AMP」を、「SUR」、「PRNS」、「BOTH」に設定してください(68ページ)。

安全上のご注意

本機のSURROUND/ZONE2(3)端子、またはPRESENCE/ZONE2(3)端子に、スピーカーセレクターを接続しないでください。また、同端子の各チャンネルに2本以上のスピーカーを接続しないでください。インピーダンスが低下して本機が故障する原因になります。

この取扱説明書をよく読み、正しく接続してください。この際、すべてのチャンネルのインピーダンス下限値を必ず守ってください。インピーダンス下限値は、本機のリアパネルに表示されています。

ゾーン2/ゾーン3を操作する

フロントパネルスイッチとリモコンキーで下記の操作をすることができます。

- 入力ソースの選択
- 音量の調節
- 音質の調節
- チューナーモード時のプリセット選局

フロントパネルでの操作

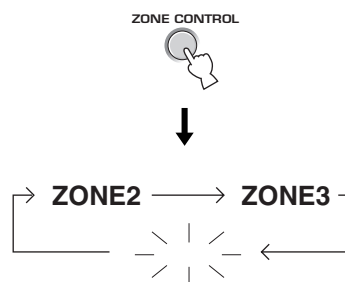
1 MASTER ON/OFFスイッチを押して、ONにする

メインゾーンの電源がオンになります。

2 ZONE 2 ON/OFFスイッチまたはZONE 3 ON/OFFスイッチを押す

ゾーン2/ゾーン3の電源がオンになります。

3 ZONE CONTROLキーをくり返し押して、操作したいゾーンを選ぶ

ZONE CONTROLキーを押すごとに、下記のようにインジケーターが切り替わり、現在選択されているゾーンのインジケーターが約5秒間点滅します。メインゾーンが選択されているときはインジケーターは点滅しません。

ZONE2
点滅時にZONE2の機能を操作できます。

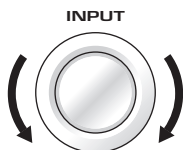
ZONE3
点滅時にZONE3の機能を操作できます。

非点滅時
メインゾーンの機能を操作します。

ご注意

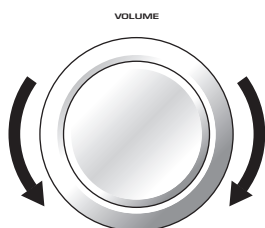
手順3～5の操作および音質の調節は、ZONE CONTROLキーを押してから5秒以内に行ってください。そのままにしておくと設定が自動的に中止されます。この場合は、もういちどZONE CONTROLキーを押して、操作しなおしてください。

本機について
いろいろな再生のしかた
オリジナルのリスニング環境をつくる
便利な機能
メニューで設定を変更する
リモコンを使いこなす
その他の情報

4 INPUTセレクターを回して、入力ソースを選ぶ

ヒント

チューナーモード時のプリセット選局については、「登録した放送局を選んで聴く(プリセット選局)」(31ページ)をご覧ください。

5 VOLUMEコントロールを回して、音量を調節する

ヒント

- セットメニュー「ZONE SET」の「ZONE 2 VOL」または「ZONE 3 VOL」が「VAR」のとき、VOLUME＋/－キーで音量を調節することができます(67ページ)。
- フロントパネル操作で音質を調節することができます。TONE CONTOROLキーを押してBASS(低音域)、TREBLE(高音域)を選択し、PROGRAMセレクターをまわして調節する数値(＋10dB～－10dB)を指定してください。

6 ZONE 2 ON/OFFスイッチまたはZONE 3 ON/OFFスイッチを押す

ゾーン2/ゾーン3の電源がスタンバイになります。

ゾーンリモコンでの操作

1 フロントパネルのMASTER ON/OFFスイッチがONになっているのを確認する

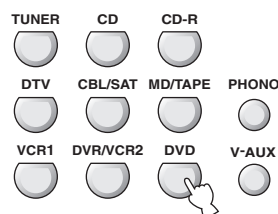
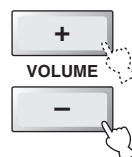
2 ZONE2/ZONE3セレクターで、操作したいゾーンを選ぶ

3 POWERキーを押す

手順2で選んだゾーンの電源がオンになります。

4 入力選択キーを押して、入力ソースを選ぶ

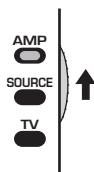
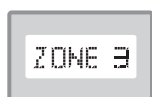
5 VOLUMEキーを押して、音量を調節する

ヒント

- セットメニュー「ZONE SET」の「ZONE 2 VOL」または「ZONE 3 VOL」が「VAR」のときに、VOLUME＋/－キーで音量を調節することができます(67ページ)。
- 選択しているゾーンの音量をMUTEキーで消音することができます。

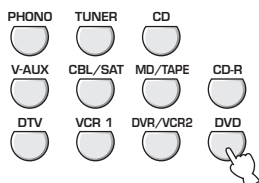
6 STANDBYキーを押す

手順2で選んだゾーンの電源がスタンバイになります。

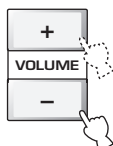
リモコンでの操作

1 ***AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ***

2 ***SELECT△キーをくり返し押して、操作したいゾーンを選ぶ***

ZONE 2　または

3 ***POWERキーを押す***

手順2で選んだゾーンの電源がオンになります。

4 ***入力選択キーを押して、入力ソースを選ぶ***

5 ***VOLUME＋/－キーを押して、音量を調節する***

ヒント

- セットメニュー「ZONE SET」の「ZONE 2 VOL」または「ZONE 3 VOL」が「VAR」のとき、VOLUME＋/－キーで音量を調節することができます。
- 選択しているゾーンの音量をMUTEキーで消音することができます。
- リモコンディスプレイに「ZONE2」または「ZONE3」と表示されているときは、以下の操作で選んだゾーンの音質を調節できます。
  高音域を調節したい場合
  CH＋/－キーを押す。
  低音域を調節したい場合
  TV VOL＋/－キーを押す。

6 ***STANDBYキーを押す***

手順2で選んだゾーンの電源がスタンバイになります。

7 ***SELECT△/▽キーをくり返し押して、ゾーン2/ゾーン3の操作モードから抜ける***

電源のオン/スタンバイについて

リモコンをゾーン2/ゾーン3の設定にしている場合は、メインルームとゾーン2/ゾーン3の電源を独立してオン/スタンバイにすることができます。

- メインモードに切り替えるには、機器名が表示されるまでSELECT △/▽キーを押します。
- オールモードに切り替えるには、SELECT ▽キーを押します。

	リモコンディスプレイの表示	POWERキー/STANDBYキーの機能
メインモード	機器名* (例:「DVD」)	メインルーム出力の電源を、オン/スタンバイにする
ゾーン2モード	「ZONE2」または「2:選択機器名」 (例:「2;DVD」)	ゾーン2 出力の電源を、オン/スタンバイにする
ゾーン3モード	「ZONE3」または「3:選択機器名」 (例:「3;DVD」)	ゾーン3 出力の電源を、オン/スタンバイにする
オールモード	「ALL」	すべてのゾーンの電源を、オン/スタンバイにする

* POWERキーまたはSTANDBYキーを押して数秒間は、「MAIN」と表示されます。

セットメニュー一覧

本機では、お使いのシステムで最適な音声や映像をお楽しみいただけるように、セットメニューで設定を変更することができます。お使いの環境に合わせて設定を変更してください。セットメニューには、自動的に音場補正を行う「AUTO SETUP」と、用途や機能別に分類されたカテゴリーを必要に応じて呼び出して設定する「MANUAL SETUP」、さまざまな情報を表示する「INFORMATION」の3つがあります。

AUTO SETUP

本機に搭載の「YPAO」(Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer)により、お使いになるスピーカーの配置や性能、お部屋の音響特性を測定し、最適な視聴空間を自動的に設定します。「AUTO SETUP」の設定方法については「スタートアップガイド」35ページをご覧ください。

MANUAL SETUP

「MANUAL SETUP」は、以下のように用途、機能別に4つのカテゴリーに分類されています。

BASIC MENU

本機を使用する前に、お部屋のサイズやシステムに合わせて最適な視聴空間を簡単に設定/変更できます。(52ページ)

SOUND MENU

音質や音色の調節など、音声の出力に関して以下のメニューを設定/変更できます。以下の5つのメニューがあります。

項　目	内　　容	参照ページ
A) EQUALIZER	イコライザーを使って、各スピーカーの音色を調節します。	57
B) LFE LEVEL	ドルビーデジタル、DTSおよびAACでのLFE信号の再生レベルを調節します。	57
C) DYNAMIC RANGE	ドルビーデジタル、DTSおよびAAC再生時のダイナミックレンジを調節します。	58
D) AUDIO SET	音声と映像のずれの補正、AACモノラル音声の出力を設定します。	59
E) HDMI SET	HDMIの出力方法を設定します。	59

INPUT MENU

入出力端子の割り当て変更や、表示される入力機器名の変更など、信号の入出力に関して以下のメニューを設定/変更できます。以下の5つのメニューがあります。

項　目	内　　容	参照ページ
A) I/O ASSIGNMENT	使用する機器が本機の入出力端子の機器名と異なる場合に、使用する機器に合わせて端子を割り当てます。	60
B) INPUT RENAME	各入力名を変更します。	61
C) VOLUME TRIM	選んでいる入力の再生レベルを補正します。	61
D) DECODER MODE	電源を入れたときに適用するデコーダーを設定します。	62
E)MULTI CH SET	MULTI CH INPUT端子に接続されたソースの入力信号の振り分け先を設定します。	63

OPTION MENU

「BASIC MENU」、「SOUND MENU」、「INPUT MENU」以外にも以下のいろいろなメニューを設定/変更できます。
以下の6つのメニューがあります。

項　目	内　　容	参照ページ
A) DISPLAY SET	フロントパネルディスプレイの明るさ、オンスクリーン画面の背景や表示位置などを調節します。	64
B) MEMORY GUARD	変更した設定値を保護します。	65
C)AUDIO SELECT	メインルームの電源を入れたときの接続機器の入力モードを設定します。	65
D) DECODER MODE	電源を入れたときに適用するデコーダーを設定します。	66
E) PARAM.INI	音場プログラムパラメーターを初期設定に戻します。	66
F) ZONE SET	スピーカーBとゾーン2/ゾーン3を設定します。	67

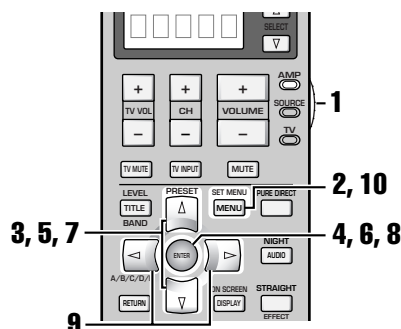
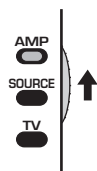
INFORMATION

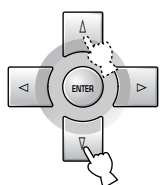
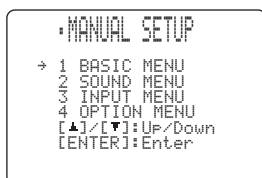
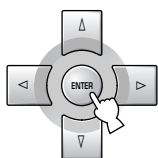
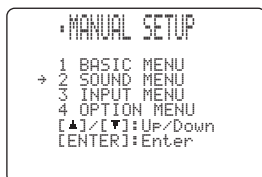
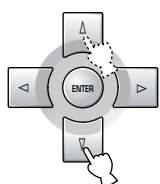
入力信号のフォーマット、チャンネル数やサンプリング周波数などの情報を表示します(69ページ)。

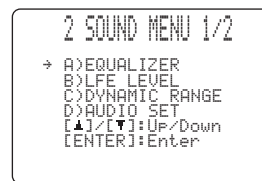
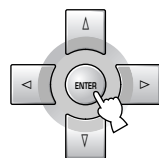
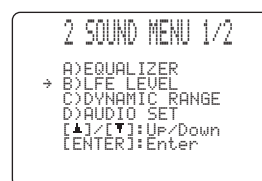
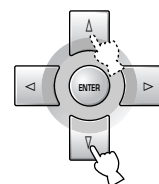
セットメニューの表示と操作方法

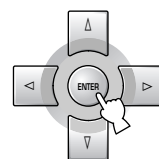
セットメニューの設定方法について説明します。セットメニューの各項目の詳細については52～69ページを参照してください。

ご注意

操作を始める前に、本機および本機に接続したテレビの電源が入っていることを確認してください。

1 ***AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ***

2 ***SET MENUキーを押す***

3 ***∆/∇キーを押して、「MANUAL SETUP」を選ぶ***

4 ***ENTERキーを押す***

5 ***∆/∇ キーを繰り返し押して、設定したいメニューがあるカテゴリーを選ぶ***

6 ***ENTERキーを押す***

選んだカテゴリー内のメニューが表示されます。

7 ***∆/∇ キーを繰り返し押して、設定したいメニューを選ぶ***

8 ***ENTERキーを押す***

選んだメニューの設定画面が表示されます。

項目によっては∆/∇キーを押して、サブメニューを選びます。

9 ***◁/▷キーを繰り返し押して、設定を変更する***

10 ***SET MENUキーを押す***

セットメニューを終了します。

メモリーバックアップ

メモリーバックアップ機能は本機がスタンバイの時に、記憶されたデータが失われるのを防ぎます。電源コードがコンセントから抜けていたり、電源供給が一週間以上遮断されると、本機のメモリー内容が消えてしまうことがあります。この場合は各設定を再度やり直してください。

視聴空間を簡単に設定する(BASIC MENU)

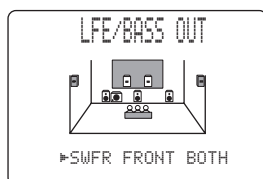
BASIC MENUにより、チャンネルごとのスピーカーの状態に合わせてヤマハが推奨する再生に適した視聴空間を簡単に設定することができます。お好みに応じた視聴空間をより細かく設定する場合は57～59ページを参照して、SOUND MENUで設定してください。

スピーカーのサイズを設定する(SPEAKER SET)

ご使用になるスピーカーに合わせて、スピーカーのサイズ、有無などを設定します。

設定のしかた

カーソル(△/▽/◁/▷)キーで、MANUAL SETUP→BASIC MENU→SPEAKER SETを選び、SPEAKER SET画面で設定を変更します。

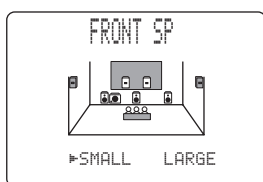
ウーファーの口径が16cm未満のスピーカーをお使いの場合はSML(SMALL)、それ以上の場合はLRG(LARGE)に設定することをおすすめします。

LFE/BASS OUT

低音成分を出力するスピーカーを設定します。

選択項目：SWFR(サブウーファー)、FRONT(フロント)、
BOTH(サブウーファー＋フロント)
初期設定：SWFR

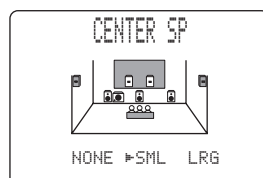
SWFR
サブウーファーを接続している場合に設定します。
LFEチャンネルと、各スピーカーのサイズ設定により、他チャンネルの低音域がサブウーファーに出力されます。

FRONT
サブウーファーを接続してない場合に設定します。
LFEチャンネルと、各スピーカーのサイズ設定により、他チャンネルの低音域がフロントL/Rスピーカーに出力されます。

BOTH
サブウーファーを接続していて、フロントL/Rチャンネルの低音域をフロントL/Rスピーカーとサブウーファーの両方に出力したい場合に設定します。
LFEチャンネルと、フロント以外のチャンネルの低音域は、スピーカーのサイズ設定により、サブウーファーから出力されます。たとえば、CDを再生するときに、サブウーファーを使って低音域を補強したい場合などはこの設定にします。

FRONT SP

フロントL/Rスピーカーのサイズを設定します。

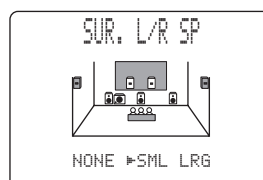
選択項目：SMALL(小)、LARGE(大)
初期設定：SMALL

SMALLに設定した場合、低域成分は「LFE/BASS OUT」の設定にしたがって出力されます。

CENTER SP

センタースピーカーのサイズを設定します。

選択項目：NONE(無し)、SML(小)、LRG(大)
初期設定：SML

ヒント

- SMLに設定した場合、低域成分は「LFE/BASS OUT」の設定にしたがって出力されます。
- NONEに設定した場合、センターチャンネルはフロントL/Rスピーカーに振り分けられて出力されます。

SUR. L/R SP

サラウンドL/Rスピーカーのサイズを設定します。

選択項目：NONE(無し)、SML(小)、LRG(大)
初期設定：SML

- SMLに設定した場合、低域成分は「LFE/BASS OUT」の設定にしたがって出力されます(52ページ)。
- NONEに設定した場合、「SB L/R SP」も自動的にNONEに設定されます。
- NONEに設定した音場プログラムを使うと、バーチャルシネマDSPモードで再生します(17ページ)。

SB L/R SP

サラウンドバックスピーカーのサイズや本数を設定します。

選択項目：NONE(無し)、SMLx1(小x1本)、SMLx2(小x2本)、LRGx1(大x1本)、LRGx2(大x2本)
初期設定：SMLx2

ヒント

- SMLに設定した場合、低域成分は「LFE/BASS OUT」の設定にしたがって出力されます(52ページ)。
- NONEに設定した場合は、サラウンドバックチャンネルはサラウンドL/Rスピーカーに振り分けられて出力されます。
- アドバンストセットアップメニューの「BI-AMP」をONに設定した場合は、自動的にNONEが選択されます(71ページ)。

PRESENCE SP

プレゼンスL/Rスピーカーを使うか、使わないかを設定します。

選択項目：NONE(使わない)、YES(使う)
初期設定：NONE

- NONEに設定した場合は、プレゼンスチャンネルはフロントL/Rスピーカーに振り分けられて出力されます。
- アドバンストセットアップメニューの「BI-AMP」をONに設定した場合は、自動的にNONEが選択されます(71ページ)。

CROSS OVER

サブウーファーに出力する低音成分の、周波数の上限を設定します。設定した周波数以下の低音成分が、サブウーファーに出力されます。

選択項目：40Hz、60Hz、80Hz(THX)、90Hz、100Hz、110Hz、120Hz、160Hz、200Hz
初期設定：80(THX)

SUBWOOFER PHASE

ご使用になるサブウーファーの位相を設定します。低音が物足りないときなどにお試しください。

選択項目：NORMAL、REVERSE
初期設定：NORMAL

PRIORITY

ドルビーデジタルEXやDTS-ESなど、サラウンドバック成分があるソースをシネマDSP音場プログラムで再生するときに、優先的に音を出すスピーカーを選びます。

選択項目：PRNS.、SB
初期設定：SB

PRNS

サラウンドバック成分があるソースを再生中でも、プレゼンス成分がプレゼンスL/Rスピーカーから出力されます。
このとき、サラウンドバック成分はサラウンドL/Rスピーカーに振り分けられて出力されます。

SB

サラウンドバック成分があるソースを再生中は、サラウンドバックスピーカーから音を出します。
このとき、プレゼンス成分はフロントL/Rスピーカーに振り分けられて出力されます。

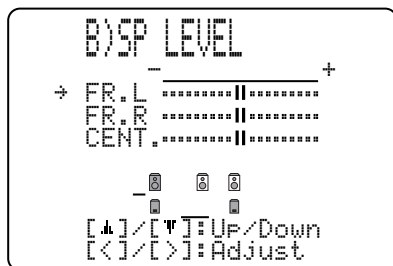
THX推奨の設定

- 全スピーカー：　SML(SMALL)
- LFE/BASS OUT：　SWFR
- CROSS OVER：　80Hz(THX)

スピーカーの音量を調節する(SP LEVEL)

リスニングポジションで聞こえる各スピーカーからの音量が同じになるように、それぞれのスピーカーの音量を個別に調節します。各スピーカーから出力されるテストトーンを聴きながら調節します。

設定のしかた

カーソル(△/▽/◁/▷)キーで、MANUAL SETUP→BASIC MENU→SP LEVELを選び、SP LEVEL画面で設定を変更します。

ヒント

音圧計をお持ちの場合は、音圧計をCウェイト/スローモードに設定したうえで、各スピーカーからの音量がリスニングポジションで75db SPLになるよう調節してください。

ご注意

「SPEAKER SET」でNONEに設定されているスピーカーは音量を調節できません(52ページ)。

FR. L

フロントLスピーカーの音量を調節します。

可変範囲：−10.0〜+10.0dB

FR. R

フロントRスピーカーの音量を調節します。

可変範囲：−10.0〜+10.0dB

CENT.

センタースピーカーの音量を調節します。

可変範囲：−10.0〜+10.0dB

SUR. L

サラウンドLスピーカーの音量を調節します。

可変範囲：−10.0〜+10.0dB

SUR. R

サラウンドRスピーカーの音量を調節します。

可変範囲：−10.0〜+10.0dB

SB L

サラウンドバックLスピーカーの音量を調節します。

可変範囲：−10.0〜+10.0dB

SB R

サラウンドバックRスピーカーの音量を調節します。

可変範囲：−10.0〜+10.0dB

SB

サラウンドバックの音量を調節します。

可変範囲：−10.0〜+10.0dB

SWFR

サブウーファーの音量を調節します。

可変範囲：−10.0〜+10.0dB

PR. L

プレゼンスLスピーカーの音量を調節します。

可変範囲：−10.0〜+10.0dB

PR. R

プレゼンスRスピーカーの音量を調節します。

可変範囲：−10.0〜+10.0dB

各スピーカーからリスニングポジション(視聴位置)までの距離を設定する(SP DISTANCE)

各スピーカーからの音が同時にリスニングポジション(視聴位置)に届くように、スピーカーから音が出るタイミングを調節します。音が出るタイミングは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定することで調節されます。

設定のしかた

カーソル(∆/∇/◁/▷)キーで、MANUAL SETUP→BASIC MENU→SP DISTANCEを選び、SP DISTANCE画面で設定を変更します。

```
C)SP DISTANCE

→ UNIT······meters
  FRONT L····3.00m
  FRONT R····3.00m
  CENTER·····3.00m
  [▲]/[▼]:Up/Down
  [<]/[>]:Adjust
```

UNIT
設定する距離の単位を選びます。
選択項目：meters、feet
初期設定：meters

FRONT L
フロントLスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲：0.3~24.0m、1.0~80.0ft
初期設定：3.00m、10.0ft

FRONT R
フロントRスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲：0.3~24.0m、1.0~80.0ft
初期設定：3.00m、10.0ft

CENTER
センタースピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲：0.3~24.0m、1.0~80.0ft
初期設定：3.00m、10.0ft

SUR. L
サラウンドLスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲：0.3~24.0m、1.0~80.0ft
初期設定：3.00m、10.0ft

SUR. R
サラウンドRスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲：0.3~24.0m、1.0~80.0ft
初期設定：3.00m、10.0ft

SB
サラウンドバックスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲：0.3~24.0m、1.0~80.0ft
初期設定：3.00m、10.0ft

SB L
サラウンドバックLスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲：0.3~24.0m、1.0~80.0ft
初期設定：3.00m、10.0ft
*サラウンドバックスピーカーの本数により表示が変わります。

SB R
サラウンドバックRスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲：　0.3~24.0m、1.0~80.0ft
初期設定：3.00m、10.0ft
*サラウンドバックスピーカーの本数により表示が変わります。

SWFR.
サブウーファーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲：0.3~24.0m、1.0~80.0ft
初期設定：3.00m、10.0ft

PRNS L
プレゼンスLスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲：0.3~24.0m、1.0~80.0ft
初期設定：3.00m、10.0ft

PRNS R
プレゼンスRスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲：0.3~24.0m、1.0~80.0ft
初期設定：3.00m、10.0ft

ご注意

「SPEAKER SET」でNONEに設定されているスピーカーはリスニングポジションからの距離を調節できません(52ページ)。

THXの設定をする（THX SET）

サラウンドバックスピーカーを2つ設定している場合にサラウンドバックLスピーカーとサラウンドバックRスピーカーの間隔を調節して、最適なTHXサラウンドモードの視聴空間を設定します。

設定のしかた

カーソル（△/▽/◁/▷）キーで、MANUAL SETUP→BASIC MENU→THX SETを選び、THX SET画面で設定を変更します。

```
D)THX SET
SB DIST.
        0.3-1.2m

[<]/[>]:Adjust
```

SB DIST.

選択項目：under 0.3m、0.3m－1.2m、over 1.2m
初期設定：0.3m－1.2m

under 0.3m
2つのサラウンドバックスピーカーの間隔が0.3m以下の場合に選択します。

0.3m－1.2m
2つのサラウンドバックスピーカーの間隔が0.3m～1.2mの場合に選択します。

over 1.2m
2つのサラウンドバックスピーカーの間隔が1.2m以上の場合に選択します。

テストトーンの出力を設定する（TEST TONE）

BASIC MENUの他の項目（「SPEAKER SET」、「SP LEVEL」、「SP DISTANCE」）を設定するときにテストトーンを出力するか、出力しないかを設定します。

設定のしかた

カーソル（△/▽/◁/▷）キーで、MANUAL SETUP→BASIC MENU→TEST TONEを選び、TEST TONE画面で設定を変更します。

```
E)TEST TONE
→ TEST TONE････OFF

  [<]/[>]:Select
```

TEST TONE

選択項目：OFF（出力しない）、ON（出力する）
初期設定：OFF

ご注意

「ON」に設定すると、大きなテストトーンが出ます。小さなお子さまなどをリスニングルームに立ち入らせないようご配慮ください。

音声出力の設定を変更する(SOUND MENU)

イコライザーで周波数を補正する(EQUALIZER)

スピーカーの周波数補正を、AUTO SETUPでの補正値を適用するか、グラフィックイコライザーでお好みに合わせて調節するかを選択します。

設定のしかた

カーソル(△/▽/◁/▷)キーで、MANUAL SETUP→SOUND MENU→EQUALIZERを選び、EQUALIZER画面で設定を変更します。

```
A)EQUALIZER

SELECT·······GEQ

[<]/[>]:Adjust
[ENTER]:Enter
```

SELECT

選択項目：AUTO PEQ、GEQ、EQ OFF
初期設定：GEQ

AUTO PEQ
「AUTO SETUP」での補正を適用します。AUTO SETUPを設定した場合、自動的にAUTO SETUPが選択されます。

GEQ
グラフィックイコライザーで調節した補正を適用します。画面上でGEQを選択してENTERキーを押すと調節画面が表示され、各チャンネルの63Hz、160Hz、400Hz、1kHz、2.5kHz、6.3kHz、16kHzの周波数帯をそれぞれ調節できます。◁/▷キーでチャンネルを選んだら、△/▽キーで周波数帯を選び、◁/▷キーで、選んだ周波数帯のゲインを調節してください。ゲインの可変範囲は、−6dB〜+6dBです。

EQ OFF
イコライザーでの補正を適用しません。

低域効果音の音量を調節する(LFE LEVEL)

ドルビーデジタル、DTS、およびAAC信号に含まれる、LFE(低域効果音)の音量を調節します。スピーカーで音を聴く場合と、ヘッドホンで音を聴く場合を個別に調節できます。

設定のしかた

カーソル(△/▽/◁/▷)キーで、MANUAL SETUP→SOUND MENU→LFE LEVELを選び、LFE LEVEL画面で設定を変更します。

```
B)LFE LEVEL

→ SPEAKER······0dB
  HEADPHONE····0dB

[▲]/[▼]:Up/Down
[<]/[>]:Adjust
```

SPEAKER
スピーカーで音を聴く場合のLFEの音量を調節します。

可変範囲：−20dB〜0dB
初期設定：0dB

HEADPHONE
ヘッドホンで音を聴く場合のLFEの音量を調節します。

可変範囲：−20dB〜0dB
初期設定：0dB

ご注意

お使いになるサブウーファーやヘッドホンの性能に応じて音量を調節してください。

LFE(低域効果音)とは？

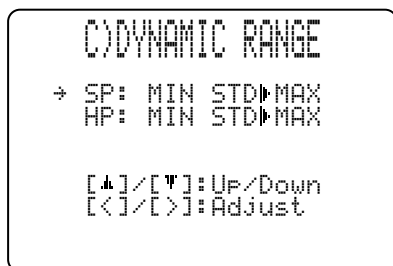
映画の爆発シーンなど、意図されたシーンでのみ出力される、重低音による効果音です。

ダイナミックレンジを設定する(DYNAMIC RANGE)

ドルビーデジタル/DTS再生時のダイナミックレンジ（最大音量から最小音量までの幅）を、3段階から選びます。スピーカーで音を聴く場合と、ヘッドホンで音を聴く場合を個別に選べます。

設定のしかた

カーソル（△/▽/◁/▷）キーで、MANUAL SETUP→SOUND MENU→DYNAMIC RANGEを選び、DYNAMIC RANGE画面で設定を変更します。

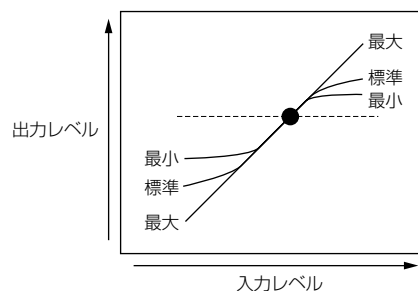
```
C)DYNAMIC RANGE

→ SP: MIN STD▶MAX
  HP: MIN STD▶MAX

  [▲]/[▼]:Up/Down
  [<]/[>]:Adjust
```

SP

スピーカーで音を聴く場合のダイナミックレンジを選びます。

選択項目：MIN（最小）、STD（標準）、MAX（最大）
初期設定：MAX

HP

ヘッドホンで音を聴く場合のダイナミックレンジを選びます。

選択項目：MIN（最小）、STD（標準）、MAX（最大）
初期設定：MAX

MIN

小音量でも聴きやすく、夜間に音声を楽しむのに適したダイナミックレンジです。

STD

一般的な家庭用として推奨するダイナミックレンジです。

MAX

入力された信号をリニアに再生するダイナミックレンジです。

ダイナミックレンジとは？

どれだけ小さな音から、どれだけ大きな音までを雑音や歪みなく再生できるかを数値で表わしたものです。

その他の音声出力を設定する(AUDIO SET)

音声と映像のずれを補正したり、AACモノラル音声の出力を設定します。

設定のしかた

カーソル(△/▽/◁/▷)キーで、MANUAL SETUP→SOUND MENU→AUDIO SETを選び、AUDIO SET画面で設定を変更します。

```
D)AUDIO SET

→ MUTE TYPE･･･FULL
  A.DELAY･･････0ms
  TONE BYPASS･AUTO
  DUAL MONO･･･MAIN
  [▲]/[▼]:Up/Down
  [<]/[>]:Adjust
```

MUTE TYPE

ミュート(消音)時に下げる音量を調節します。

選択項目:FULL、−20dB
初期設定:FULL

FULL
完全に消音し、無音にします。

−20dB
いま聴いている音量よりも、20dB下げて再生します。

A.DELAY

デジタル処理された映像が、音声よりも遅れて出力されることがあります。この出力タイミングのずれを、音声を遅らせて出力することにより補正します。
音を遅らせる時間を設定します。

可変範囲:0〜240ms
初期設定:0ms

TONE BYPASS

音色の調節(TONE CONTROL)でBASSおよびTREBLEが0dBに設定されている場合や、「自動測定メニュー」(「スタートアップガイド」35ページ)でのフロントチャンネルのゲインが0dBに設定されている場合、およびセットメニュー「EQUALIZER」の「GEQ」(57ページ)で、フロントL/Rチャンネルのゲインが0dBに設定されている場合に、トーンコントロールの経路をバイパスするかしないかを設定します。

選択項目:AUTO、OFF
初期設定:AUTO

DUAL MONO

BS/地上波デジタル放送などで使われているモノラル二重音声入力時に、どの音声を出力するか設定します。

選択項目:MAIN、SUB、ALL
初期設定:MAIN

MAIN
主音声のみをフロントL/Rスピーカーから出力します。

SUB
副音声のみをフロントL/Rスピーカーから出力します。

ALL
主音声と副音声をフロントL/Rスピーカーから出力します。

HDMIの設定をする(HDMI SET)

本機のHDMI IN端子から入力した音声信号を、本機で再生するか本機のHDMI OUT端子に接続した機器で再生するかを選択します。

設定のしかた

カーソル(△/▽/◁/▷)キーで、MANUAL SETUP→SOUND MENU→HDMI SETを選び、HDMI SET画面で設定を変更します。

```
E)HDMI SET

SUPPORT AUDIO
      DSP-AX1600

[<]/[>]:Adjust
```

選択項目:DSP-AX1600、OTHER
初期設定:DSP-AX1600

DSP-AX1600
入力信号を本機で再生します。HDMI IN端子に接続したHDMI機器から入力した信号は、HDMI OUT端子に伝送しません。

OTHER
入力信号を本機のHDMI OUT端子に接続した機器で再生します。

入出力の設定を変更する(INPUT MENU)

入出力端子の割り当てなど、信号の入出力に関する設定を行います。

入出力端子の割り当てを変更する(I/O ASSIGNMENT)

本機のコンポーネントビデオ/D5ビデオ入力端子やデジタル入出力端子に外部機器を接続するときに、外部機器の名称とは違う機器名が書かれている端子に接続すると、入力ソースを外部機器の名称通りに正しく選択できなくなってしまいます。
ここでは、DVDレコーダーを「DVR/VCR2」と書かれていない端子に接続しても、「DVR/VCR2」キーを押せば正しくDVDレコーダーを選択できるように設定する場合を例に説明します。

設定のしかた

カーソル(△/▽/◁/▷)キーで、MANUAL SETUP→INPUT MENU→I/O ASSIGNMENTを選び、I/O ASSIGNMENT画面で設定を変更します。

```
CMPNT-V INPUT

→ [A]·····DVR/VCR2
          (  DVD   )
  [B]·····  DTV
          (  DTV   )
  [C]·····CBL/SAT
          (CBL/SAT )
```

CMPNT-V INPUT [A][B][C]

コンポーネントビデオ/D5ビデオ入力端子の割り当てを変更します。

選択項目：DVD、DTV、CBL/SAT、VCR1、DVR/VCR2、V-AUX
初期設定：[A]DVD、[B]DTV、[C]CBL/SAT

例：コンポーネントビデオ入力(DVD)端子にDVDレコーダーを接続した場合、[A]の設定を「DVR/VCR2」に変更します。

```
COAXIAL IN

→ (1)·····   CD
          (   CD   )
  (2)·····DVR/VCR2
          (  DVD   )
  (3)·····  ---
          (DVR/VCR2)
```

COAXIAL IN(1)(2)(3)

同軸デジタル入力端子の割り当てを変更します。

選択項目：MD/TAPE、CD-R 、CD、PHONO、DVD、DTV、CBL/SAT、VCR1、DVR/VCR2、V-AUX
初期設定：(1)CD、(2)DVD、(3)DVR/VCR2

例：同軸デジタル入力(DVD)端子にDVDレコーダーを接続した場合、(2)の設定を「DVR/VCR2」に変更します。

```
OPTICAL IN 1/2

→ (4)·····   CD
          (   CD   )
  (5)·····DVR/VCR2
          (  DVD   )
  (6)·····  DTV
          (  DTV   )
```

OPTICAL IN(4)(5)(6)(7)

光デジタル入力端子の割り当てを変更します。

選択項目：MD/TAPE、CD-R 、CD、PHONO、DVD、DTV、CBL/SAT、VCR1、DVR/VCR2
初期設定：(4)CD、(5)DVD、(6)DTV、(7)CBL/SAT

例：光デジタル入力(DVD)端子にDVDレコーダーを接続した場合、(5)の設定を「DVR/VCR2」に変更します。

```
OPTICAL OUT

→ (8)·····DVR/VCR2
          (MD/TAPE )
  (9)·····  CD-R
          (  CD-R  )
```

OPTICAL OUT (8)(9)

光デジタル出力端子の割り当てを変更します。

選択項目：MD/TAPE、CD-R、CD、PHONO、DVD、DTV、CBL/SAT、VCR1、DVR/VCR2、V-AUX
初期設定：(8)MD/TAPE、(9)CD-R

例：光デジタル出力(MD/TAPE)端子にDVDレコーダーを接続した場合、(8)の設定を「DVR/VCR2」に変更します。

```
HDMI IN

→ IN1·····DVR/VCR2
          (  DVD   )
  IN2·····CBL/SAT
          (CBL/SAT )
```

HDMI IN(IN1)(IN2)

HDMI入力端子の割り当てを変更します。

選択項目：DVD、DTV、CBL/SAT、VCR1、DVR/VCR2、V-AUX
初期設定：IN1:DVD、IN2:CBL/SAT

例：HDMI入力端子にDVDレコーダーを接続した場合、IN1の設定を「DVR/VCR2」に変更します。

入力名を変更する(INPUT RENAME)

各入力名を変更することができます。変更後はその名前で本体のディスプレイに入力が表示されます。

設定のしかた

カーソル(△/▽/◁/▷)キーで、MANUAL SETUP→INPUT MENU→INPUT RENAMEを選び、INPUT RENAME画面で設定を変更します。

```
B)INPUT RENAME
 DVD -> DVD

[<]/[>]: Position
[▲]/[▼]: Chara.
```

1 ***入力選択キーを押して、名前を変更する入力を選ぶ***

2 ***AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ***

3 ***◁/▷キーを押して、変更する文字またはスペースに、__(アンダーバー)を合わせる***

4 ***△/▽キーを押して入力する文字を選ぶ***

入力できる文字は以下のとおりです。

- アルファベット大文字: A~Z
- アルファベット小文字: a~z
- 数字: 0~9
- 記号: ＃＊＋，－．／：＜＞？
- スペース(空白)

文字は最大8文字まで入力できます。手順3 と4を繰り返して、文字を入力していきます。

5 ***入力が終わったら、ENTERキー、またはRETURNキーを押す***

再生レベルを補正する(VOLUME TRIM)

選んでいる入力の再生レベルを補正します。接続している機器ごとに異なる再生レベルを、同じレベルに補正すれば、入力を切り替えるたびに音量を微調整する必要がなくなります。

設定のしかた

カーソル(△/▽/◁/▷)キーで、MANUAL SETUP→INPUT MENU→VOLUME TRIMを選び、VOLUME TRIM画面で設定を変更します。

```
C)VOLUME TRIM

→ PHONO      0.0dB
      CD     0.0dB
    CD-R     0.0dB
 MD/TAPE     0.0dB
[▲]/[▼]:Up/Down
[<]/[>]:Adjust
```

VOLUME TRIM

可変範囲：－6.0dB～＋6.0dB
初期設定：0.0dB

入力モードを切り替える（DECODER MODE）

入力モードを切り替えます。選択した音声入力端子から入力する信号を、DTSなどの特定の信号に固定したりすることができます。

設定のしかた

カーソル（∆/∇/◁/▷）キーで、MANUAL SETUP→INPUT MENU→DECODER MODEを選び、DECODER MODE画面で設定を変更します。

```
D)DECODER MODE

   CD    ····AUTO
  DTV    ····AUTO
CBL/SAT ····AUTO
DVR/VCR ····AUTO
[▲]/[▼]:Up/Down
[<]/[>]:Adjust
```

選択項目：AUTO、DTS、AAC
初期設定：AUTO

AUTO
自動的に入力信号を選択します。

DTS
DTS信号に固定されます。DTS信号以外の信号が入力されても再生されません。

AAC
AAC信号に固定されます。AAC信号以外の信号が入力されても再生されません。

DTS-CDを再生する場合は、「DTS」に設定して再生することをおすすめします。

ご注意

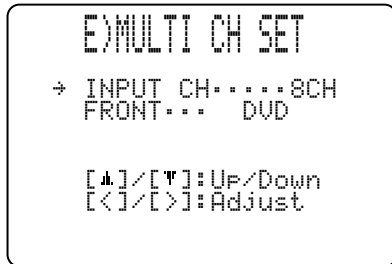
- 「OPTION MENU」の「AUDIO SELECT」の設定で、本機の電源を入れたときに、前回使っていた入力モードをそのまま使うか、「AUTO」に戻すかを設定できます（66ページ）。
- 同軸デジタル入力端子と光デジタル入力端子へ同時にデジタル信号が入力されると、同軸デジタル入力端子への入力信号が優先されます。
- プレーヤーから出力されるデジタル信号に、音量可変などの処理がされている場合は、本機とプレーヤーをデジタル接続しても、DTS音声は再生されません。

MULTI CH INPUT端子に入力された信号の振り分けを設定する（MULTI CH SET）

MULTI CH INPUT端子に接続されたソースの入力信号の振り分け先を設定します。

設定のしかた

カーソル(∆/∇/◁/▷)キーで、MANUAL SETUP→INPUT MENU→MULTI CH SETを選び、MULTI CH SET画面で設定を変更します。

```
E)MULTI CH SET

→ INPUT CH·····8CH
  FRONT···   DVD

  [▲]/[▼]:Up/Down
  [<]/[>]:Adjust
```

INPUT CH

入力する信号のチャンネル数を設定します。

選択項目：6CH、8CH
初期設定：6CH

6CH

6チャンネル信号を入力するときの設定です。

8CH

8チャンネル信号を入力するときの設定です。アナログ音声入力端子をフロントチャンネル用の端子として使います。

8CHに設定した場合、フロントチャンネル用の端子として使うアナログ音声入力端子を選ぶことができます。

FRONT

フロントチャンネル用の端子として使う、アナログ音声入力端子を選択します。

選択項目：MD/TAPE、CD-R、CD、DVD、DTV、CBL/SAT、VCR1、DVR/VCR2、V-AUX
初期設定：DVD

その他の設定を変更する(OPTION MENU)

お好みに応じて表示の設定を変更したり、変更した設定値を保護します。

表示の設定を変更する(DISPLAY SET)

フロントパネルディスプレイの明るさや、オンスクリーン画面の背景や表示位置などを調節します。アドバンストセットアップメニューの「V-RESET」(71ページ)で、DIMMER以外の項目をすべて工場出荷状態に戻すことができます。

設定のしかた

カーソル(△/▽/◁/▷)キーで、MANUAL SETUP→OPTION MENU→DISPLAY SETを選び、DISPLAY SET画面で設定を変更します。

```
A)DISPLAY SET

→ DIMMER.......0
  OSD SHIFT....0
  GRAY BACK.AUTO
  V CONV......ON
  [▲]/[▼]:Up/Down
  [<]/[>]:Adjust
```

ご注意

- ゲーム機からの信号など、非標準信号が入力された場合、「ON」に設定しても、入力信号が変換されない場合があります。
- OFFに設定した場合でも、セットメニューを表示させるときは、各信号が上位変換されて出力されます。
- 非標準信号を出力する機器と接続した場合、映像が正しく出力されない場合があります。このような場合は、「OFF」に設定してください。

DIMMER

前面のディスプレイ表示の明るさを調節します。

数値が小さいほど表示が暗くなり、数値が大きいほど表示が明るくなります。

可変範囲：−4〜0
初期設定：0

OSD SHIFT

オンスクリーン表示を表示する上下位置を調節します。

可変範囲：−5(上方)〜+5(下方)
初期設定：0

GRAY BACK

ビデオ信号が入力されていない場合のオンスクリーン表示の設定をします。

選択項目：AUTO、OFF
初期設定：AUTO

AUTO

ビデオ信号が入力されていない場合に、グレーの背景を表示して、オンスクリーン表示を表示します。

OFF

ビデオ信号が入力されていない場合に、オンスクリーン表示を表示しません。

V CONV.

入力された映像信号を出力するときに、信号を他の種類の信号に変換するか、変換しないかを設定します。

選択項目：ON、OFF
初期設定：ON

ON

変換します。

OFF

変換しません。

ヒント

THXでは、最適な映像をご覧いただくため、「OFF」に設定することを推奨しています。

CMPNT I/P

コンポジット端子、Sビデオ端子、コンポーネント端子から入力されたアナログ映像入力信号をコンポーネント端子から出力するときに、480/576インターレース信号を480/576プログレッシブ信号に変換するか変換しないかを設定します。

選択項目：ON、OFF
初期設定：OFF

ON

I/P変換します。

OFF

I/P変換しません。

「V CONV.」が「ON」のときに設定することができます。

HDMI I/P

コンポジット端子、Sビデオ端子、コンポーネント端子から入力されたアナログ映像入力信号をHDMI端子から出力するときに、480/576インターレース信号を480/576プログレッシブ信号に変換するか変換しないかを設定します。

選択項目：ON、OFF
初期設定：ON

ON

I/P変換します。

OFF

I/P変換しません。

ヒント

- 「V CONV.」が「ON」のときに設定することができます。
- HDMI OUTに接続した機器が480/576インターレース信号に対応していない場合、OFFに設定しても自動的にプログレッシブ信号に変換されます。

変更した設定値を保護する(MEMORY GUARD)

変更した設定値を保護します。ONに設定すると、誤操作による設定値の変更を防ぐことができます。

設定のしかた

カーソル(△/▽/◁/▷)キーで、MANUAL SETUP→OPTION MENU→MEMORY GUARDを選び、MEMORY GUARD画面で設定を変更します。

```
B)MEMORY GUARD
    ▶OFF    ON

[<]/[>]:Adjust
```

選択項目：OFF、ON
初期設定：OFF

ONに設定すると以下の設定が保護されます。

- 音場プログラムパラメーターの設定
- MEMORY GUARD以外のセットメニューの設定
- 各スピーカーの音量設定
- オンスクリーン表示の設定

ご注意

MEMORY GUARDがONに設定されていると、テストトーンを使用したり他のセットメニュー項目を選択できません。MEMORY GUARD以外のセットメニューを変更しようとすると、フロントパネルディスプレイとOSDに「MEMORY GUARD!」と表示されます。

電源を入れたときに適用する入力モードを設定する(AUDIO SELECT)

メインルームの電源を入れたときに適用する入力モードを設定します。

設定のしかた

カーソル(△/▽/◁/▷)キーで、MANUAL SETUP→OPTION MENU→AUDIO SELECTを選び、AUDIO SELECT画面で設定を変更します。

```
C)AUDIO SELECT
    ▶AUTO   LAST

[<]/[>]:Adjust
```

選択項目：AUTO、LAST
初期設定：AUTO

AUTO
自動的に入力モードをAUTOに設定します。

LAST
前回使っていた入力モードを適用します。

ご注意

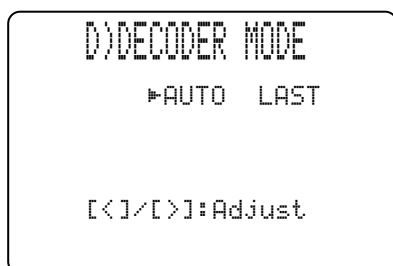
LASTを選択しても、EXTD. SURキーで設定した内容は記憶されません。

電源を入れたときに適用するデコーダーを設定する(DECODER MODE)

メインルームの電源を入れたときに適用するデコーダーを設定します。

設定のしかた

カーソル(△/▽/◁/▷)キーで、MANUAL SETUP→OPTION MENU→DECODER MODEを選び、DECODER MODE画面で設定を変更します。

```
D)DECODER MODE
     ▶AUTO  LAST

[<]/[>]:Adjust
```

選択項目：AUTO、LAST
初期設定：AUTO

AUTO
自動的にデコーダーを選択します。

LAST
前回「IMPUT MENU」の「DECODER MODE」で設定したデコーダーを適用します。

音場プログラムパラメーターを初期化する(PARAM. INI)

変更した音場プログラムパラメーターを初期設定に戻します。

設定のしかた

カーソル(△/▽/◁/▷)キーで、MANUAL SETUP→OPTION MENU→PARAM. INIを選び、PARAM. INI画面で設定を変更します。

```
E)PARAM. INI

STEREO
MUSIC
ENTERTAINMENT
MOVIE THEATER
STANDARD

 PRESS DSP KEY
```

設定が変更されている音場プログラムは、そのプログラム番号の前にアスタリスク(*)が表示されます。リモコンの数字/音場プログラムキーで、パラメーターを初期設定に戻したい音場プログラムを選んでください。

ご注意

- 一度音場プログラムパラメーターを初期設定に戻してしまうと、初期化前の状態には戻せません。
- それぞれの音場プログラムを個別に初期設定に戻すことはできません。誤って初期化してしまったときのために、パラメーターを変更したときは記録しておいてください。
- セットメニュー「MEMORY GUARD」がONに設定されていると、音場プログラムパラメーターを初期設定に戻すことはできません(65ページ)。

マルチゾーンを設定する(ZONE SET)

マルチゾーン機能(46ページ)を使うときに、スピーカーBの設置場所やゾーン2/3の音量、音声出力に使うアンプなどを設定します。

設定のしかた

カーソル(△/▽/◁/▷)キーで、MANUAL SETUP→OPTION MENU→ZONE SETを選び、ZONE SET画面で設定を変更します。

```
F)ZONE SET

→ SP B........MAIN
  ZONE2 VOL....VAR
  ZONE3 VOL....VAR
  ZONE2 AMP....EXT
  [▲]/[▼]:Up/Down
  [<]/[>]:Adjust
```

SP B

リアパネルのFRONT SPEAKERS B端子に接続したスピーカー(スピーカーB)を、メインルームで使うか、別の部屋(ZONE B)で使うかを設定します。

選択項目：MAIN、ZONE B
初期設定：MAIN

MAIN

メインルームで使うときの設定です。スピーカーAとスピーカーBの出力のオン/オフは、SPEAKERS A/Bスイッチで切り替えます。

ZONE B

別の部屋で使うときの設定です。スピーカーAの出力をオフ、スピーカーBの出力をオンにすると、メインルームに設置しているすべてのスピーカーから、音が出なくなります。

ご注意

- ZONE Bに設定して使用する場合、本機のPHONES端子にヘッドホンを差し込むと、ヘッドホンとスピーカーBの両方から音声が出力されます。
- ZONE Bに設定してお使いの場合、音場プログラムを選んで音場効果をかけると、自動的にバーチャルシネマDSPモードの再生になります。

ZONE2 VOL

ゾーン２の音量を固定するか、可変にするかを設定します。

選択項目：VAR、FIX
初期設定：VAR

VAR

本体のVOLUMEコントロールやリモコンのVOLUME＋/－キーで、ゾーン2へ出力する音量を調節できます。

FIX

音量を＋2.5dBに固定します。

ヒント

「ZONE2 AMP」が「EXT」のときに設定することができます。

ZONE3 VOL

ゾーン3の音量を固定するか、可変にするかを設定します。

選択項目：VAR、FIX
初期設定：VAR

VAR

本体のVOLUMEコントロールやリモコンのVOLUME＋/－キーで、ゾーン3へ出力する音量を調節できます。

FIX

音量を固定します。

「ZONE3 AMP」が「EXT」のときに設定することができます。

ZONE2 AMP

ゾーン２への音声出力に使用するアンプを設定します。

選択項目：EXT、SUR、PRNS、BOTH
初期設定：EXT

EXT
外部アンプを使って音声を出力します。リアパネルのZONE2 OUT端子に、ゾーン2で使うアンプを接続するときに使います。

SUR
本機の内部アンプを使って音声を出力します。リアパネルのSURROUNDスピーカー端子に接続したスピーカーをゾーン2用のスピーカーとして使う場合に選択します。

PRNS
本機の内部アンプを使って音声を出力します。リアパネルのPRESENCEスピーカー端子に接続したスピーカーをゾーン2用のスピーカーとして使う場合に選択します。

BOTH
本機の内部アンプを使って音声を出力します。リアパネルのSURROUNDスピーカー端子とPRESENCEスピーカー端子に接続したスピーカーをゾーン2用のスピーカーとして使う場合に選択します。

ご注意

- アドバンストセットアップメニューの「BI-AMP」が「ON」のときは、「SUR」、「PRNS」、「BOTH」を選択しても、該当するスピーカーから音声は出力されません（71ページ）。
- 「ZONE2 AMP」または「ZONE3 AMP」のどちらか一方を「SUR」または「BOTH」に設定した場合、「SPEAKER SET」（52ページ）の「SUR. L/R SP」と「SB L/R SP」、「PRESENCE SP」が「NONE」に固定されます。

ZONE3 AMP

ゾーン3への音声出力に使用するアンプを設定します。

選択項目：EXT、SUR、PRNS、BOTH
初期設定：EXT

EXT
外部アンプを使って音声を出力します。リアパネルのZONE3 OUT端子に、ゾーン3で使うアンプを接続するときに使います。

SUR
本機の内部アンプを使って音声を出力します。リアパネルのSURROUNDスピーカー端子に接続したスピーカーをゾーン3用のスピーカーとして使う場合に選択します。

PRNS
本機の内部アンプを使って音声を出力します。リアパネルのPRESENCEスピーカー端子に接続したスピーカーをゾーン3用のスピーカーとして使う場合に選択します。

BOTH
本機の内部アンプを使って音声を出力します。リアパネルのSURROUNDスピーカー端子とPRESENCEスピーカー端子に接続したスピーカーをゾーン3用のスピーカーとして使う場合に選択します。

ご注意

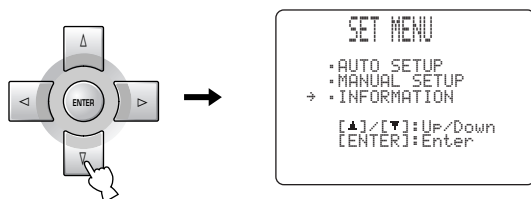
- アドバンストセットアップメニューの「BI-AMP」が「ON」のときは、「SUR」、「PRNS」、「BOTH」を選択しても、該当するスピーカーから音声は出力されません（71ページ）。
- 「ZONE2 AMP」と「ZONE3 AMP」の両方を「SUR」、「PRNS」または「BOTH」に設定することはできません。また、片方を「BOTH」に設定した場合、もう片方は「EXT」しか選択できません。
- 「ZONE2 AMP」または「ZONE3 AMP」のどちらか一方を「SUR」または「BOTH」に設定した場合、「SPEAKER SET」（52ページ）の「SUR. L/R SP」と「SB L/R SP」、「PRESENCE SP」が「NONE」に固定されます。

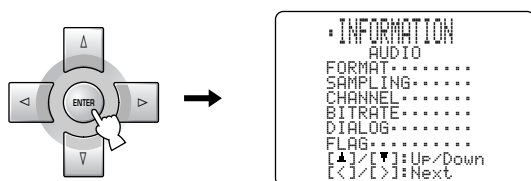
入力信号情報を表示する(INFORMATION)

入力信号のフォーマット、チャンネル数やサンプリング周波数などの情報を表示させることができます。

1 ***AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ***

2 ***SET MENUキーを押して、セットメニュー画面を表示する***

3 ***∇キーを押して「INFORMATION」を選択する***

4 ***ENTERキーを押す***

音声信号の情報が表示されます。◁/▷キーを押すと、映像信号の情報に表示が切り替わります。

FORMAT

音声入力信号のフォーマット(信号方式)を表示します。

表示	信号方式
Analog	アナログ信号
PCM	PCM信号
Dolby D	ドルビーデジタル信号
DTS	DTS信号
AAC	AAC信号
– – –	圧縮オーディオ(非リニアPCM)信号
???	不明なデジタル信号

SAMPLING

プロロジックエンコードされたドルビーデジタル信号入力時に、音声入力信号のサンプリング周波数を表示します。サンプリング周波数が不明な場合は、「???」と表示されます。

CHANNEL

音声入力信号のチャンネル数を表示します。

左から、「フロントチャンネル数/サラウンドチャンネル数/LFEチャンネル」を表わしています。たとえば、「3/2/0.1」と表示された場合は、「フロント3チャンネル/サラウンド2チャンネル/LFE0.1チャンネル」の信号が入力されています。

また、「1＋1」と表示された場合は、二カ国語放送などの主＋副の2チャンネルの信号が入力されています。

BITRATE

音声入力信号の1秒あたりのデータ量(ビットレート)を表示します。ビットレートが不明な場合は、「---」と表示されます。

ご注意

AAC信号のビットレートは、再生中に変化することがありますが、正常な動作です。

DIALOG

ドルビーデジタルおよびDTS信号入力時に、音量が異なるさまざまなソフトに対し、自動的に一定の音量で再生されるように調節するダイアログ・ノーマライゼーション機能がはたらきます。この機能がはたらいている場合に、調節しているレベル量を表示します(−27〜+4dB)。

FLAG

音声入力信号に含まれている、ある動作をさせるための識別信号(フラグ)を表示します。

表示	フラグ
Emphasis	プリエンファシス処理されたPCM信号入力時に表示されます。
Surround EX	ドルビーデジタルEX信号入力時に表示されます。
Karaoke	ドルビーデジタルカラオケ信号入力時に表示されます。
DPL Encoded	プロロジックエンコードされたドルビーデジタル信号入力時に表示されます。
ES Matrix 6.1	DTS ESマトリクス信号入力時に表示されます。
ES Disc 6.1	DTS ESディスクリート信号入力時に表示されます。
96kHz/24bit	DTS 96/24信号入力時に表示されます。
– – –	フラグが認識できない場合に表示されます。

HDMI TYPE

HDMI入出力信号の種類を表示します。

HDMI RES. (Resolution)

HDMI入出力信号の解像度を表示します。

解像度が不明な場合は、「???」と表示されます。

ANALOG RES. (Resolution)

アナログ入出力信号の解像度を表示します。

アドバンストセットアップメニューを設定する

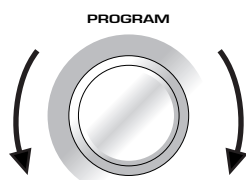
フロントパネルのディスプレイを使ってメニューを表示させて、さまざまな項目を設定することができます。

1　本機の電源がオフになっていることを確認する

2　STRAIGHT/EFFECTキーを押しながら、MASTER ON/OFFスイッチを押す

フロントパネルディスプレイにセットアップメニューが表示されます。

3　PROGRAMセレクターを回して、変更したい項目を選ぶ

ディスプレイに表示された項目が変わります。

4　STRAIGHT/EFFECTキーを押して、設定を変更する

5　MASTER ON/OFFスイッチを押して、設定を保存する

次に電源を入れたときから、変更した設定が有効になります。

PRESET

本機のすべてのパラメーターを工場出荷状態に戻します。

選択項目：RESET、CANCEL
初期設定：CANCEL

CANCEL
本機のパラメーターを初期設定に戻さないときに選択します。

RESET
本機のパラメーターを初期設定に戻します。

REMOTE SEN

リモコンでの本体操作を有効にするか無効にするかを設定します。

選択項目：ON、OFF
初期設定：ON

ON
リモコンの操作を有効にします。本機をリモコンで操作することができます。

OFF
リモコンの操作を無効にします。本機をリモコンで操作することはできません。

WAKE ON 232C

本機がスタンバイのときに、RS-232C端子からのデータを受信するか、受信しないかを設定します。

選択項目：Y、N
初期設定：N

Y
RS-232C端子からのデータを受信します。

N
RS-232C端子からのデータを受信しません。

REMOTE AMP

本機のリモコンIDをリモコンのアンプライブラリー設定(75ページ)に合わせます。

選択項目：ID1、ID2
初期設定：ID1

ID1
リモコンのアンプライブラリーが「2001」に設定されているときに選択します。

ID2
リモコンのアンプライブラリーが「2002」に設定されているときに選択します。

REMOTE TUN

本機のチューナー用リモコンIDをリモコンのチューナーライブラリー設定(75ページ)に合わせます。

選択項目：ID1、ID2
初期設定：ID1

ID1
リモコンのチューナーライブラリーが「2602」に設定されているときに選択します。

ID2
リモコンのチューナーライブラリーが「2603」に設定されているときに選択します。

FAN MODE

冷却用ファンの設定をします。

選択項目：AUTO、CONT.
初期設定：AUTO

AUTO
本機の温度を感知して、冷却用ファンが自動的に回転/停止します。

CONT.
本機の温度にかかわらず、冷却用ファンが常時回転します。

BI-AMP

スピーカーをバイアンプ接続して、バイアンプ機能を使うか使わないかを設定します。

選択項目：OFF、ON
初期設定：OFF

OFF
バイアンプ機能を使いません。

ON
バイアンプ機能を使います。ウーファーとツィーターを別々のアンプで駆動します。

V-RESET

DISPLAY SET(64ページ)で変更した、DIMMER以外の項目を工場出荷状態に戻します。

選択項目：YES、CANCEL
初期設定：CANCEL

YES
工場出荷状態に戻します。

CANCEL
工場出荷状態に戻さないときに選択します。

リモコンのはたらき

他の機器のリモコン信号を記憶させたり、リモコンコードを設定することにより、本機のリモコンで、DVDプレーヤーやCDプレーヤー、テレビなど本機以外のAV機器を操作することができます。また、マクロ機能を使うと、一連のキー操作を1つのキーでできるようになり、操作性が格段に向上します。

本機を操作する

本機の操作に使用するキーは下図の白色で示した部分です。点線部分内のキー(共通操作キー)はどのモードでも機能します。その他の白色部分のキーを使用するにはAMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、AMPを選びます。

ヒント

音場プログラムキーなど本機主体で使う場合、AMP/SOURCE/TVスイッチをAMPにセットしてご使用ください。

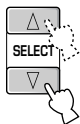
ほかの機器を操作する

ほかの機器の操作に使うキーは、下図の点線で囲んだ部分です。入力選択キーまたはSELECT ∆/∇キーで選んだ機器によって、各キーの機能が変わります。リモコンディスプレイには、選んだ機器の名前が表示されます。

ヒント

- 番号キーなど他の機器主体で使う場合、AMP/SOURCE/TVスイッチをSOURCEにセットしてご使用ください。
- 本機に関係なくテレビのリモコンとして使う場合、AMP/SOURCE/TVスイッチをTVにセットしてご使用ください。テレビを操作するにはDTVまたはPHONOにリモコンコードを設定する必要があります(74ページ)。

操作する機器を切り替える

SELECT∆/∇キーを押すと、入力ソースは切り替えずに、リモコンで操作する機器だけを切り替えることができます。操作できる機器は、リモコンディスプレイに表示されます。

OPTN(オプション)モード

入力選択キーでの切り替えに関係なく操作したい機能をラーニングする場合は、OPTNにラーニングすると便利です。SELECT∇キーを押して「OPTN」を選ぶと、ラーニングした機器を操作することができます。

ヒント

マクロ機能(86ページ)だけに使うリモコン信号は、OPTNモードにしてラーニングすることをおすすめします。

ご注意

OPTNモードには、リモコンコードを登録できません。

AMP/SOURCE/TVスイッチの役割

音場プログラムキーなど、本機主体で使う場合：
AMPにセットします。

番号キーなど、他の機器主体で使う場合：
SOURCEにセットします。

本機に関係なくテレビのリモコンとして使う場合：
TVにセットします。
DTVキーまたはPHONOキーにリモコンコードを設定したテレビを操作できます。テレビのリモコンコードを両方のキーに設定した場合は、DTVキーに設定したテレビを操作できます。

本機のリモコンで本機以外の機器を操作する

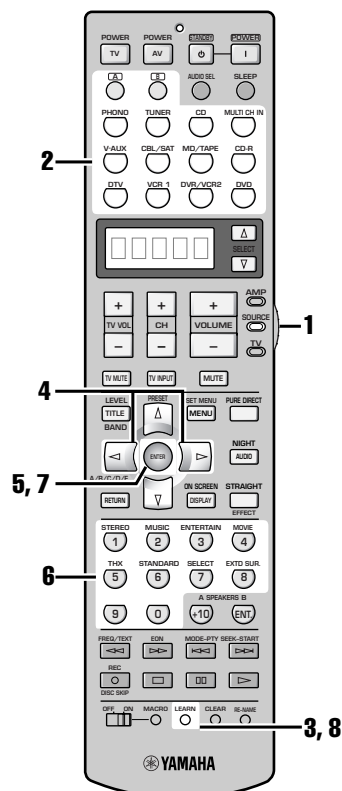
リモコンで操作する機器を設定する

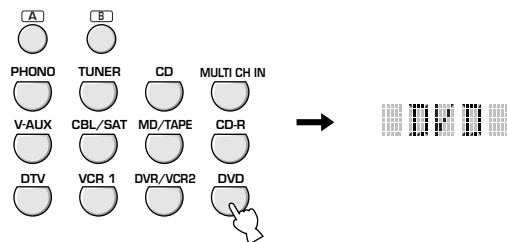
リモコンコードを設定することにより、本機のリモコンで他のメーカーの機器を操作することができます。リモコンコードは各入力選択キーまたは[A]/[B]キーに設定することができます。[A]、[B]、TUNER、CD、MULTI CH IN、MD/TAPE、CD-R、DVR/VCR2、DVDの機器操作キーには工場出荷時にあらかじめヤマハのリモコンコードが設定されています。

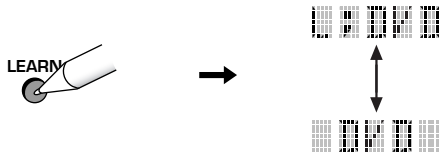
初期設定

入力選択キー	ライブラリー	ヤマハ初期設定コード
[A]	TAPE	2700
[B]	LD	2200
PHONO	TV	–
TUNER	TUN	2602
CD	CD	2300
MULTI CH IN	DVD	2102
V-AUX	VCR	–
CBL/SAT	CAB	–
MD/TAPE	MD	2500
CD-R	CDR	2400
DTV	TV	–
VCR1	VCR	–
DVR/VCR2	DVR	2807
DVD	DVD	2102

ご注意

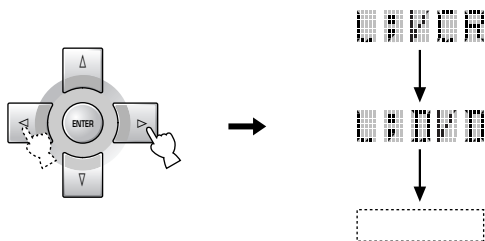
お使いのヤマハ機器によっては、上図の「ヤマハ初期設定コード」では操作できない場合があります。この場合は、他のヤマハリモコンコードをお試しください。

1 ***AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、SOURCEを選ぶ***

2 ***設定を変更したい入力選択キーを押す***

3 LEARNボタンを3秒以上押し続ける

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに機器の種類(ライブラリー)と、選んだ入力ソースの名前が交互に表示されます。

ご注意

- LEARNボタンは3秒以上押しつづけてください。短く押して離すと、ラーニングモードに切り替わります(83ページ)。
- 手順3以降の操作は、それぞれ操作後30秒以内に行ってください。そのままにしておくとリモコンコード設定が自動的に中止されます。この場合は、手順3から操作しなおしてください。

4 設定されている機器の種類(ライブラリー)を変更する場合は、◁/▷キーを押して、使いたい機器の種類(ライブラリー)を選ぶ

本機のリモコンには、AMP、TV、CAB(CABLE)、SAT(SATELLITE)、VCR、DVD、DVR、LD、CD、CDR(CD-R)、MD、TAP(TAPE)、TUN(TUNER)の13種類のライブラリーが用意されています。

アンプ(L:AMP)/チューナー(L:TUN)ライブラリーについて

複数のヤマハ製アンプ/レシーバーを同じ部屋で使用している場合などに、工場出荷状態の通常コード「2001」または「2602」のままリモコンで操作すると、これらのアンプ/レシーバーが同時に作動する場合があります。

本機を単独で操作する場合は、予備コード「2002」または「2603」に設定してください。また本体のリモコンID設定を「ID2」に設定してください(70ページ)。

アンプ操作用ライブラリーコードの設定

AMP/SOURCE/TVスイッチでAMPを選択し、アンプを操作するときのリモコンコードを設定します。

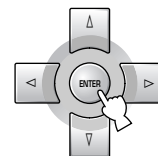
アンプライブラリーコード設定(リモコンの設定)	機能	リモコンアンプ用ID設定(本体の設定)
2001 (初期設定)	通常コードで本機およびゾーン2/ゾーン3を操作する場合の設定です。	ID1 (初期設定)
2002	予備コードで本機およびゾーン2/ゾーン3を操作する場合の設定です。	ID2

チューナー操作用ライブラリーコードの設定

AMP/SOURCE/TVスイッチでSOURCEを選択し、チューナーモードにしたときのリモコンコードを設定します。

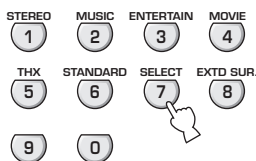
チューナーライブラリーコード設定(リモコンの設定)	機能	リモコンチューナー用ID設定(本体の設定)
2602 (初期設定)	通常コードで本機を操作する場合の設定です。	ID1 (初期設定)
2603	予備コードで本機を操作する場合の設定です。	ID2

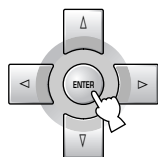
5 ENTERキーを押す

設定されているリモコンコードがリモコンディスプレイに表示されます。

ご注意

選んだ機器用にリモコンコードが設定されていない場合は、「0000」とリモコンディスプレイに表示されます。

6 数字キーを押して、4桁のリモコンコードを入力する

リモコンコードについては、「リモコンコード一覧」(77～78ページ)を参照してください。

7 ENTERキーを押す

リモコンコードが正しく入力されると、リモコンディスプレイに「OK」と表示されます。

ご注意

リモコンコードが正しく入力されなかった場合は、リモコンディスプレイに「NG」と表示されます。このような場合は手順3から操作しなおしてください。

8 LEARNボタンを押して、リモコンコードの設定を終了する

リモコンが通常の状態に戻ります。

9 動作を確認する

POWERやPLAYなどの各キーで、お使いの機器が正しく動作するか確認してください。正しく動作しないときは同じメーカーの別のリモコンコードを選んでみてください。

ご注意

- 付属のリモコンは、市販されているすべてのAV機器(ヤマハAV機器を含む)のリモコンコードを内蔵しているわけではありませんので、お手持ちのAV機器を操作できない場合があります。いずれのリモコンコードでも操作ができない場合は、ラーニング機能(83ページ)を利用するか、お使いの機器に付属のリモコンをお使いください。
- 1つの入力選択キーに対して、1つのリモコンコードしか設定できません。
- すでにラーニングやマクロを設定している場合、ラーニングまたはマクロによる機能が、リモコンコードの機能より優先されます。
- 手順で指定されたキー以外を操作したり、2つ以上のキーを同時に押したりすると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

リモコンコード一覧

本機のリモコンに内蔵のライブラリーは全世界対応です。下表は主に日本で流通しているメーカーのリモコンコードです。下表のメーカー製品であっても形式、年式によって使用できないものがあります。他社のリモコンコードを設定した場合、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。この場合は、お使いの機器専用のリモコンをご利用ください。

TV

メーカー名	リモコンコード				
DAEWOO	0036	0057	0064	0119	0135
	0181	0197	0205	0207	0401
	0478	0650	0661	1688	
FUJITSU	0710	0836			
FUNAI	0207	0198	0291		
GOLDSTAR	0057	0064	0136	0181	0205
	0404				
HITACHI	0036	0057	0119	0132	0136
	0172	0190	0205	0252	0383
	0508	0575	0605	1172	1283
LG	0057	0064	0087	0135	0205
	0741				
MITSUBISHI	0057	0120	0135	0177	0181
	0205	0207	0263	0277	0539
	0863	1277			
NEC	0036	0057	0078	0181	0183
	0197	0205	0482	0524	1731
PANASONIC	0064	0078	0081	0190	0277
	0677	1437			
PHILIPS	0027	0057	0064	0078	0081
	0119	0135	0205	0401	0583
	0717	1481			
PIONEER	0136	0190	0193	0314	0706
	0787	0893			
SAMSUNG	0036	0057	0064	0087	0117
	0119	0181	0205	0291	0397
	0583	0614	0645	0729	0793
	0839	0841			
SANYO	0131	0181	0207	0235	0366
	0826				
SHARP	0057	0120	0677		
SONY	0027	0677	0861	1127	1532
	1678				
TOSHIBA	0087	0181	0183	0535	0645
	0677	0859	1283	1383	1683
	1731				
VICTOR	0080	0277	0677	0680	
YAMAHA	0057	0677	0796	0860	
	2900（プロジェクター）	2901（プロジェクター）			
	2902	2903			

ケーブルTVチューナー

メーカー名	リモコンコード			
PIONEER	0171	0560	0904	1904

BSデジタルチューナー

メーカー名	リモコンコード			
PANASONIC	0274	0728	0874	1347
SONY	0666	0874	1666	
TOSHIBA	0776	0817	1776	

テープデッキ

メーカー名	リモコンコード	
AIWA	0056	
MARANTZ	0056	
PIONEER	0054	
SANSUI	0056	
SONY	0270	
YAMAHA	2700	2701

ビデオデッキ

メーカー名	リモコンコード				
AIWA	0027	0064	0334	0375	0379
DAEWOO	0072	0131	0305	0669	1305
FUNAI	0027				
GOLDSTAR	0064	0252	0507	1264	
HITACHI	0027	0064	0068	0069	0267
LG	0064	0069	0072	0507	
MITSUBISHI	0068	0070	0094	0108	0834
NEC	0062	0064	0068	0075	0094
	0131				
PANASONIC	0062	0252	0253	0643	1062
	1589				
SAMSUNG	0072	0267	0459		
SANYO	0074	0131	0267		
SHARP	0075	0834			
SHINTOM	0099	0131			
SONY	0027	0059	0060	0062	0663
	1259				
TOSHIBA	0068	0070	0072	0094	0108
	0872				
VICTOR	0068	0094			
YAMAHA	0068				

DVDプレーヤー

メーカー名	リモコンコード				
DENON	0517				
HITACHI	0600	0691			
KENWOOD	0517	0561			
MITSUBISHI	0548				
ONKYO	0530				
PANASONIC	0517	0659	1389		
PHILIPS	0530	0566	0673	0881	
PIONEER	0552	0598	0658	0659	
RCA	0549	0598	0744		
SAMSUNG	0600				
SHARP	0657				
SONY	0560	0891			
TOSHIBA	0530				
VICTOR	0585	0650			
YAMAHA	0517	0566	0572	2100	2101
	2102				

メーカー名	リモコンコード		

DVDレコーダー

PANASONIC	2800	2801	2802
PHILIPS	2808		
PIONEER	2804	2805	2806
SHARP	2812	2813	
SONY	2809	2810	2811
TOSHIBA	2803		
VICTOR	2814		

LDプレーヤー

DENON	0086
MARANTZ	0091
MITSUBISHI	0086
PHILIPS	0091
PIONEER	0086
SONY	0228
YAMAHA	2200

CDプレーヤー

AIWA	0184	
DENON	0900	
HITACHI	0059	
KENWOOD	0055	0064
MARANTZ	0056	0184
PANASONIC	0056	
PHILIPS	0184	
PIONEER	0059	0332
SANSUI	0184	0332
SANYO	0206	
SHARP	0064	
SONY	0027	
TECHNICS	0056	
VICTOR	0099	
YAMAHA	2300	2301

CDレコーダー

KENWOOD	0653
MARANTZ	0653
PHILIPS	0653
YAMAHA	2400

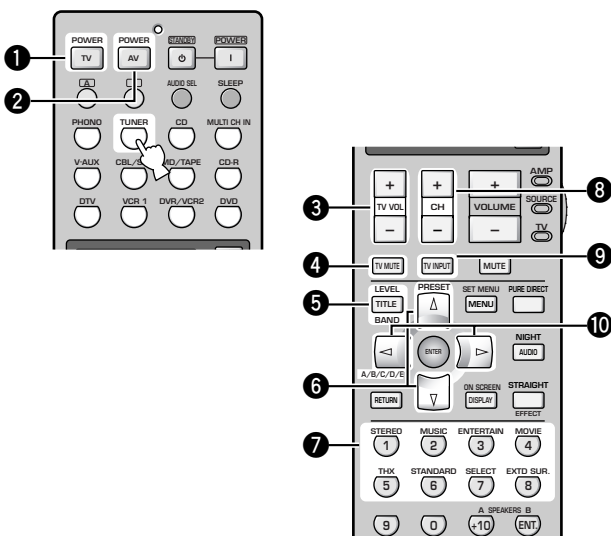
MDレコーダー

KENWOOD	0708		
ONKYO	0895		
SHARP	0888		
SONY	0517		
YAMAHA	2500	2501	2502

設定した機器を操作する

ご使用の機器のリモコンコードを設定すると、その機器を本機のリモコンで操作することができます。

- ご使用の機器によっては、いくつかのキーが機能しないことがあります。このような場合には、ラーニングをする(83ページ)か、もしくはご使用の機器に付属のリモコンをご使用ください。
- ご使用の機器によっては、キー操作と説明が一致しないことがあります。
- 本機以外の機器を操作する場合には、あらかじめリモコンコードを設定しておく必要があります。A、B、TUNER、CD、MULTI CH IN、MD/TAPE、CD-R、DVR/VCR2、DVDの各キーには、工場出荷時にヤマハリモコンコードが設定されていますが、動作しない場合は他のリモコンコードに設定しなおしてください。

FM/AMチューナーを操作する

入力選択キーのTUNERキーを押すとチューナーを操作できます。

操作例

❶ (テレビ)電源を入/切する

❷ 電源を入/切する

❸ (テレビ)音量を調節する

❹ (テレビ)消音する

❺ バンド(FM/AM)を切り替える

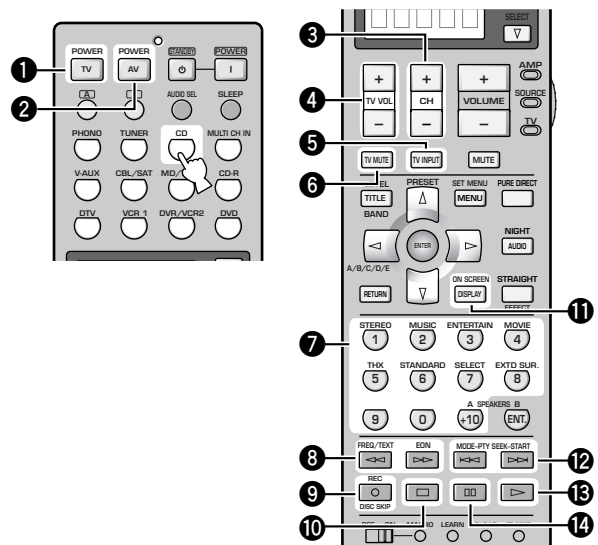
❻ プリセット番号を切り替える

❼ プリセット番号を直接指定する

❽ (テレビ)チャンネルを切り替える

❾ (テレビ)入力を切り替える

❿ プリセットグループ(A/B/C/D/E)を切り替える

CDプレーヤーを操作する

入力選択キーのCDキーを押すとCDプレーヤーを操作できます。

操作例

❶ (テレビ)電源を入/切する

❷ 電源を入/切する

❸ (テレビ)チャンネルを切り替える

❹ (テレビ)音量を調節する

❺ (テレビ)入力を切り替える

❻ (テレビ)消音する

❼ 数字を入力する

❽ 早送り/早戻しをする

❾ (CDチェンジャー)ディスクを選ぶ

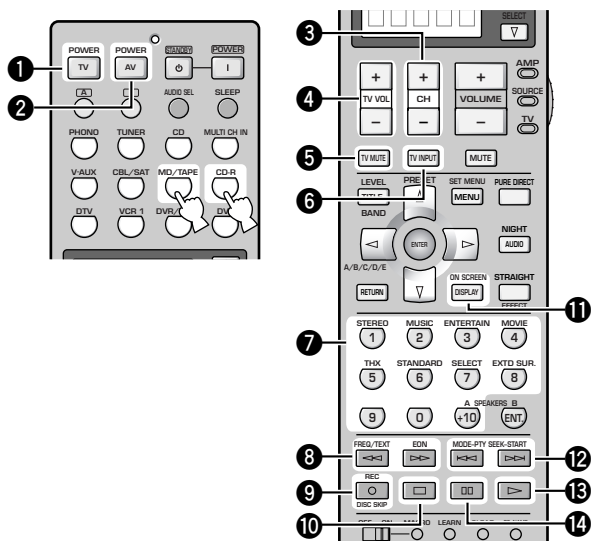
❿ 停止する

⓫ ディスプレイ表示を切り替える

⓬ 次/前の曲の頭出しをする

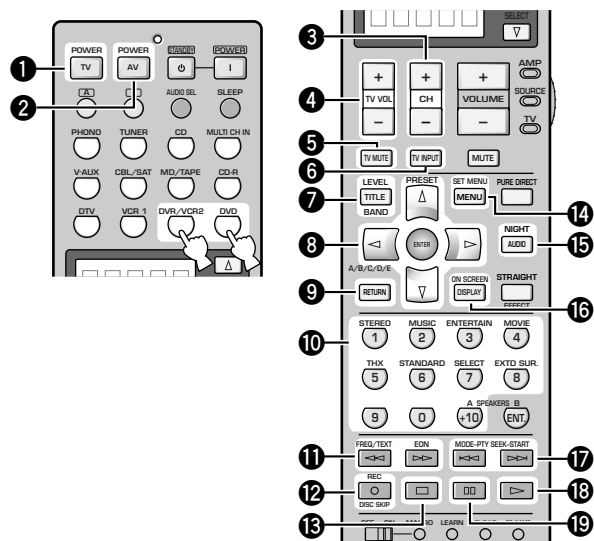
⓭ 再生を開始する

⓮ 再生を一時停止する

MDレコーダー/CDレコーダーを操作する

入力選択キーのMD/TAPEキーを押すとMDレコーダーを、CD-Rキーを押すとCDレコーダーを操作できます。

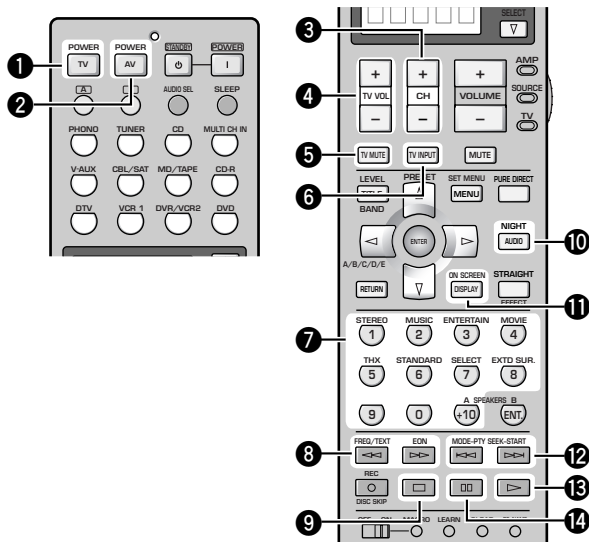
操作例

❶ (テレビ)電源を入/切する
❷ 電源を入/切する
❸ (テレビ)チャンネルを切り替える
❹ (テレビ)音量を調節する
❺ (テレビ)消音する
❻ (テレビ)入力を切り替える
❼ 数字を入力する
❽ 早送り/早戻しをする
❾ 録音を開始する
❿ 停止する
⓫ ディスプレイ表示を切り替える
⓬ 次/前の曲の頭出しをする
⓭ 再生を開始する
⓮ 再生/録音を一時停止する

DVDプレーヤー/DVDレコーダーを操作する

入力選択キーのDVDキーを押すとDVDプレーヤーを、DVR/VCR2キーを押すとDVDレコーダーを操作できます。

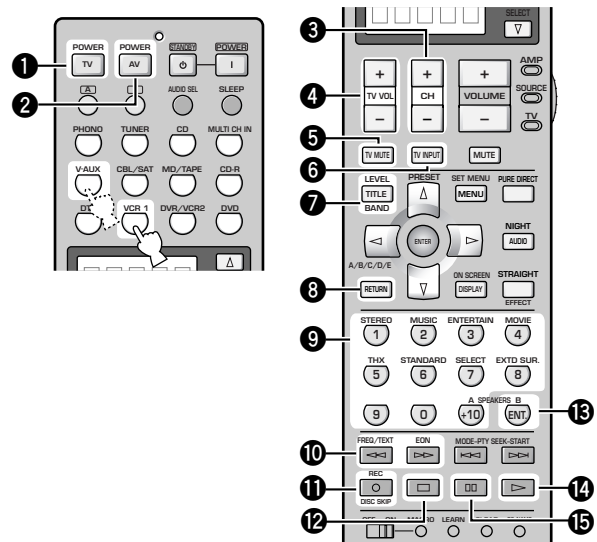
操作例

❶ (テレビ)電源を入/切する
❷ 電源を入/切する
❸ (テレビ)チャンネルを切り替える
❹ (テレビ)音量を調節する
❺ (テレビ)消音する
❻ (テレビ)入力を切り替える
❼ タイトルメニューを表示する
❽ メニュー項目を選択する/決定する
❾ 前の画面に戻る
❿ 数字を入力する
⓫ 早送り/早戻しをする
⓬ (DVDチェンジャー)ディスクを選ぶ
(DVDレコーダー)録画を開始する
⓭ 停止する
⓮ DVDメニューを表示する
⓯ オーディオメニューを表示する
⓰ ディスプレイ表示を切り替える
⓱ 次/前のチャプターの頭出しをする
⓲ 再生を開始する
⓳ 再生を一時停止する

LDプレーヤーを操作する

LDプレーヤーを接続した端子に対応するキーにライブラリー/リモコンコードを設定してから、そのキーを押すと、LDプレーヤーを操作できます。

操作例

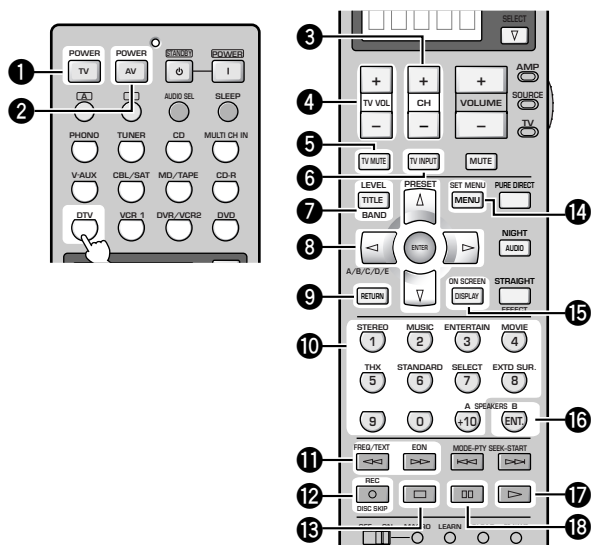
❶ (テレビ)電源を入/切する
❷ 電源を入/切する
❸ (テレビ)チャンネルを切り替える
❹ (テレビ)音量を調節する
❺ (テレビ)消音する
❻ (テレビ)入力を切り替える
❼ 数字を入力する
❽ 早送り/早戻しをする
❾ 停止する
❿ オーディオメニューを表示する
⓫ ディスプレイ表示を切り替える
⓬ 次/前のチャプターの頭出しをする
⓭ 再生を開始する
⓮ 再生を一時停止する

ビデオデッキを操作する

リモコンコードを設定してから、入力選択キーのV-AUXキーまたはVCR1キーを押すと、ビデオデッキを操作できます。

操作例

❶ (テレビ)電源を入/切する
❷ 電源を入/切する
❸ チャンネルを切り替える
❹ (テレビ)音量を調節する
❺ (テレビ)消音する
❻ (テレビ)入力を切り替える
❼ タイトルメニューを表示する
❽ 前の画面に戻る
❾ チャンネルを直接指定する
❿ 早送り/巻戻しをする
⓫ 録画を開始する(2回押すと録画を開始します)
⓬ 停止する
⓭ チャンネルを決定する
⓮ 再生を開始する
⓯ 再生/録画を一時停止する

ヒント

VCR1キーにビデオデッキのリモコンコードを設定している場合、テレビの操作モードで、VCR1に切り替えることなくビデオデッキを操作できます。

テレビを操作する

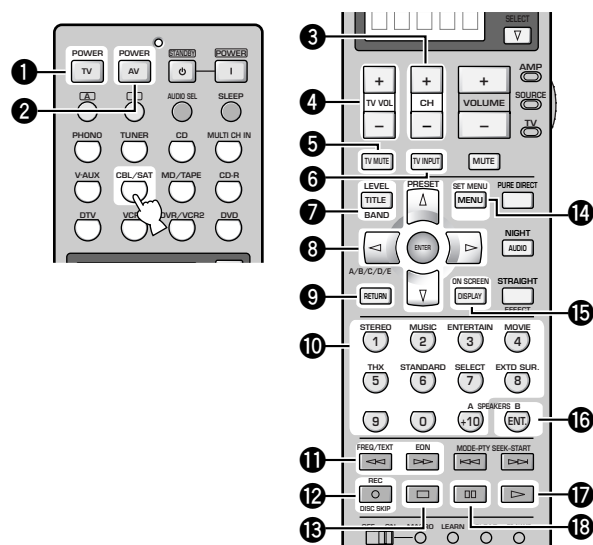
リモコンコードを設定してから、入力選択キーのDTVキーを押すと、テレビを操作できます。

操作例

❶ 電源を入/切する
❷ (ビデオ)電源を入/切する
❸ チャンネルを切り替える
❹ 音量を調節する
❺ 消音する
❻ 入力を切り替える
❼ タイトルを表示する
❽ メニュー項目を選択する/決定する
❾ 前の画面に戻る
❿ チャンネルを直接指定する
⓫ (ビデオ)早送り/巻戻しをする
⓬ (ビデオ)録画を開始する(2回押すと録画を開始します)
⓭ (ビデオ)再生/録画を停止する
⓮ メニューを表示する
⓯ ディスプレイ表示を切り替える
⓰ チャンネルを決定する/チャンネルを切り替える(12)
⓱ (ビデオ)再生を開始する
⓲ (ビデオ)再生/録画を一時停止する

ヒント

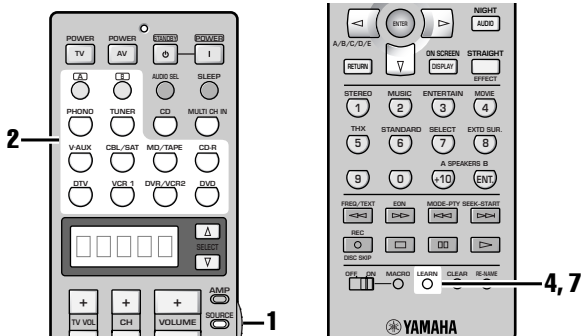
- DTVキーにテレビ以外の機器のリモコンコードを設定して操作する場合、PHONOキーにテレビのリモコンコードを設定することにより、他の機器の操作モードでもテレビを操作できます。
- DTVキーとPHONOキーの両方にリモコンコードを設定している場合、他の機器の操作モードではDTVキーに設定したリモコンコードが有効になります。

衛星放送チューナーを操作する

ライブラリー/リモコンコードを設定してから、入力選択キーのCBL/SATキーを押すと、衛星放送のチューナーを操作できます。

操作例

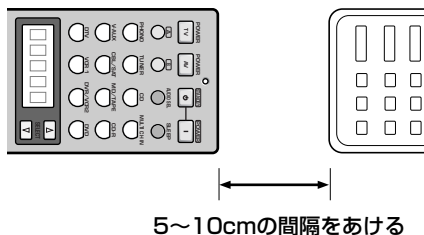
❶ (テレビ)電源を入/切する
❷ 電源を入/切する
❸ チャンネルを切り替える
❹ (テレビ)音量を調節する
❺ (テレビ)消音する
❻ (テレビ)入力を切り替える
❼ タイトル(トップメニュー)を表示する
❽ メニュー項目を選択する/決定する
❾ 前の画面に戻る
❿ チャンネルを直接指定する
⓫ (ビデオ)早送り/巻戻しをする
⓬ (ビデオ)録画を開始する(2回押すと録画を開始します)
⓭ (ビデオ)再生/録画を停止する
⓮ メニューを表示する
⓯ ディスプレイ表示を切り替える
⓰ チャンネルを決定する
⓱ (ビデオ)再生を開始する
⓲ (ビデオ)再生/録画を一時停止する

他の機器のリモコン機能を記憶させる(ラーニング)

リモコンコードを設定しても、お使いの機器を操作できない場合や、お使いの機器のリモコンコードがない場合は、その機器のリモコン信号を本機のリモコンに記憶(ラーニング)させることで、操作ができるようにします。入力選択した機器ごとに別の機能をラーニングさせることができます。

1 AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、SOURCEを選ぶ

2 操作したい機器の入力選択キーまたは A / B キーを押す

リモコンディスプレイに選んだ入力ソースの名前が表示されます。

3 本機のリモコンと、外部機器のリモコンを約5〜10cm離し、赤外線送受信部が互いに対向するように置く

5〜10cmの間隔をあける

4 LEARNボタンを押す

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「LEARN」と、選んだ入力ソースの名前が交互に表示されます。

ご注意

- LEARNボタンを3秒以上押すと、リモコンコード設定モードに切り替わります(74ページ)。
- 手順4以降の操作は、それぞれ操作後30秒以内に行ってください。そのままにしておくとラーニングが自動的に中止されます。この場合は、手順4から操作しなおしてください。

5 新しい機能をラーニングさせたい、本機のリモコンのキーを押す

リモコンディスプレイに「LEARN」と表示されます。

6 リモコンディスプレイに「OK」と表示されるまで、外部機器のリモコンのラーニングさせたい機能のキーを押し続ける

ご注意

- 「NG」と表示されたときは、ラーニングが正しく行われていません。手順5から操作をやりなおしてください。
- メモリー容量がいっぱいになっている場合は、リモコンディスプレイに「FULL」が表示され、それ以上のラーニングはできません。新しいラーニングをするときは、ラーニング済みのキーから不要なものを消去してください。

ヒント

- 別の機能をラーニングするには、続けて手順5〜6を繰り返します。
- 別の機器に機能をラーニングさせる場合は、SELECT∆/∇キーを押して機器を変更し、手順5〜6を繰り返します。

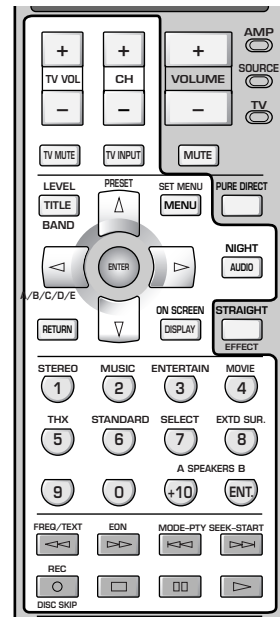
7 LEARNボタンを押して、ラーニングを終了する

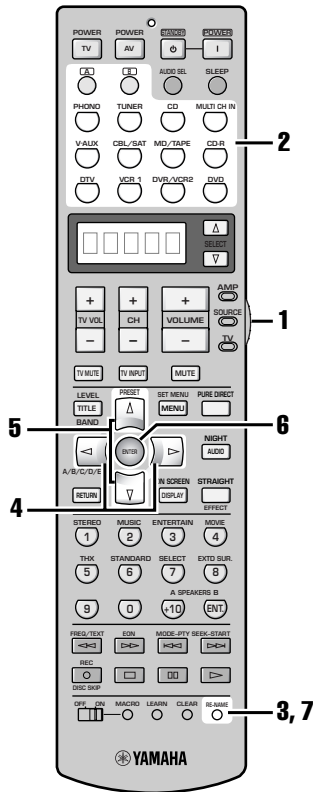
リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

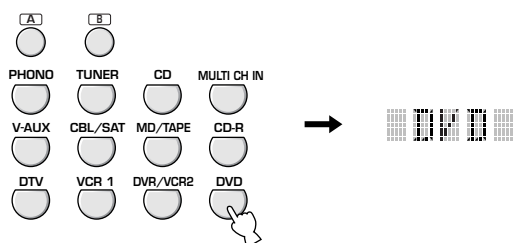
- 以下の場合は、ラーニングできないことがあります。
  - 本機のリモコンまたは外部機器のリモコンの乾電池が消耗している場合
  - 2台のリモコンの間隔が近すぎる、または離れすぎている場合
  - リモコンの受光部の角度が適切でない場合
  - リモコンに直射日光が当たっている場合
  - 特殊な信号や連続した信号の場合
- 手順で指定されたキー以外を操作したり、2つ以上のキーを同時に押したりすると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

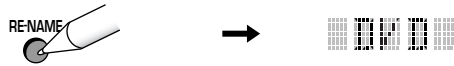
ラーニングに対応しているキー

下図の白色で示した部分のキーに、ラーニングすることができます。

リモコンに表示される機器の名前を変更する

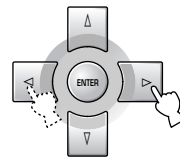
入力選択キーを押してリモコンのディスプレイに表示される機器名は、入力機器を接続した端子名に対応しています。端子名と異なった機器を本機に接続したときや、お使いのシステムに合ったわかりやすい名前をつけたいときなどに、リモコンに表示される機器名を変更することができます。

1 ***AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、AMPまたはSOURCEを選ぶ***

2 ***名前を変更したい機器の入力選択キーまたは A / B キーを押す***

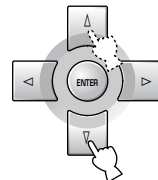
選択した入力ソースの名前がリモコンディスプレイに表示されます。

3 ***RE-NAMEボタンを押す***

ボールペンなど先の細いもので押します。左端の文字スペースが点滅します。

ご注意

手順3以降の操作はそれぞれ操作後30秒以内に行ってください。そのままにしておくと設定が自動的に中止されます。このような場合は手順3から操作しなおしてください。

4 ***◁/▷キーを押して、文字を入力したい位置にカーソルを移動する***

5 ***△/▽キーを押して、入力する文字を選ぶ***

入力できる文字は以下のとおりです。

- アルファベット大文字：A〜Z
- 数字：1〜9、0
- 記号：＋、－、：、/
- スペース（空白）

必要に応じて手順4と5を繰り返します。文字は最大5文字まで入力できます。

6 ***入力が完了したら、ENTERキーを押す***

名前が正しく変更されると、リモコンディスプレイに「OK」と表示されます。

ご注意

名前が正しく変更されなかった場合は、リモコンディスプレイに「NG」と表示されます。このような場合は手順3から設定をやりなおしてください。

7 ***RE-NAMEボタンを押して、名前の変更を終了する***

リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

手順で指定されたキー以外を操作したり、2つ以上のキーを同時に押したりすると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

マクロ機能を使う

マクロ機能とは、ソースを再生するときに行う一連のキー操作を1つのキーでできるようにする機能です。
たとえばCDを再生する場合、通常、(1)システムの電源を入れる→(2)入力ソースをCDに切り替える→(3)再生を開始する…などの操作が必要です。マクロ機能を使うと、マクロキーのCDキーを押すだけでこのような一連の操作を済ますことができます。
下のリストに表示されたマクロキーにはマクロ機能があらかじめ登録されていますが、オリジナルのマクロ操作を設定することもできます。

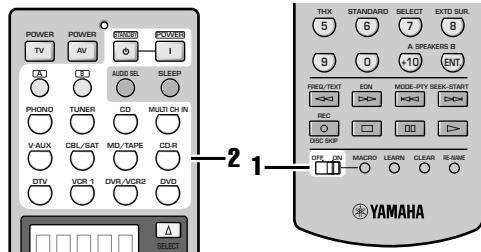
マクロキー	1番目	2番目	3番目
STANDBY	本機がスタンバイになる	—	—
SYSTEM POWER	本機の電源が入る(接続した機器の電源が入る)*1	テレビの電源が入る*2	—
A	—	—	—
B	—	—	—
PHONO	本機の電源が入る(接続した機器の電源が入る)*1	入力ソースの切り替え(PHONO)	—
TUNER		入力ソースの切り替え(TUNER)*3	—
CD		入力ソースの切り替え(CD)	CDの再生が始まる*4
MULTI CH IN		入力ソースの切り替え(MULTI CH IN)	—
V-AUX		入力ソースの切り替え(V-AUX)	—
CBL/SAT		入力ソースの切り替え(CBL/SAT)	—
MD/TAPE		入力ソースの切り替え(MD/TAPE)	MD/TAPEの再生が始まる*4
CD-R		入力ソースの切り替え(CD-R)	CD-Rの再生が始まる*4
DTV		入力ソースの切り替え(DTV)	—
VCR1		入力ソースの切り替え(VCR1)	VCR1の再生が始まる*4
DVR/VCR2		入力ソースの切り替え(DVR/VCR2)	DVR/VCR2の再生が始まる*4
DVD		入力ソースの切り替え(DVD)	DVDの再生が始まる*4

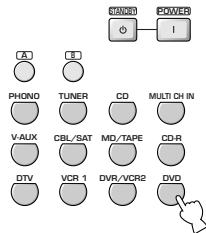
*1 本機に接続した機器の電源を本機に連動させて入れるには、接続機器の電源プラグを本機のACアウトレットに接続します(機器によっては電源の入/切が本機に連動しないものもあります。接続する機器の取扱説明書を参照してください)。

*2 DTVキーまたはPHONOキーにテレビのリモコンコードを設定した場合、入力ソースの切り替えなしでテレビの電源を入れることができます。DTVキーとPHONOキーの両方にテレビのリモコンコードを設定した場合は、DTVキーに設定したリモコンコードが優先されます。

*3 入力ソースがTUNERに切り替わると、本機のチューナーはスタンバイになる前に受信していた局を受信します。

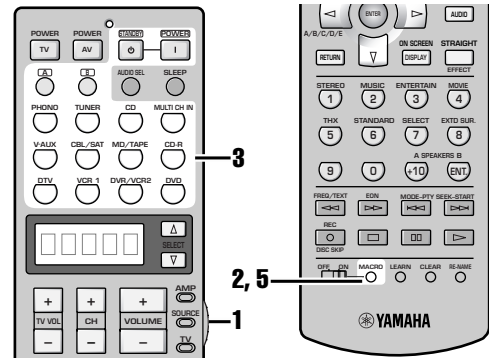
*4 初期設定では、ヤマハ製のMDレコーダー、CDプレーヤー、CDレコーダー、DVDプレーヤー、DVDレコーダーにのみ対応しています。これら以外の機器をマクロ操作する場合は、登録したい機器のライブラリーのPLAYキーにラーニング機能を割り当てる(83ページ)か、リモコンコードを設定する(74ページ)必要があります。

マクロ機能を使う

1 MACRO ON/OFFスイッチを「ON」に合わせる

2 希望のマクロキーを押す

ご注意

- マクロ操作が終わったら、MACRO ON/OFFスイッチを「OFF」に合わせてください。
- マクロ操作中は、すべてのマクロ信号の出力が終わるまで（トランスミッションインジケーターが消灯するまで）、他のキーの操作を受け付けません。
- マクロ操作中は、すべてのマクロ信号の出力が終わるまで、本リモコンの赤外線送受信部を、本体および操作する機器のリモコン受光窓の方向に向け続けてください。

マクロを設定する

オリジナルのマクロを設定します。

ご注意

- 新しいマクロを設定しても、工場出荷時に登録されているマクロは消去されません。新しく設定したマクロの内容を消去すると、工場出荷時に登録されているマクロを使うことができます。
- 工場出荷時に登録されているマクロに新しい信号を追加することはできません。マクロを設定すると、すべて新しい内容に変わります。
- マクロ設定は、本リモコンにラーニングや登録済み（またはヤマハプリセット）のキー信号をマクロキーに設定（転送）させて行います。必要に応じて、あらかじめ他の機器のキーをラーニングしておいてください。
- 音量の操作など、連続的に出力される信号は、本リモコンでは短時間のコードとして記憶されます。したがって、そのようなキーをマクロ設定に入れることはおすすめしません。

1 AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、AMPまたはSOURCEを選ぶ

2 MACROボタンを押す

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「MCR ?」と表示されます。

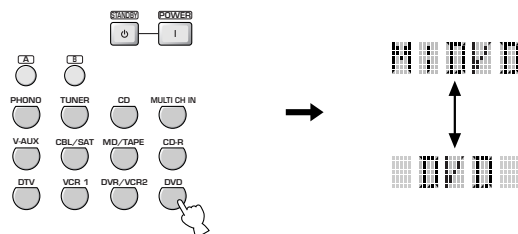
ご注意

手順2以降操作は、それぞれ操作後30秒以内に行ってください。そのままにしておくとマクロ設定が自動的に中止されます。この場合は、手順2から操作しなおしてください。

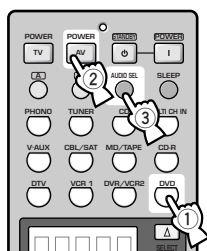
3 設定したいマクロキーを押す

リモコンディスプレイにマクロ設定するキーと、今選んだ入力ソースの名前が交互に表示されます。

例： DVDキーのマクロを設定する

「M：DVD」と「DVD」が交互に表示されます。

ご注意

マクロキー以外のキーを押すと、「AGAIN」と表示されます。

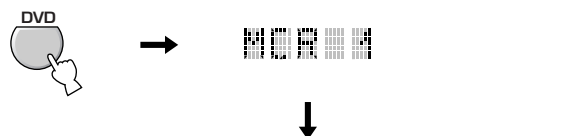
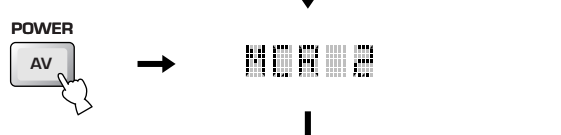
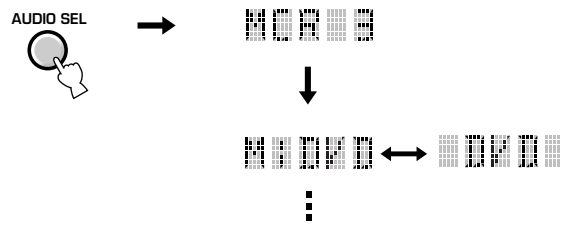
4 マクロの内容を設定する

① 入力をDVDに切り替える
② DVDプレーヤーの電源を入れる
③ 入力端子を設定する

上記1～3の操作を、DVDキーを押すだけでできるようにマクロ設定します。

ご注意

お使いの機器によっては、マクロ設定通りに作動しない場合があります。

リモコンディスプレイの表示が以下のように変わっていきます。

① DVDキーを押す

② POWERキーを押す

③ AUDIO SELキーを押す

最大10種類のキー信号を設定することができます。10個目のキー信号を設定すると「FULL」と表示され、マクロ設定が自動的に中止されます。

ご注意

機器を変更したいときは、入力選択キーやSELECT∆/∇キーで機器を選択しなおします。入力選択キーで機器を選択すると、本機の入力切り替えが一連のマクロ設定に組み込まれ、機器操作キーも入力機器に応じて切り替わります。SELECT∆/∇キーで機器を選択すると、入力ソースは変わらずに、機器操作キーは選択した機器に合わせて切り替わります。

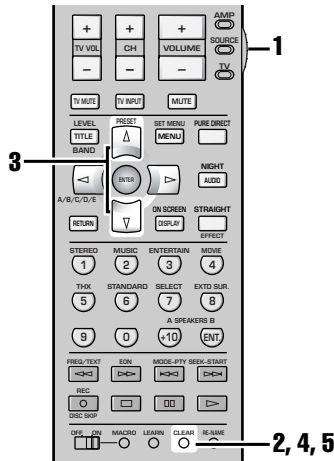
5 MACROボタンを押して、マクロ設定を終了する

リモコンが通常の状態に戻ります。

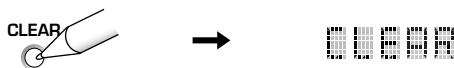
ご注意

手順で指定されたキー/スイッチ以外を操作したり2つ以上のキーを同時に押したりすると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

リモコンを初期化する

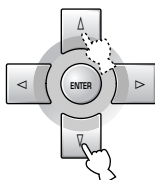
登録したライブラリーやマクロ操作、リモコンコードやラーニングした操作を取り消して、工場出荷時の設定に戻すことができます。

1 AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、AMPまたはSOURCEを選ぶ

2 CLEARボタンを押す

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「CLEAR」と表示されます。

→

ご注意

手順2以降の操作は、それぞれ操作後30秒以内に行ってください。そのままにしておくと消去が自動的に中止されます。この場合は、手順2から操作しなおしてください。

3 ∆/∇キーを押して、消去モードを選ぶ

消去モードは以下の6種類です。

L：(機器名)：	表示されている入力機器の操作キーにラーニングされた機能をすべて消去します。入力選択キー、またはSELECT∆/∇キーで消去する入力機器を選択してください。
L：AMP：	本機の操作キーにラーニングされた機能をすべて消去します。
L：ALL：	入力機器に関わらず、ラーニングされた機能をすべて消去します。
M：ALL：	マクロの設定をすべて工場出荷時の設定に戻します。
RNAME：	変更した入力ソースの名前をすべて工場出荷時の設定に戻します。
FCTRY：	リモコンコードを含む、すべてのリモコンの設定を工場出荷時の設定に戻します。

4 CLEARボタンを3秒以上押し続ける

リモコンディスプレイに「WAIT」と表示されます。手順3で選択した機能や設定が正しく消去されると「C：OK」と表示されます。

→

ご注意

- 正しく消去されなかった場合は、リモコンディスプレイに「C：NG」と表示されます。このような場合は手順3から消去をやりなおしてください。
- 「L：ALL」と「FCTRY」は、完了までに約30秒間かかります。

5 CLEARボタンを押して、消去を終了する

リモコンが通常の状態に戻ります。

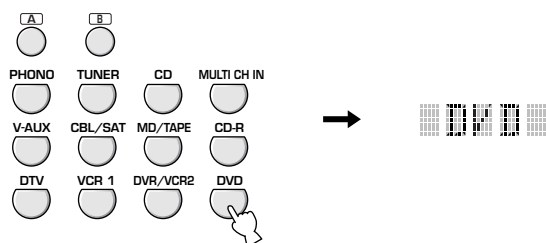
ご注意

手順で指定されたキー以外を操作したり、2つ以上のキーを同時に押したりすると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

ラーニングされた機能を消去する

ラーニングされた機能のうち、特定のキーに割り当てた機能だけを消去することができます。

1 AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、SOURCEを選ぶ

2 取り消したい機器の入力選択キーを押す

3 LEARNボタンを押す

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「LEARN」と選択した入力ソース名が交互に表示されます。

ご注意

- LEARNボタンを3秒以上押すと、リモコンコード設定モードに切り替わります。
- 手順3以降の操作は、それぞれ操作後30秒以内に行ってください。そのままにしておくと消去が自動的に中止されます。この場合は、手順3から操作しなおしてください。

4 CLEARボタンを押しながら、機能を消去したいキーを3秒以上押す

消去が正しく行われると、リモコンディスプレイに「C：OK」と表示されます。

引き続き消去したいキーがある場合は、「C：OK」の表示が消えてから、手順4の操作を繰り返してください。

ご注意

- 「C：NG」と表示されたときは、消去が正しく行われていません。もう一度CLEARボタンを押しながら、消去したいキーを押してください。
- 一度ラーニングされた機能を消去してしまうと、消去されたキーの機能は工場出荷時の状態（リモコンコードを設定している場合は設定した機器の機能）に戻ります。

ヒント

別の機器にラーニングした機能を消去する場合は、SELECT∆/∇キーを押して機器を変更し、手順4を繰り返します。

5 CLEARボタンを離して、クリアモードを終了する

リモコンがラーニングモードに戻ります。

6 LEARNボタンを押して、消去を終了する

リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

手順で指定されたキー以外を操作したり、2つ以上のキーを同時に押したりすると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は、手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

マクロに設定された機能を消去する

マクロに設定された機能のうち、特定のキーに割り当てた機能だけを消去することができます。

1 AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、AMPまたはSOURCEを選ぶ

2 MACROボタンを押す

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「MCR ?」と表示されます。

ご注意

手順2以降の操作は、それぞれ操作後30秒以内に行ってください。そのままにしておくと消去が自動的に中止されます。この場合は、手順2から操作しなおしてください。

3 CLEARボタンを押しながら、機能を消去したいキーを3秒以上押す

消去が正しく行われると、リモコンディスプレイに「C：OK」と表示されます。

引き続き消去したいキーがある場合は、「C：OK」の表示が消えてから、手順3の操作を繰り返してください。

ご注意

- 「C：NG」と表示されたときは、消去が正しく行われていません。もう一度CLEARボタンを押しながら、消去したいキーを押してください。
- 一度マクロに設定された機能を消去してしまうと、消去されたキーの機能は工場出荷時の状態（リモコンコードを設定している場合は設定した機器の機能）に戻ります。

4 CLEARボタンを離す

リモコンがマクロ設定モードに戻ります。

5 MACROボタンを押して、消去を終了する

リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

手順で指定されたキー以外を操作したり、2つ以上のキーを同時に押したりすると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は、手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

HDMI機器を活用する

本機は、HDMI端子を搭載しています。HDMI対応機器を接続すれば、2chリニアPCM信号やマルチチャンネルの圧縮オーディオ信号に加え、従来アナログでしか伝送できなかった、DVDオーディオなどのマルチチャンネル信号をデジタルのまま伝送することができます。

HDMIについて

HDMIとは、世界業界標準規格であるHDMI(High-Definition Multimedia Interface Specification)規格に準じた、次世代テレビ向けのデジタルインターフェースです。

- 本機は、HDMI Ver. 1.1に対応しており、HDMI対応機器をHDMIケーブル1本で接続すれば、DVD VIDEOなどのデジタルビデオ信号に加え、従来の2チャンネルのPCM信号や、マルチチャンネルの圧縮オーディオ信号、DVDオーディオ(マルチチャンネルPCM信号)などのマルチチャンネルオーディオ信号を、デジタルのまま伝送したり、本機で再生することができます。
- 著作権保護技術(HDCP: High-bandwidth Digital Content Protection System)に対応しているため、デジタルビデオ/オーディオ信号をデジタルのまま劣化させることなく伝送できます。

この機器のHDMIインターフェースは、以下の規格に基づいて設計されています。
High Definition Multimedia Interface Specification Version 1.1

接続には、19ピンのHDMIケーブルで、HDMIロゴのついているものをお使いください。また、長さ5.0m以下のものを使うことをおすすめします。

ご注意

- 本機はHDCPに対応していないHDMI機器またはDVI機器には対応していません。
- 本機をDVI端子のある機器に接続する場合は、HDMI端子 ⇔ DVI-D端子の変換ケーブルが必要です。
- 本機をスタンバイやオフにすると、本機のHDMI IN 1端子またはHDMI IN 2端子から入力された信号は、本機のHDMI OUT端子へリピートしません。
- HDMIで接続した機器を再生中に、本機のHDMI OUT端子に接続しているHDMI/DVI機器の電源をオン/オフしたり、HDMIケーブルを抜き差ししたりしないでください。音声が途切れたりノイズになったりすることがあります。

対応する音声信号フォーマットについて

本機の HDMI は以下の音声信号フォーマットに対応しています。

音声フォーマット	詳細	ディスク(例)
2チャンネル リニア PCM	2ch 32-192kHz 16/20/24bit	CD、DVD-Video、 DVD-Audio
マルチチャンネル リニア PCM	5.1ch 32-96kHz 16/20/24bit	DVD-Audio
ビットストリーム	ドルビーデジタル、 DTS、AAC	DVD-Video

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は下記の点をご確認ください。対処しても正常に動作しない場合や、下記以外で異常が認められた場合は、本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜いてからお買上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせください。

全般

症状	原因	対策	参照ページ
電源を入れてもすぐに切れてしまう	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードをACコンセントおよび本体AC IN端子にしっかりと差し込んでください。	—
	(再度電源を入れたときに、「CHECK SP WIRES!」と表示されるとき)スピーカーケーブルがショートした状態で電源を入れたため、保護回路により電源が切れた。	すべてのスピーカーケーブルが正しく接続されているか確認してください。	スタートアップ 18
	内部マイコンが外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	—
STANDBY/ONスイッチ(SYSTEM POWERキー)を押しても電源が入らない	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードをACコンセントおよび本体AC IN端子にしっかりと差し込んでください。	スタートアップ 32
	内部マイコンが外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	—
使用中に突然電源が切れる	機器内部の温度が上昇したため、保護回路が働き電源が切れた。	温度が下がるのを待って(約1時間程度)、電源を入れなおしてください。	—
	スリープタイマーが作動した。	電源を入れてソースを再生しなおしてください。	—
オンスクリーン表示が出ない	オンスクリーン表示の設定が表示オフになっている。	フル表示またはショート表示に設定してください。	スタートアップ 34
	セットメニュー「DISPLAY SET」の「GRAY BACK」を「OFF」に設定している。	映像信号が入力されていないときは、表示されません。常に表示させる場合は、「AUTO」に設定してください。	64
	セットメニュー「V CONV.」を「OFF」に設定している。	「ON」に設定してください。	64
	HDMI IN 1端子またはHDMI IN 2端子からの入力信号がHDMI OUT端子へ出力されている		—
	プログレッシブ方式の映像やハイビジョン映像が入力されている		—
音声や画像が出ない	再生機器がしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	スタートアップ 21~25
	スピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	スタートアップ18
	音を出すスピーカーが正しく選ばれていない。	SPEAKERS A/Bスイッチで、スピーカーを正しく選んでください。	スタートアップ 42
	再生したいソースが正しく選ばれていない。	INPUTセレクターやMULTI CH INPUTキーで、再生したいソースを正しく選んでください。	スタートアップ 41～47
	音量が小さい。	音量を大きくしてください。	スタートアップ44
	消音されている。	リモコンのMUTEキーまたはVOLUME＋/－キーを押して消音を解除し、音量を調節してください。	スタートアップ 44
	CD-ROMなど本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。	—
	HDMI接続時に音声を再生する機器が本機に設定されていない。	セットメニュー「HDMI SET」を、「DSP-AX1600」に設定してください。	59
	接続しているHDMI機器が著作権保護に対応していない。	著作権保護に対応した機器を接続してください。	—

症状	原因	対策	参照ページ
音声が突然出なくなる	消音された。	リモコンのMUTEキーまたはVOLUME＋/−キーを押して消音を解除し、音量を調節してください。	スタートアップ 44
片側のチャンネルの音声がほとんど出ない	再生機器やスピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。また、スピーカーケーブルが断線していないか確認してください。	スタートアップ 14〜31
エフェクトスピーカー（センター、サラウンドL/R、サラウンドバックL/R）から音声が出ない	音場効果をかけずに再生している。	STRAIGHT/EFFECTキーを押して、音場効果をかけて再生してください。	28
	再生するソースと音場プログラムの組み合わせによっては、音が出ないチャンネルがあります。	ほかの音場プログラムをお試しください。	18
センタースピーカーから音声が出ない	センタースピーカーの音量が絞られている。	センタースピーカーの音量を調節してください。	43
	セットメニュー「SPEAKER SET」の「CENTER SP」を、NONEに設定している。	お使いのセンタースピーカーに合わせて、「LRG」または「SML」に設定してください。	52
	HiFi DSP音場プログラムを選んでいる。	ほかの音場プログラムをお試しください。	—
サラウンドL/Rスピーカーから音声が出ない	サラウンドL/Rスピーカーの音量が小さい。	サラウンドL/Rスピーカーの音量を調節してください。	43
	セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. L/R SP」を、NONEに設定している。	お使いのサラウンドL/Rスピーカーに合わせて、「LRG」または「SML」に設定してください。	52
	ストレートデコードプログラムで、モノラルソースを再生している。	ほかの音場プログラムをお試しください。	18
サラウンドバックスピーカーから音声が出ない	サラウンドバックスピーカーの音量が小さい。	サラウンドバックスピーカーの音量を調節してください。	43
	セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. L/R SP」を、NONEに設定している。	「SUR. L/R SP」をNONEに設定すると、自動的に「SB L/R SP」もNONEに設定されます。「SUR. L/R SP」の設定を、「LRG」または「SML」に設定してください。	52
	セットメニュー「SPEAKER SET」の「SB L/R SP」を、NONEに設定している。	お使いのサラウンドバックスピーカーに合わせて、「LRG×2」、「LRG×1」、「SML×2」、「SML×1」のいずれかに設定してください。	53
サブウーファーから音声が出ない	セットメニュー「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」を「FRONT」に設定したまま、ドルビーデジタル、DTSおよびAAC信号を再生している。	「SWFR」または「BOTH」に設定してください。	52
	セットメニュー「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」を「SWFR」または「FRONT」に設定したまま、2チャンネル信号を再生している。	「BOTH」に設定してください。	52
	再生しているソースにLFEや低音信号が含まれていない。		—
	2チャンネルソースをピュアダイレクトモードで再生している場合は、サブウーファーから音が出ません。	PURE DIRECTキーを押して、ピュアダイレクトモードをオフにしてください。	27
ドルビーデジタルまたはDTSソフトの再生ができない（本機のディスプレイのドルビーデジタルまたはDTSインジケーターが点灯しない）	接続したプレーヤーなどの設定が「デジタル出力」かつ「ドルビーデジタルまたはDTS」に設定されていない。	お使いのプレーヤーの取扱説明書を参照し、正しく設定してください。	—
	入力モードをANALOGに設定している。	AUTOに設定してください。	42
低音の再生不良	セットメニュー「SPEAKER SET」の「CROSS OVER」が正しく設定されていない。	お使いのスピーカーシステムに合わせて正しく設定してください。	53
	セットメニュー「SPEAKER SET」の設定が、実際のスピーカーシステムの構成と一致していない。	お使いのスピーカーシステムに合わせて各スピーカーを正しく設定してください。	52

症状	原因	対策	参照ページ
ハム音が出る	ステレオピンケーブルがしっかり接続されていない。	ステレオピンケーブルをしっかり差し込んでください。	スタートアップ 21～30
	レコードプレーヤーのアースがSIGNAL GND端子に接続されていない。	アースコードを本機のSIGNAL GND端子に接続してください。	スタートアップ 25
レコードの再生音が小さい	MCカートリッジが装着されたレコードプレーヤーで再生している。	MCヘッドアンプまたはMCトランスを介してレコードプレーヤーを本機に接続してください。	スタートアップ 25
音量を上げることができない、または音が歪んでいる	本機のOUT（REC）端子に接続された機器の電源が入っていない。	AVアンプという製品ジャンルの特性上、OUT（REC）端子に接続している機器の電源が切れている場合に、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。本機に接続しているすべての機器の電源を入れてください。	—
サラウンドと音場効果を付加した音を録音できない	サラウンドと音場効果を付加した音は録音できません。		—
録音できない	デジタル録音時にアナログで信号を入力している。	デジタル接続をして、デジタルで信号を入力してください。	—
	本機と再生機器および録音機器がデジタル接続されていない。	デジタル接続をしてください。	スタートアップ 21～30
	アナログ録音時にデジタルで信号を入力している。	アナログ接続をして、アナログで信号を入力してください。	—
	本機と再生機器および録音機器がアナログ接続されていない。	アナログ接続をしてください。	スタートアップ 21～30
	録音機器によっては、ドルビーデジタル、DTSおよびAACなどのデジタルデータを録音できません。		—
音場プログラムパラメーターやセットメニューなどを変更できない	セットメニュー「MEMORY GUARD」を「ON」に設定している。	「OFF」に設定してください。	65
セットメニューなどの設定内容が消えている	1週間以上電源コンセントを抜いていたり、外部タイマーが切れたままになっていた。	1週間以上電源コンセントを抜いたままにしておくと、内蔵メモリの内容が消えてしまうことがあります。もう1度設定しなおしてください。	—
本機が正常に作動しない	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう1度差し込んでください。	—
本機に接続している機器にヘッドホンを接続して聴いていると、音が歪む	本機の電源がスタンバイになっている。	本機の電源を入れてください。	スタートアップ 33
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている	本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機をそれらの機器から離して設置してください。	—
本機のHDMI OUT端子にテレビを接続し、本機にマルチチャンネル信号を入力している場合に、テレビのスピーカーから音声が出ない	お使いのテレビにより、マルチチャンネル信号をテレビのスピーカーから出力できない場合があります。	お使いのプレーヤーの取扱説明書を参照し、マルチチャンネル信号を2チャンネルステレオ信号に変換してください。	—

FM/AM放送の受信

症状		原因	対策	参照ページ
プリセット選局ができない		プリセット(メモリー)が消えている。	1週間以上電源コンセントを抜いたままにしておくと、内蔵メモリの内容が消えてしまうことがあります。もう一度プリセットしてください。	29、30
FM	オート選局ができない	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	マニュアル選局をしてください。	スタートアップ46
			屋外アンテナを感度の良い多素子のものに変えてみてください。	—
	ステレオ放送になると雑音が多く聞きづらい	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	アンテナの接続を確認してください。	スタートアップ31
			屋外アンテナを感度の良い多素子のものに変えてください。	—
			マニュアル選局をしてください。	スタートアップ46
	FM専用アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感度が悪い	マルチパス(多重反射)などの妨害電波を受けている。	アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。	—
AM	オート選局ができない	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全。	AMループアンテナの方向を変えてください。	スタートアップ31
			マニュアル選局をしてください。	スタートアップ46
	「ジー」、「ザー」、「ガリガリ」などの雑音が入る	空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具の雑音を拾っている。	AM屋外アンテナを張り、アースを完全に取ると減少しますが、完全に除去するのは困難です。	—
	「ブンブン」、「ヒューヒュー」などの雑音が入る	本機の近くでテレビを使用している。	本機とテレビを離して設置してください。	—

リモコン

症状	原因	対策	参照ページ
リモコンで操作できない	リモコン操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光部から６ｍ以内、角度30°以内の範囲で操作してください。	スタートアップ 8
	受光部に日光や照明（インバーター蛍光灯やストロボライトなど）が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	—
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて交換してください。	スタートアップ7
	AMP/SOURCE/TVスイッチの設定が正しくない。	AMP/SOURCE/TVスイッチを正しく設定してください。	73
	リモコンのアンプ操作用ライブラリーコードと本体のアンプライブラリーコードとIDが一致していない。	ライブラリーコードまたはリモコンIDの設定を変更してください。	75
外部機器がリモコンで操作できない	操作する機器が選ばれていない。	入力選択キーを押して、操作したい機器を選ぶ。	72
	リモコンコードが正しく設定されていない。	リモコンコードを設定しなおすか、同じメーカーのコードの中から別のコードを設定してください。	74
	リモコンコードを正しく設定しても、メーカーまたは機器によっては操作できない場合があります。	リモコンコードで操作できない機能は、機器のリモコンから本機のリモコンに記憶（ラーニング）させてください。	83
リモコンが新しい機能を記憶（ラーニング）しない	本機のリモコンまたは他の機器のリモコンの電池が消耗している。	電池を交換してください。	スタートアップ 7
	２台のリモコン間の距離が離れすぎているか、近すぎる。	2台のリモコンを5〜10cmの距離に配置してください。	83
	他の機器のリモコンの信号コードと本機のリモコンとの互換性がない。	記憶（ラーニング）はできません。	—
	メモリ容量がいっぱいになっている。	ラーニングされている機能のうち、不要なものを消去してください。	90

音声フォーマット編

ドルビーサラウンド

ドルビーサラウンドは、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、フロントL/Rチャンネル(ステレオ音声)、会話などを再生するセンターチャンネル(モノラル音声)、効果音のサラウンドチャンネル(モノラル音声)の、アナログ4チャンネル方式を採用しています。サラウンドチャンネルの再生域は狭くなっています。
現在、ほとんどのソフトに普及している方式です。本機内蔵のドルビープロロジックデコーダーは、各チャンネルの音量を自動的に調整して安定させ、音の移動感や方向性を強調して、より正確なデジタル処理を行います。

ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロント3チャンネル(フロントL/R、センター)と、サラウンド2チャンネル(サラウンドL/R)、低音域専用のLFEチャンネルの合計5.1チャンネルで構成されます。
サラウンド2チャンネルがステレオで収録されているため、ドルビーサラウンドと比較して、音の移動感や周囲の環境音がより明確になります。全帯域の5チャンネルの幅広いダイナミックレンジと正確な音の定位によって、これまでにない迫力と現実感を再現できます。

ドルビーデジタルサラウンドEX

本機は5.1チャンネルのソースに、サラウンドバックチャンネルを加えて6.1チャンネル再生を可能にする、ドルビーデジタルサラウンドEXソフト対応のドルビーデジタルEXデコーダーを内蔵しています(サラウンドバックチャンネルはサラウンドLとサラウンドRチャンネルから作られます)。
ドルビーデジタルサラウンドEXで録音された映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。この追加チャンネルにより、特に飛び越えたり飛び回ったりといった動きのあるシーンで、よりダイナミックでリアルな動作音をお楽しみいただけます。

ドルビープロロジックⅡ

2チャンネルで記録された音声を信号処理し、優れた分離感を保ったまま5.1チャンネル音声に変換します。映画用のMovieモードと、音楽などのステレオソース用のMusicモード、ゲーム用のGameモードが用意されています。従来の2チャンネル音声(モノラル音声を除く)だけで記録された古い映画も、5.1チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

ドルビープロロジックⅡx

2チャンネルで記録された音声はもちろん、マルチチャンネルで記録された音声をも信号処理し、自然な7.1チャンネル音声をフルレンジで再生します。映画用のMovieモード、音楽用のMusicモード、ゲーム用のGameモードが用意されています。

AAC(アドバンスト・オーディオ・コーディング)

MPEG-2オーディオ規格の1つで、BS/地上波デジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で7チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。
本機はAACデコーダーを搭載しているので、BS/地上波デジタルチューナーで受信した番組の5.1チャンネル音声をデコード(復調)して再生できます。

DTS(デジタル・シアター・システムズ)デジタルサラウンド

DTSデジタルサラウンドは、アナログの映画音声に取って代わる5.1チャンネル方式のデジタルサウンドトラックとして開発された最新技術で、世界中の映画館に急速に普及しています。この技術を家庭用に調整したものが、本機で採用しているDTSシステムです。
極めて劣化が少なく、クリアな音質の6チャンネル(フロントL/R、センター、サラウンドL/Rチャンネル、サブウーファー用LFE0.1チャンネルを加えた5.1チャンネル)で構成されています。

DTS-ES

本機は5.1チャンネルのソースに、サラウンドバックチャンネルを加えて6.1チャンネル再生を可能にする、DTS-ESデコーダーを内蔵しています。5.1チャンネルの信号と独立して記録されたサラウンドバックチャンネル信号を再生する、ディスクリート方式と、サラウンドL/Rチャンネル信号からサラウンドバックチャンネル信号を生成して再生する、マトリクス方式の2つの方式に対応しています。
DTS-ESで録音された音楽や、映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。

DTS Neo：6

2チャンネル信号のソースを、サラウンドバックを含めた6チャンネルで再生できます。再生するソースに合わせて、音楽用のMusicモードと、映画用のCinemaモードが用意されています。すべてのチャンネルを全帯域で再生できるだけでなく、ディスクリート方式で記録されたソースのようなチャンネルの分離感を体感できます。

DTS 96/24

DTS 96/24フォーマットで収録されたソフトに記録されている、DTS信号の拡張用データを使用して「サンプリング周波数96kHz/量子化ビット数24ビット」の高音質での5.1チャンネル再生が可能です。

PCM(リニアPCM)

MP3形式やATRAC形式のようにアナログ音声信号を圧縮せずに、そのまま符号化して録音・伝送する方式です。
「PCM」は、パルス・コード・モジュレーションの略で、デジタル信号をパルスの符号にして変調記録するという意味です。
音楽CDや、DVDオーディオの録音方法などで採用されています。PCM方式では、非常に短く区切った単位時間あたりの信号の大きさを数値に置き換える(サンプリング)手法を用いています。

SRS CS Ⅱ (SRS Circle Surround Ⅱ)

SRS CS Ⅱ (SRS Circle Surround Ⅱ) は、6.1チャンネルマトリクス処理を行う高性能デコーディングシステムです。オリジナルのSRS Circle Surroundシステムの次の世代を担うこの技術により、セリフをより明瞭に再生したり、フロントチャンネルとサブウーファーから映画館さながらの低音を再生することができます。

音場プログラム編

サイレントシネマ

ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現するための、ヤマハ独自のシステムです。音場プログラムごとにヘッドホン用の設定値が用意されているため、自然で立体感あふれる音場プログラムをヘッドホンでもお楽しみいただけます。

シネマDSP(デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー)

ドルビーサラウンドやDTSのシステムは、本来映画館用に設計されているため、ご家庭では部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。
ヤマハシネマDSPは、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTSのシステムと組み合わせて音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

バーチャルシネマDSP

サラウンドL/Rスピーカーを設置していなくとも、仮想的にサラウンドL/Rスピーカーの音場を再現することで、音場プログラムを楽しめます。
センタースピーカーを設置できない場合でも、フロントL/Rスピーカーだけで、バーチャルシネマDSPをお楽しみいただけます。

THX

THXは、世界的に有名な映画制作会社であるルーカスフィルム社が開発した独自規格と技術を集約したものです。「映画館でも家庭でも、映画監督の思い描いたサウンドトラックをできる限り忠実に再現したい」という、ジョージ・ルーカス監督の情熱により開発されました。

THX Cinema processing

映画のサウンドトラックは、ダビングステージと呼ばれるミキシング専用の大型映画館で制作されます。これらのサウンドトラックは、同じ装置を備える映画館での上映のために制作されていますが、DVDなどに収録する際も、一切変更を加えず、そのまま収録されています。
THX Cinemaは、映画館向けのサウンドトラックを、映画館と家庭との空間的な違いによる音色の差を補正することで、一般家庭でも映画館と同等の臨場感で再生します。

- Adaptive Decorrelation(アダプティブ・デコリレーション)

映画館では、多数のサラウンドスピーカーが創り出す、包み込むようなサラウンドサウンドが体験できます。しかし、ホームシアターでは通常2本のスピーカーしか使われないため、空間的な広がりや、サラウンド感に欠けてしまったり、また近接したスピーカーにサラウンドサウンドを取り込まれてしまいます。アダプティブ・デコリレーションは、サラウンドチャンネル間の時間と位相を微妙に変化させることにより、2本のスピーカーだけを使って、映画館と同様の広がりがあるサウンドを再現します。

- Timbre Matching(ティンバー・マッチング)

人間の耳は、音の来る方向によって音の感じ方が変わります。映画館では、サラウンドスピーカーが聴衆を囲むように配置されているため、音が全方向から来ますが、ホームシアターでは、リスナーの両側2本のみが使われます。ティンバー・マッチングは、サラウンドスピーカーからの音を、フロントスピーカーの音の特性に合わせることで、フロントーサラウンド間の音のつながりをスムーズにし、広がりがあるサウンドを再現します。

- Re-Equalization(リ・イコライゼーション)

映画のサウンドトラックは、映画館での上映用に制作されているため、家庭用の機器で再生すると、明るすぎたり、うるさく聞こえてしまいます。リ・イコライゼーションは、このような映画のサウンドトラックを小型のホームシアターで、最適な音のバランスを再現して再生します。

THX Games Mode

THX Games Modeは、ステレオやマルチチャンネルで記録されたゲーム用オーディオ再生のためのモードです。このモードでは、THX ASA処理がアナログ、PCM、DTS、Dolby Digitalなどの、すべての5.1チャンネルや2チャンネルでエンコードされたゲームソースのサラウンド・チャンネルに適用されます。これにより、THX Games Modeでは、360度の再生環境を提供しながら、全てのゲームオーディオ・サラウンド情報を最適なチャンネルに振り分けて再生します。サラウンド音場のスムーズな音のトランジションがTHX Games Modeの特徴です。

THX MusicMode

THX MusicModeは、5.1チャンネルの音楽ソースを再生する場合に最適なサラウンドモードです。DTS、ドルビーデジタルなどで収録された5.1チャンネルの音楽ソースに対して、Advanced Speaker Arrayの処理をすることにより、広がりのある安定したサラウンド空間を再現します。

THX Select 2

THX Select2の認証を取得したホーム・シアター・コンポーネントは、いずれも一連の厳しい品質/性能試験に合格しています。このような製品にのみ付与されているTHX Select2のロゴは、ご購入いただいたホーム・シアター製品が、長期間にわたって卓越した性能を発揮することを保証するものです。THX Select2の要件には、パワーアンプ性能、プリアンプ性能、デジタル/アナログ空間での動作などをはじめとする、何百ものパラメータが定義されています。

THX Select 2 Cinema mode

THX Select2 Cinemaモードは、8つのスピーカーを使用して5.1チャンネル映画を上映するため、最高の鑑賞空間を実現します。このモードでは、ASA処理によってサイド・サラウンド・スピーカーとバック・サラウンド・スピーカーをブレンドするため、周りを取り囲む音と直線的に耳に届くサラウンド・サウンドを最適にミックスしています。

DTS-ES（マトリックスや6.1ディスクリート）やDolby Digital Surround EXでエンコードされたサウンドトラックは、適切なフラグがエンコードされた場合、Select2 Cinemaモードで自動的に認識されます。

一部のDolby Digital Surround EXサウンドトラックには、オート切換えを可能にするデジタル・フラグがついていないものがあります。ご覧になっている映画がSurround EXでエンコードされているのがお分かりの場合は、手動でTHX Surround EX再生モードに設定することができます。手動による設定をしない場合には、THX Select 2 Cinemaモードは、最適な再生を提供するためにASA処理を行います。

THX Surround EX

THX Surround EXは、ドルビーラボラトリーズとルーカスフィルム社THX部門の共同開発です。

映画館では、ドルビーデジタルサラウンドEX技術でエンコードされたサウンドトラックにより、ミキシング時に追加されたサラウンドバックチャンネルを再現することが可能です。従来のフロントL/R、センター、サラウンドL/R、サブウーファーという5.1チャンネルに、サラウンドバックチャンネルを加えることにより、後方部の広がり感をより緻密に再現し、音の定位感ももたらします。

THX Surround EXは、ドルビーデジタルサラウンドEX技術でエンコードされたサウンドトラックを、映画館で上映されたときの臨場感のまま、一般家庭で再生します。

ドルビーデジタルサラウンドEX技術を使って制作された映画は、DVDなどで市場で販売される際、そのパッケージに効果に関する説明を表示しているものがあります。ドルビーデジタルサラウンドEX技術を使って制作された映画の一覧、およびドルビーデジタルサラウンドEX技術を使ってエンコードされたDVDタイトルの一覧は、それぞれ下記のウェブサイトでご覧になれます。

映画一覧：http://www.dolby.com

DVDタイトル一覧：http://www.thx.com

Timbre Matching(ティンバー・マッチング)

人間の耳は、音の来る方向によって音の感じ方が変わります。映画館では、サラウンドスピーカーが聴衆を囲むように配置されているため、音が全方向から来ますが、ホームシアターでは、リスナーの両側2本のみが使われます。ティンバー・マッチングは、サラウンドスピーカーからの音を、フロントスピーカーの音の特性に合わせることで、フロント−サラウンド間の音のつながりをスムーズにし、広がりがあるサウンドを再現します。

Advanced Speaker Array (アドバンスト・スピーカー・アレイ)

最適なサラウンド空間を再現するために、2本のサラウンドスピーカーと2本のサラウンドバックスピーカーへ出力される音を処理する、THX独自の技術です。8つのスピーカー(フロントL、センター、フロントR、サラウンドR、サラウンドバックR、サラウンドバックL、サラウンドL、サブウーファー)でホームシアターシステムをセットアップしている場合に、2本のサラウンドバックスピーカーを近接して、部屋の前方に向かって設置することにより、最も広い視聴エリアを得ることができます。2本のサラウンドバックスピーカーを離して設置しなければならない場合は、「THXの設定」メニューで、実際のスピーカー配置に最も近い設定を選ぶ必要があります。これにより、サラウンド空間が最適化されます。

Advanced Speaker Arrayは、新しい3つのサラウンドモードであるTHX Select2 CinemaとTHX Music Mode,THX Games Modeで使用されます。

音声編

サンプリング周波数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1秒間にサンプリング(信号の大きさを数値に置き換えること)を行う回数をサンプリング周波数といいます。
再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がることになります。

量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、音の大きさを数値化するときのきめ細かさを量子化ビット数といいます。
音量の差を表わすダイナミックレンジは「量子化ビット数」で決まり、量子化ビット数が大きいほど音の大きさの変化をきめ細かく再現できることになります。

LFE(ロー・フリケンシー・エフェクト)0.1チャンネル

音声成分の帯域が20〜120Hzの、低音域専用チャンネルです。
ドルビーデジタルとDTS、AACで、全帯域用の5チャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているので、0.1と表現されます。

映像編

コンポジットビデオ信号

輝度を表すY信号と、色を表すC信号をひとつにまとめて伝送する方式です。テレビのNTSC信号などが採用しています。

コンポーネントビデオ信号

映像信号を、輝度を表すY信号と、色を表すPB/CB信号およびPR/CR信号の3系統に分けて伝送する方式です。それぞれの信号を独立して伝送するため、色をより忠実に再現できます。また、コンポーネントビデオ信号は、色を表わす信号から輝度を表わす信号を引いているので、色差信号とも呼ばれます。

D端子

最新のAV機器間での映像信号の伝送に用いられる端子で、コンポーネントビデオ信号とコントロール信号(走査線、アスペクト比、インターレース/プログレッシブの情報)を、一本の専用ケーブルで接続できます。その性能に応じてランクがD1からD5に分けられています。本機にはD5ビデオ端子が装備されており、D1からD5の規格に対応しています。

Sビデオ信号

映像信号を、輝度を表すY信号と、色を表すC信号に分けて伝送する方式です。S ビデオ端子で接続すると、より美しい映像で録画/再生をお楽しみいただけます。

インターレース

一画面の走査線を奇数段、偶数段にわけ、交互に表示する走査方式です。通常のテレビなどに使われています。

プログレッシブ

一画面すべての走査線を、一度に表示する走査方式です。走査線をわけて交互に表示するインターレース方式に比べ、ちらつきの少ない、滑らかな映像を映し出すことができます。

主な仕様

オーディオ部

定格出力(6Ω、20Hz～20kHz、0.06% THD)
- フロントL/R .... 120W+120W
- センター 120W
- サラウンドL/R .... 120W+120W
- サラウンドバックL/R .... 120W+120W

実用最大出力(EIAJ、6Ω、1kHz、10% THD)
- フロントL/R .... 170W+170W
- センター 170W
- サラウンドL/R .... 170W+170W
- サラウンドバックL/R .... 170W+170W

ダンピングファクター(8Ω、20Hz～20kHz)
- フロントL/R 140以上

入力感度/インピーダンス
- PHONO(MM) 3.5mV/47kΩ
- CD他 200mV/47kΩ
- MULTI CH INPUT 200mV/47kΩ

最大許容入力
- PHONO(MM)(1kHz、0.1% THD) 60mV以上
- CD他(1kHz、0.5% THD) 2.4V以上

出力電圧/インピーダンス
- RECOUT 200mV/1.2kΩ
- PREOUT 1.0V/500Ω
- SUBWOOFER 2.0V/500Ω

ヘッドホン出力/インピーダンス 150mV/100Ω

周波数特性
- CD他(PURE DIRECT時)－フロントL/R .... 10Hz～100kHz、－3.0dB

全高調波歪率(20Hz～20kHz)
- PHONO(MM)－RECOUT(1V) 0.02%以下
- CD他－フロントSP OUT(60W/8Ω) 0.04%以下

S/N比(IHF-Aネットワーク、入力ショート)
- PHONO(MM)(2.5mV入力)－SP OUT 80dB以上
- CD他(250mV入力)－SP OUT 100dB以上

残留ノイズ(IHF-Aネットワーク)
- フロントSP OUT 150μV以下

チャンネルセパレーション(1kHz/10kHz)
- PHONO(入力ショート) 60dB以上/55dB以上
- CD他(5.1kΩターミネート) 60dB以上/45dB以上

トーンコントロール
- BASS .... ±6dB/50Hz
- TREBLE .... ±6dB/20kHz

ゾーン2/ゾーン3トーンコントロール
- BASS .... ±10dB/100Hz
- TREBLE .... ±10dB/20kHz

A/Dコンバーター
- デルタシグマ方式96kHz対応24ビットA/Dコンバーター

D/Aコンバーター
- デルタシグマ方式192kHz対応24ビットD/Aコンバーター

ビデオ部

ビデオ信号方式(グレーバック) .... NTSC

ビデオ信号方式(ビデオコンバージョン) .... NTSC/PAL

コンポジットビデオ信号レベル 1Vp-p/75Ω

Sビデオ信号レベル
- Y 1Vp-p/75Ω
- C 0.286Vp-p/75Ω

コンポーネントビデオ信号レベル
- Y 1Vp-p/75Ω
- P_B、P_R 0.7Vp-p/75Ω

ビデオ最大許容入力(V CONV. OFF) 1.5Vp-p以上

S/N比(V CONV. OFF) 60dB以上

周波数帯域(MONITOR OUT)
- COMPONENT VIDEO(V CONV. OFF) .... 5Hz～100MHz、±3dB
- D5 VIDEO .... 5Hz～100MHz、±3dB

FMチューナー部

受信周波数 .... 76.0MHz～90.0MHz

実用感度(IHF) .... 1.0μV(11.2dBf)

S/N比(IHF)
- モノ 76dB
- ステレオ 70dB

歪率(1kHz)
- モノ 0.2%
- ステレオ 0.3%

ステレオセパレーション(1kHz) 42dB

周波数特性 .... 20Hz～15kHz、+0.5/－2dB

AMチューナー部

受信周波数 .... 531kHz～1611kHz

実用感度 300μV/m

総合

電源電圧 .... AC100V、50/60Hz

消費電力 450W

待機時消費電力 0.1W以下

ACアウトレット(電源スイッチ連動×2) 合計100W

寸法(幅×高さ×奥行き) .... 435×171×438mm

質量 17.4kg

＊ 仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。
JIS C 61000-3-2適合品とは、日本工業規格「電磁両立性第3-2部：限度値ー高調波電流発生限度値(1相当たりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

索引

(S):「スタートアップガイド」をご覧ください。
(取):「取扱説明書」(本書)をご覧ください。

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ラ行

A、B、C、D、E、F

G、H、I、J、K、L

M、N、O、P、Q、R

S、T、U、V、W、X、Y、Z

数字、記号

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハオーディオ＆ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/audio/

■ お客様ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 市内通話料金でOK ナビダイヤル 0570-01-1808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

FAX (053) 460-3459
〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：10:00～12:00、13:00～18:00

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ電気音響製品修理受付センター

ナビダイヤル（全国共通） 市内通話料金でOK ナビダイヤル 0570-012-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

FAX (053) 463-1127

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：月～金曜日 9:00～19:00　土曜日 9:00～17:30

修理お持ち込み窓口
受 付 日：月～金曜日（祝日および弊社の休業日を除く）
受付時間：9:00～17:45

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

浜松 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内
FAX (053)462-9244

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪 〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● 保証期間
お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み

技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ･リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

愛情点検

こんな症状はありませんか？

- 電源コード･プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常･故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検･修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中沢町10-1